

第五部 長崎ニ於ケル原子爆弾災害ノ統計的觀察 (抄録)

はじめに

「長崎に於ける原子爆弾災害の統計的觀察」の原本コピーと原子爆弾災害調査表は調来助教より放射線影響研究所に寄贈され、現存する。

原子爆弾災害調査報告(都築正男 昭和二十二年三月三十一日)の末尾に原子爆弾災害調査報告目録が付録としてあり、長崎医科大学の項の2に長崎医科大学(調来助)・長崎市原子爆弾災害調査統計資料とある。おそらくこの資料の一部であるまいか。

一九五三年に発行された原子爆弾災害調査報告集にはこの資料は全く載っていない。長崎医科大学より政府に提出された後、GHQで機密扱いとなり公表されなかったものと思われる。

調教授は御退官後、昭和五十七年十一月に吉澤康雄氏と共著で出版された長崎原爆体験―医師の証言―(東京大学出版会)にこの資料を載せられた。

東京大学出版会の許可をいただき右著より資料の全てを転載した。

(相川忠臣記)

第一編 原子爆弾ニヨル死亡率ニ就テ

長崎医科大学外科第一教室 教授 調来助

副手 藤井浩

副手 石丸允正

副手 佐藤武正

緒言

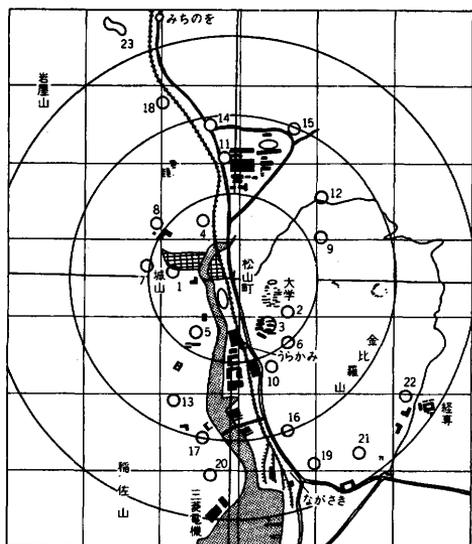
昭和二十年八月九日、長崎ヲ襲ツタ原子爆弾ハ一撃ニシテ幾多ノ人命ヲ奪ヒ或ハ傷ツケタガ、此際果シテ幾何ノ人員ガ死亡シタカ、又其死亡率ハ幾%ニ相当スルカ。此等ハ原子爆弾災害ノ医学的研究上極めて重要ナルニモ拘ラズ、今日モ尚、確實ナル報告ニ接シナイ。

依ツテ余等ハ、昭和二十年十月ヨリ十二月ニ至ル三ヶ月間ニ亘ツテ下記ノ方法ヲ用ヒ、地区毎ニ小範圍ノ罹災状況ヲ精密ニ調査シ、之ヲ基本トシテ爆心ヨリノ距離ト死亡率トノ関係、性及年齢ト死亡率トノ関係、被爆時ノ環境ト死亡率トノ関係、外傷ノ種類ト死亡率トノ関係等ニツキ統計的觀察ヲ試ミルコトトシタ。

調査方法

各地区ヲ訪問シ、隣保班ノ状況ヲヨク知ツテキル者ヲ探シテ隣保班員ノ空襲前後ノ動静ヲ訊問シ、不在者ヲ除キ当時其地ニ実在シタモノノミニツキ、性、年齢、被爆時ノ居所、受傷ノ状況、受傷後ノ経過、転帰等ヲ詳細ニ調査シタ。一隣保班ノ人数少キ場合ハ隣接スル隣保班モ同様ニ調査シ、一地区ノ実在人員ガ五十人内外ニ達スル様ニ心懸ケ

第一図 爆心地ヨリノ距離ヲ示ス



タ。ソレハ各地区間ノ統計上ノ誤差ヲ可及的少クスル
 タメデアル。

第一章 爆心ヨリノ距離ト死亡率

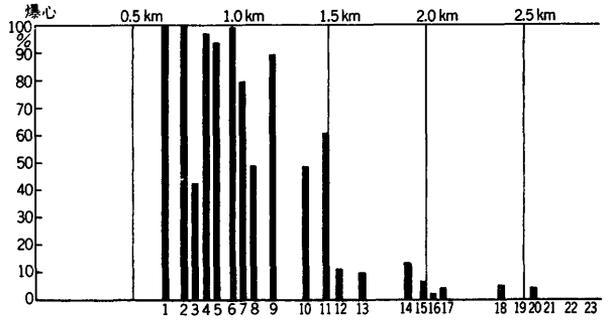
爆心ヨリノ距離ハ便宜上、地上爆心ヨリノ距離ヲア
 メリカ軍使用ノ地図ニヨツテ計測シタ。

調査シタ地域ハ下図ニ示ス通りデ、爆心カラ種々ノ
 距離ニ巨ル様心掛ケタ。総計二十三地域ニ巨リ、一五
 ○二人ニ就イテ調査シタ結果ハ、第一表ニ示ス通りデ
 アル。第二図ハ爆心地ヨリノ距離ト死亡率ヲ示ス図
 デアル。

第一表

地区 番号	地区名	爆心ヨリノ 距離 (km)	居住者数 (実在者)	死亡者数	死亡率 (%)
1	城山町(1)	0.7	25	25	100.0
2	坂本町(1)	0.8	51	51	100.0
3	大学病院	0.8	331	140	42.3
4	西町	0.8	67	65	97.0
5	竹ノ久保(1)	0.8	45	42	93.3
6	坂本町(2)	1.0	49	48	98.0
7	城山町(2)	1.1	48	38	79.2
8	市立商業裏	1.1	55	27	49.1
9	高尾町	1.2	48	43	89.6
10	目覚町	1.4	45	22	48.9
11	家野町	1.5	40	24	60.0
12	本原二丁目	1.6	53	6	11.3
13	竹ノ久保(2)	1.7	90	9	10.0
14	住吉町	1.9	63	8	12.7
15	昭和町	2.0	46	3	6.5
16	御船蔵町	2.0	52	1	1.9
17	稲佐三丁目	2.0	70	2	2.9
18	西北郷	2.4	65	3	4.6
19	西坂町	2.5	49	0	0
20	稲佐二丁目	2.6	54	2	3.7
21	立山町	2.6	43	0	0
22	西山町	2.8	42	0	0
23	岩屋町	3.5	71	0	0
	合計		1,502	559	37.2

第二図



第一表及第二図カラ次ノ様ナコトガ云ヘルト思フ。

(1) 爆心カラ一km以内ハ死亡率ガ殆ド一〇〇%ニ近イ。

(2) 爆心カラ一・五km離レタ所デハ死亡率ガ五〇%内外デ、一・六km

以上ハ急ニ低下シテキル。

(3) 本来ナラバ死亡率ノ曲線ハ下記ノ第三図ノ如ク次第二漸減スル直

線ヲ描ク筈デアルノニ、長崎ノ場合ハ第四図ノ如キ曲線ヲ現ハシテキル。

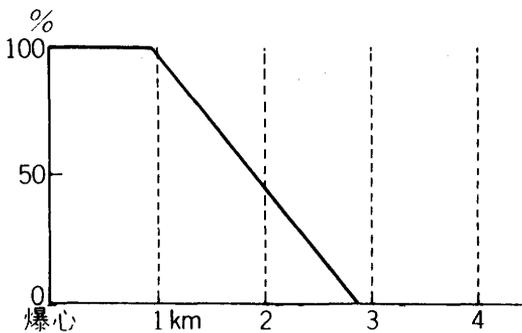
(4) 而モ其曲線ニ著シイ凹凸ガアル。大学病院ノ如キハ一〇〇%ニ近

ク死亡率ノ間ニ挾マレナガラ四二・三%ニシカ達シナイ。市立商

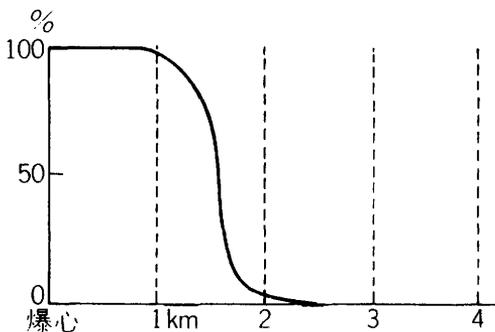
業裏(油木谷)モ同様デアアル。之ニ反シテ、高尾町及家野町ハ死

亡率ガ少シ高過ギル様ニ思ハレル。前者ノ場合ハ「コンクリート」

第三図



第四図



(6)

(5)

建ノ中ニ居タト云フ環境ノ差ニヨルモノデアリ、後者ノ場合ハ地形ノ然ラシムル所デアツテ、高尾町モ家野町モ余等ノ調査シタ隣保班ハ後ニ山ヲ背負ツタ中腹ニアツテ、真正面ニ爆心地ヲ見下シタ様ナ所ニアツタ。

長崎ニハ山ガ多イタメ、被害ノ同位曲線ハ爆心ヲ中心トスル円ヲ描カナイデ寧ロ南北ヲ長軸トスル楕円ヲ描イテキル。ソレハ東西カラ山ガ迫リ、南北ニ向ツテ開ケテキルタメデアルト思ハレル。聞ク所ニヨレバ、広島デハ死亡率ガ一kmカラ激減スルサウデアアルガ、長崎デハ一・五kmカラ激減シテキルノハ、爆彈ノ種類即チ威力ニ相違ガアルタメデアリナイダラウカ。

第二章 性ト死亡率

第一表カラハ、次ノ様ナコトガ考ヘラレル。

(1) 地区番号七、十、十四ヲ除キ他ハ凡テ男ガ女ヨリモ死亡率ガ高ク、合計ニ於テモ一・二%ノ相違ヲ示シテ居ル。

(2) 其理由ハ、(イ)女ガ男ヨリモ抵抗力ガ大デアアルタメカ、(ロ)男ガ女ヨリモ外傷ヲ受ケ易イト云フ一般原則ニ從ツテ男ノ方ガ原子爆彈ノ影響ヲ余計ニ蒙ツタタメデアアルカ、(ハ)被爆後ニ女ハ安静ヲ保ツタガ男ハ大イニ活動シタタメデアアルカ。尚外ニモ考ヘラレル因子ガアルカモ知レナイガ、理由ハ判然シナイ。

(3) 地区番号四、五、六、九ニ於テハ同ジ様ナ爆撃ヲ受ケナガラ、女ノ方ガ一々数人助カツテキルノハ興味アルコトト思フ。

第二表

地区番号	地区名	爆心ノ距離	男			女		
			居住者数	死亡者数	死亡率	居住者数	死亡者数	死亡率
1	城山町(1)	0.7	10	10	100.0	15	15	100.0
2	坂本町(1)	0.8	18	18	100.0	33	33	100.0
3	大学病院	0.8	83	38	45.8	248	102	41.1
4	西町	0.8	28	28	100.0	39	37	94.9
5	竹ノ久保(1)	0.8	13	13	100.0	32	29	90.6
6	坂本町(2)	1.0	14	14	100.0	35	34	97.1
7	城山町(2)	1.1	21	14	66.7	27	24	88.9
8	市立商業裏	1.1	18	9	50.0	37	18	48.7
9	高尾町	1.2	17	17	100.0	31	26	83.9
10	目覚町	1.4	14	6	42.9	31	16	51.6
11	家野町	1.5	12	9	75.0	28	15	53.6
12	本原二丁目	1.6	13	2	15.4	40	4	10.0
13	竹ノ久保(2)	1.7	33	6	18.2	57	3	5.3
14	住吉町	1.9	21	2	9.5	42	6	14.3
15	昭和町	2.0	19	2	10.5	27	1	3.7
16	御船蔵町	2.0	23	1	4.3	29	0	0
17	稲佐三丁目	2.0	26	0	0	44	2	4.5
18	西北郷	2.4	26	3	11.5	39	0	0
19	西坂町	2.5	22	0	0	27	0	0
20	稲佐二丁目	2.6	20	1	5.0	34	1	2.9
21	立山町	2.6	13	0	0	30	0	0
22	西山町	2.8	10	0	0	32	0	0
23	岩屋町	3.5	34	0	0	37	0	0
合計			508	193	38.0	994	336	36.8

第三章 年齢ト死亡率

第三表デハ先ツ成人ト小兒トニ大別シテ死亡率ヲ調査シタ。小兒ハ勿論十五歳未満デアル。所ガ全体トシテハ成人ヨリモ小兒ノ方ガ死亡率ガ低イ結果トナツタ。然シコノ事ハ各地区ノ実地調査ヲ行ツタ我々ノ既成観念トハ相反スルモノデアル。例ヘバ地区番号四、六ニ於テハ成人ハ数名助カッタニ拘ラズ小兒ハ全部死亡シ、十五、十六、十八ニ於テハ成人ハ全部助カッタニ拘ラズ小兒デハ数名ノ死亡者ヲ出シテ居リ、十四ノ住吉町デハ成人死亡率ガ三・一ナルニ反シ小兒デハ二二・六ノ高率デアル。コレヲ綜合スルト小兒ノ方ガ死亡率ガ大デナケレバナラヌ筈デアル。依ツテ今兩者ノ条件ヲ一致サセルタメニ大学病院ヲ除外シテミタ。スルト成人ノ場合ハ居住者数六五二、死亡者数二二八トナリ、死亡率ハ三五・〇%トナツタ。即チ小兒ノ場合ヨリモ低率トナル。コレガ事実ニ近イモノデアラウト思フ。

更ニ年齢ヲ細カク分割シ、爆心ヨリノ距離モ考慮ニ入レテ統計ヲトルト第四表ノ如クナル。

第四表デハ年齢ヲ、十歳、十一、二十、二十一、三十、三十一、四十、四十一、五十、五十一、六十、六十一、七十ニ分け、距離ヲ、一・〇km、一・一・五km、一・五、一・五、二・〇km、二・〇、二・〇、二・五kmノ四ツニ分ケテ比較スルコトトシタ。コノ表カラハ凡ソ次ノ様ナコトガ云ヘルト思フ。

第三表

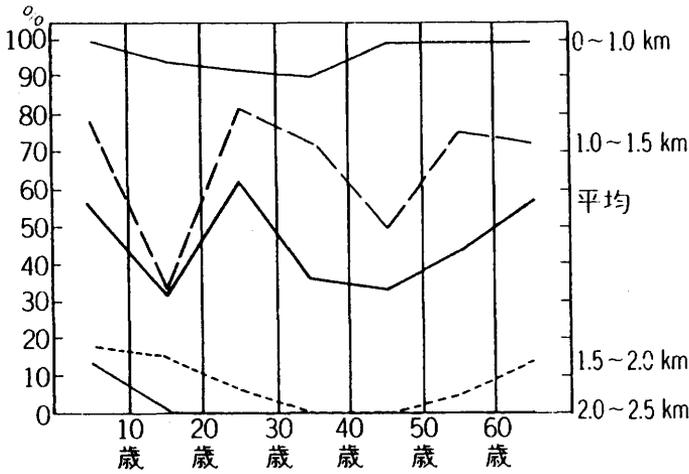
地区番号	地区名	爆心ヨリ距離	成人			小兒		
			居住者数	死亡者数	死亡率	居住者数	死亡者数	死亡率
1	城山町(1)	0.7	14	14	100.0	11	11	100.0
2	坂本町(1)	0.8	34	34	100.0	17	17	100.0
3	大学病院	0.8	331	140	42.3	0	0	0
4	西町	0.8	28	26	92.9	39	39	100.0
5	竹ノ久保(1)	0.8	23	22	95.7	22	20	90.9
6	坂本町(2)	1.0	24	23	95.8	25	25	100.0
7	城山町(2)	1.1	30	24	80.0	18	14	77.8
8	市立商業裏	1.1	32	18	56.2	23	9	39.1
9	高尾町	1.2	32	29	90.6	16	14	87.5
10	目覚町	1.4	27	14	51.9	18	8	44.4
11	家野町	1.5	21	12	57.1	19	12	63.1
12	本原二丁目	1.6	33	4	12.1	20	2	10.0
13	竹ノ久保(2)	1.7	57	4	7.0	33	5	15.2
14	住吉町	1.9	32	1	3.1	31	7	22.6
15	昭和町	2.0	20	0	0	26	3	11.5
16	御船蔵町	2.0	29	0	0	23	1	4.4
17	稲佐三丁目	2.0	45	2	4.4	25	0	0
18	西北郷	2.4	29	0	0	36	3	8.3
19	西坂町	2.5	19	0	0	30	0	0
20	稲佐二丁目	2.6	29	1	3.5	25	1	4.0
21	立山町	2.6	33	0	0	10	0	0
22	西山町	2.8	24	0	0	18	0	0
23	岩屋町	3.5	37	0	0	34	0	0
合計			983	368	37.4	519	191	36.8

第四表 年齢ト死亡率 (2)

爆心ヨリノ 距離	地区名		～10 歳	11～20	21～30	31～40	41～50	51～60	61～	計
0～1.0 km	西町	生	0	0	1	1	0	0	0	2
		死	28	13	6	6	5	2	5	65
	死亡率	100.0	100.0	85.7	85.7	100.0	100.0	100.0	100.0	97.0
坂本町(2)	生	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	死	21	6	6	3	2	4	6	6	48
死亡率	100.0	85.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	98.0
計	生	0	1	1	1	0	0	0	0	3
死	49	19	12	9	7	6	11	113		
死亡率	100.0	95.0	92.3	90.0	100.0	100.0	100.0	100.0	97.4	
1.0～1.5 km	高尾町	生	1	1	1	1	1	0	0	5
		死	10	5	9	4	4	8	3	43
	死亡率	90.9	83.3	90.0	80.0	80.0	100.0	100.0	89.6	
	家野町	生	1	8	1	2	2	1	1	16
死		10	2	3	2	1	3	3	24	
死亡率	90.9	20.0	75.0	50.0	33.3	75.0	75.0	60.0		
目覚町	生	5	6	2	0	5	3	2	23	
	死	7	1	6	2	3	1	2	22	
死亡率	58.3	14.3	75.0	100.0	37.5	25.0	50.0	48.9		
計	生	7	15	4	3	8	4	3	44	
死	27	8	18	8	8	12	8	89		
死亡率	79.4	34.8	81.8	72.7	50.0	75.0	72.7	66.9		
1.5～2.0 km	住吉町	生	18	10	5	6	7	5	4	55
		死	5	2	0	0	0	0	1	8
	死亡率	21.7	16.7	0	0	0	0	20.0	12.7	
本原二丁目	生	13	10	6	4	3	9	2	47	
	死	2	2	1	0	0	1	0	6	
死亡率	13.3	16.7	14.3	0	0	10.0	0	11.3		
計	生	31	20	11	10	10	14	6	102	
死	7	4	1	0	0	1	1	14		
死亡率	18.4	16.7	8.3	0	0	6.7	14.3	12.1		
2.0～2.5 km	昭和町	生	13	13	1	8	6	1	1	43
		死	3	0	0	0	0	0	0	3
		死亡率	18.8	0	0	0	0	0	0	6.5
	西北郷	生	20	18	1	6	6	6	5	62
		死	3	0	0	0	0	0	0	3
	死亡率	13.0	0	0	0	0	0	0	4.6	
計	生	33	31	2	14	12	7	6	105	
死	6	0	0	0	0	0	0	6		
死亡率	15.4	0	0	0	0	0	0	5.4		

- (1) 各地区共二十歳未満ノ幼児ガ最モ死亡率ガ大デアル。
- (2) 一般ニ死亡率ハ幼児ト老人ニ高ク、青壯年者ニ低イ様デアル(第五図参照)。
- (3) 但シ一・〇〜一・五kmニ於テ二十一〜三十歳ノモノガ偶然ニモ高イ死亡率ヲ示スタメ平均ニ於テモコレ丈ガ例外トナツテキル。
一・五km以上デハ急ニ死亡率ガ低下スル。

第五図



第四章 被爆時ノ環境ト死亡率

被爆時ノ居所ヲ屋外(開放)、屋外(陰)、屋内(木造)、屋内(コンクリート)、壕内ノ五種ニ分ケ、ソレゾレノ死亡率比較シタ。更ニ此際爆心ヨリノ距離モ考慮ニ入レルコトトシタ。其結果ハ第五表ニ示ス通りデアル。

第五表 被爆時居所ト死亡率

爆心ヨリノ 距離	地区名		屋外 (開放)	屋外 (陰)	屋内 (木造)	屋内 (コンクリート)	壕内	計
～1.0 km	西町	生	0	1	1	0	0	2
		死	21	2	40	0	2	65
		死亡率	100.0	66.7	97.6	0	100.0	97.0
～1.0 km	坂本町(2)	生	0	0	1	0	0	1
		死	6	0	42	0	0	48
		死亡率	100.0	0	97.7	0	0	98.0
～1.0 km	計	生	0	1	2	0	0	3
		死	27	2	82	0	2	113
		死亡率	100.0	66.7	97.6	0	100.0	97.4
1.0～1.5 km	高尾町	生	0	0	5	0	0	5
		死	21	1	21	0	0	43
		死亡率	100.0	100.0	80.8	0	0	89.6
	1.0～1.5 km	家野町	生	2	3	11	0	0
死			8	1	14	0	1	24
死亡率			80.0	25.0	56.0	0	100.0	60.0
1.0～1.5 km	目覚町	生	0	0	17	0	6	23
		死	6	0	16	0	0	22
		死亡率	100.0	0	48.5	0	0	48.9
1.0～1.5 km	計	生	2	3	33	0	6	44
		死	35	2	51	0	1	89
		死亡率	94.6	40.0	60.7	0	14.3	66.9
1.5～2.0 km	住吉町	生	7	0	48	0	0	55
		死	8	0	0	0	0	8
		死亡率	53.3	0	0	0	0	12.7
1.5～2.0 km	本原二丁目	生	5	6	36	0	0	47
		死	5	0	1	0	0	6
		死亡率	50.0	0	2.8	0	0	11.3
1.5～2.0 km	計	生	12	6	84	0	0	102
		死	13	0	1	0	0	14
		死亡率	52.0	0	1.2	0	0	12.1
2.0～2.5 km	昭和町	生	9	9	24	0	1	43
		死	2	0	1	0	0	3
		死亡率	18.2	0	4.0	0	0	6.5
2.0～2.5 km	西北郷	生	11	11	32	0	8	62
		死	2	0	1	0	0	3
		死亡率	15.4	0	3.1	0	0	4.6
2.0～2.5 km	計	生	20	20	56	0	9	105
		死	4	0	2	0	0	6
		死亡率	16.7	0	3.4	0	0	5.4

第五表デハ次ノ様ナコトガ判ル。

- (1) 一・〇 km以内デハ殆ド全部ガ死亡シ、唯屋外陰（石橋ノ下デ洗濯中ノ女）ト木造家屋内（仏壇ノ掃除中ノ女中）ニ於テ一人宛助カッタノミデアル。壕内（完全ナ横穴壕デハナイ）デモ死亡シテ居ル。
- (2) 一・〇 km以外デハ死亡率ノ順序ガ屋外（開放）、屋内（木造）、屋外（陰）、壕内ノ順トナツテ居ル。一・五 kmヲ越エレバ屋外ノ陰モ壕内モ死亡者ハナイコトトナツテキルガ、コレハ小区域ノ調査デアルカラ絶対的ノモノデハナイ。
- (3) 「コンクリート」建屋内ノ死亡率ハ本表デハ不明デアルガ、コレハ第一表ニ於テ、大学病院ト、同距離ニアル坂本町(1)、西町、竹ノ久保(1)等ヲ比較スレバ「コンクリート」屋内ノ死亡率ガ遙カニ低イコトガ判ル。

第五章 損傷ノ種類ト死亡率

損傷ノ種類ヲ熱傷、外傷、熱傷兼外傷、無傷ト二分ケタガ、尚其他ニ路上デ即死シタモノ、倒壊家屋ノ下敷トナツテ即死シタモノ、及ビ下敷トナツテ其俣焼死シタモノ等ガアルノデ、コレヲ即死ノ部ニ入レタ。爆心ヨリノ距離ハ矢張り、一・〇 km、一・〇〜一・五 km、一・五〜二・〇 km、二・〇〜二・五 kmノ四ツ二分ケ、地区ハ前ト同ジモノニツキ比較スルコトトシタ。

第六表ノ結果ハ、凡ソ次ノ通りデアル。

- (1) 即死者ハ一・五 km以内ニノミ存シ、一・五 km以上ノ所ニハナイ。
- (2) 死亡率デハ熱傷兼外傷ガ最も高イ。
- (3) 熱傷ト外傷トヲ比較スルト、熱傷ノ方ガ死亡率ガ大デアル。
- (4) 無傷ノモノモ一・〇 km以内デハ殆ド死亡シ、一・〇〜一・五 kmデハ約半数ガ死亡シテキル。一・五 km以上デハ死亡者ハナイ。
- (5) 熱傷モ二・〇 kmヲ越スト殆ド死ナナイ。昭和町デモ西北郷デモ火傷ニヨル死亡ハ皆十歳以下ノ小児デアッタ。
- (6) 外傷モ一・五 km以上デハ殆ド死亡者ヲ見ナイ。昭和町ニ於ケル一例ハ五歳ノ幼児デアッタ。

第六表 損傷ノ種類ト死亡率

爆心ヨリノ 距 離	地 区 名		即 死 (下敷 焼死)	熱 傷	外 傷	熱 傷 及 外 傷	無 傷	計
~1.0 km	西 町	生	0	0	1	0	1	2
		死	15	21	18	5	6	65
		死亡率	100.0	100.0	94.7	100.0	85.7	97.0
坂本町(2)	生	0	1	0	0	0	1	
	死	17	8	13	0	10	48	
	死亡率	100.0	88.9	100.0	0	100.0	98.0	
計	生	0	1	1	0	1	3	
	死	32	29	31	5	16	113	
	死亡率	100.0	96.7	96.9	100.0	94.1	97.4	
1.0~1.5 km	高尾町	生	0	0	0	1	4	5
		死	9	18	5	0	11	43
		死亡率	100.0	100.0	100.0	0	73.3	89.6
	家野町	生	0	7	6	1	2	16
死		14	8	0	0	2	24	
死亡率		100.0	53.3	0	0	50.0	60.0	
目覚町	生	0	2	12	0	9	23	
	死	7	9	2	0	4	22	
	死亡率	100.0	81.8	14.3	0	30.8	48.9	
計	生	0	9	18	1	15	44	
	死	30	35	7	0	17	89	
	死亡率	100.0	79.5	28.0	0	53.1	66.9	
1.5~2.0 km	住吉町	生	0	13	5	1	36	55
		死	0	8	0	0	0	8
		死亡率	0	38.1	0	0	0	12.7
	本原二丁目	生	0	9	6	0	32	47
死		0	5	0	1	0	6	
死亡率		0	35.7	0	100.0	0	11.3	
計	生	0	22	11	1	68	102	
	死	0	13	0	1	0	14	
	死亡率	0	37.1	0	50.0	0	12.1	
2.0~2.5 km	昭和町	生	0	10	10	0	23	43
		死	0	2	1	0	0	3
		死亡率	0	16.7	9.1	0	0	6.5
	西北郷	生	0	13	9	0	40	62
		死	0	3	0	0	0	3
死亡率		0	18.8	0	0	0	4.6	
計	生	0	23	19	0	63	105	
	死	0	5	1	0	0	6	
	死亡率	0	17.9	5.0	0	0	5.4	

第二編 受傷者ノ死亡時期ニ就テ

長崎医科大学外科第一教室 教授 調 来 助 (長崎)

副 手 須 山 弘 文 (大村)

同 外科第二教室 講 師 龜 井 照 見 (時津)

川棚共済病院 外科 医学博士 赤 羽 格 (川棚)

同 久保田 正

緒 言

余ハ原子爆彈受傷者ノ実地診療ニ当リ、受傷後一週間前後ニ死亡スルモノノ甚ダ多イノヲ經驗シテ少ナカラズ興味ヲ覚エタ。勿論爆心ヨリノ距離、被爆時ノ環境等ニヨリ死亡ノ時期モ区々デアルベキ筈デアルガ、一応総括的ニ調査スルコトモ無意義デハナイト考へ、次記ノ如ク、余等ガ長崎ニ於テ調査シタ原子爆彈死亡者及大村海軍病院、川棚共済病院、時津国民学校、時津萬行寺等ニ收容サレタ患者中ノ死亡者ニツキ、其死亡時期ヲ調査觀察スルコトトシタ。

調査分担

1. 長崎ニ於ケル死亡調査…次編ニ述ブルガ如ク、余及長崎医科大学 学生、生徒数十名ガ戸別訪問ニヨツテ調査シタ受傷者中ノ死亡者ニツキ、余ガ統計的ニ之ヲ檢索シタ。
2. 大村海軍病院ノモノ…須山学士ガ調査シタ。
3. 川棚共済病院ノモノ…赤羽博士及久保田医員ガ調査シタ。
4. 時津国民学校ノモノ…龜井博士ガ調査シタ。
5. 時津萬行寺ノモノ…龜井博士ノ調査ニヨル。

第一章 原子爆彈受傷者ノ死亡時期

前記ノ五收容所ニ於ケル死亡者ヲ日々ニ計上スルト第一表ノ如クナリ。各收容所ノモノヲ図表デ示スト、第一図乃至第五図ノ如クナル。余等ノ調査例ト大村海軍病院ノ例トハ男女ニ區別シタガ、他ハ男女ヲ一緒ニシタ総死亡数ヲ表ハス。

調査成績ヲ考察スルト、凡ソ次ノ様ナコトガ云ヘルト思フ。

- (1) 余等ノ調査例 十七/VII(八月十七日)ノ死亡者が最も多く、之ヲ中心ニシテ一ツノ拋物線即チ山ヲ描ク。其後ハ不規則ナリ伏ヲ示シ、漸次下降シテ約一ヶ月乃至五週間後ニハ殆ド死亡者ガナクナル。尚ヨク見ルト、十/VIIIヲ中心トスル小サナ山ガアルノニ氣附ク(第一図)。
- (2) 大村海軍病院調査例 (1)トハ反対ニ、十一/VIIIヲ中心トスル大キナ山ト、十六/VIIIヲ中心トスル小サナ山トガアル。其後ハ不規則トナツテ約五週間後ニハ零トナル(第二図)。
- (3) 川棚共済病院調査例 (2)ト同ジク十/VIIIヲ頂上トスル大キナ山ト、十七/VIIIヲ頂上トスル小サナ山ガアリ、一時途絶エテ約四週間後ニ又小サナ山ガ見エル様デアアル(第三図)。
- (4) 時津国民学校調査例 短時日間ノ調査デハアルガ、十六/VIIIヲ中心ニシテ大キナ拋物線ヲ描イテ居ル(第四図)。
- (5) 時津萬行寺調査例 十/VIIIヲ中心トスル小サナ山ト、十五/VIIIヲ中心トスル大キナ山トガアル。(1)ニ似テキル(第五図)。

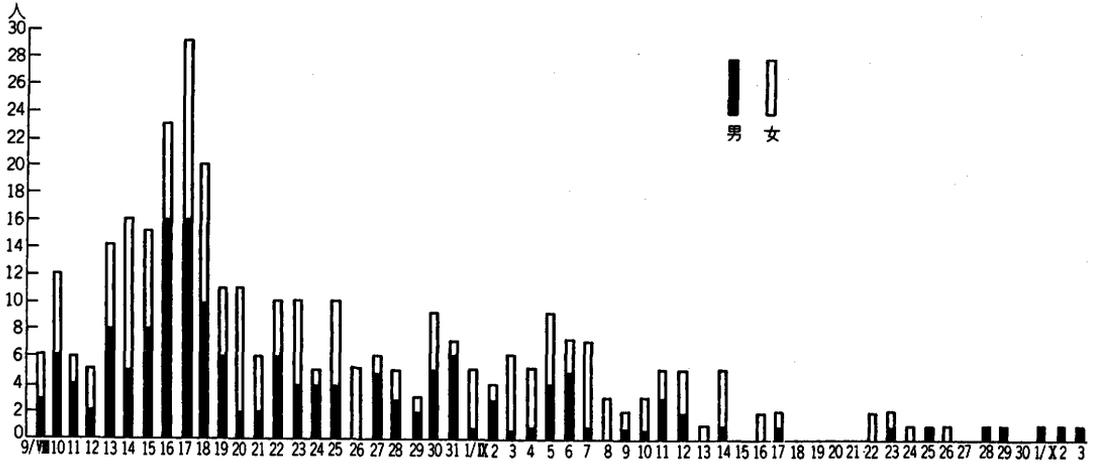
	近距離輸送				遠距離輸送		
	長崎市内	時津国民学校	時津萬行寺	計	大村	川棚	計
8月 9日	6	0	1	7	3	0	3
10	12	1	4	17	13	15	28
11	6	7	1	14	21	10	31
12	5	13	0	18	13	3	16
13	14	18	1	33	8	2	10
14	16	15	2	33	3	1	4
15	15	16	10	41	6	3	9
16	23	39	4	66	14	5	19
17	29	31	1	61	5	6	11
18	20	30	1	51	5	4	9
19	11	13		24	4	1	5
20	11	11		22	11	2	13
21	6			6	5	0	5
22	10			10	7	1	8
23	10			10	1	1	2
24	5			5	1	0	1
25	10			10	6	0	6
26	5			5	6	0	6
27	6			6	3	0	3
28	5			5	6	0	6
29	3			3	5	0	5
30	9			9	0	2	2
31	7			7	3	3	6
9月 1日	5			5	1	0	1
2	4			4	5	1	6
3	6			6	1	0	1
4	5			5	1	1	2
5	9			9	0	3	3
6	7			7	1	2	3
7	7			7	0	1	1
8	3			3	3	1	4
9	2			2	1	0	1
10	3			3	1	0	1
11	5			5	1	1	2
12	5			5	0	1	1
13	1			1	1	0	1
14	5			5	1	0	1
15	0			0	0	0	0
16	2			2	0	0	0
17	2			2	1	0	1
18	0			0	0	0	0
19	0			0	0	0	0

	近距離輸送				遠距離輸送		
	長崎市内	時津国民学校	時津萬行寺	計	大村	川棚	計
9月20日	0			0	0	0	0
21	0			0	0	0	0
22	2			2	0	0	0
23	2			2	0	0	0
24	1			1	0	1	1
25	1			1	0	0	0
26	1			1	0	1	1
27	0			0	0	0	0
28	1			1	0	0	0
29	1			1	0	0	0
30	0			0	1	0	1
10月1日	1			1	0		0
2	1			1	0		0
3	1			1	0		0
4	0			0	0		0
5	0			0	0		0
6	0			0	0		0
7	0			0	1		1
8	1			1	0		0
9	0			0	0		0
10	1			1	1		1
11	0			0	0		0
12	0			0	0		0
13	0			0	0		0
14	1			1	0		0
15	1			1	2		2
16	0			0	0		0
17	0			0	0		0
18	1			1	1		1
19	0			0	0		0
20	0			0	0		0
21	0			0	0		0
22	0			0	0		0
23	1			1	0		0
24	0			0	0		0
25	0			0	0		0
26	0			0	0		0
27	0			0	0		0
計	333	194	25	552	173	72	245

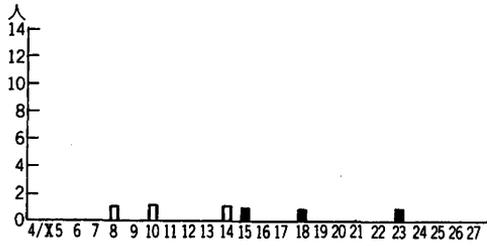
第一表

調査資料 曆日	余等ガ長崎ニテ 調査セル死亡者			大村海軍病院ニ収容セ ラレタル患者中ノ死亡者			川棚共済病 院ニ収容セ ラレタル患者 中ノ死亡者	時津国民学 校ニ収容セラ レタル患者 中ノ死亡者	時津萬行寺 ニ収容セラ レタル患者 中ノ死亡者
	男	女	計	男	女	計			
8月9日	3	3	6	3	0	3	0	0	1
10	6	6	12	9	4	13	15	1	4
11	4	2	6	18	3	21	10	7	1
12	2	3	5	12	1	13	3	13	0
13	8	6	14	7	1	8	2	18	1
14	5	11	16	2	1	3	1	15	2
15	8	7	15	4	2	6	3	16	10
16	16	7	23	8	6	14	5	39	4
17	16	13	29	3	2	5	6	31	1
18	10	10	20	2	3	5	4	30	1
19	6	5	11	2	2	4	1	13	
20	2	9	11	6	5	11	2	11	
21	2	4	6	4	1	5	0		
22	6	4	10	4	3	7	1		
23	4	6	10	1	0	1	1	收容所閉鎖	收容所閉鎖
24	4	1	5	0	1	1	0		
25	4	6	10	5	1	6	0		
26	0	5	5	1	5	6	0		
27	5	1	6	1	2	3	0		
28	3	2	5	4	2	6	0		
29	2	1	3	2	3	5	0		
30	5	4	9	0	0	0	2		
31	6	1	7	3	0	3	3		
9月1日	1	4	5	1	0	1	0		
2	3	1	4	3	2	5	1		
3	1	5	6	1	0	1	0		
4	1	4	5	0	1	1	1		
5	4	5	9	0	0	0	3		
6	5	2	7	0	1	1	2		
7	1	6	7	0	0	0	1		
8	0	3	3	2	1	3	1		
9	1	1	2	1	0	1	0		
10	1	2	3	0	1	1	0		
11	3	2	5	0	1	1	1		
12	2	3	5	0	0	0	1		
13	1	0	1	1	0	1	0		
14	1	4	5	1	0	1	0		
15	0	0	0	0	0	0	0		
16	2	0	2	0	0	0	0		
17	1	1	2	0	1	1	0		

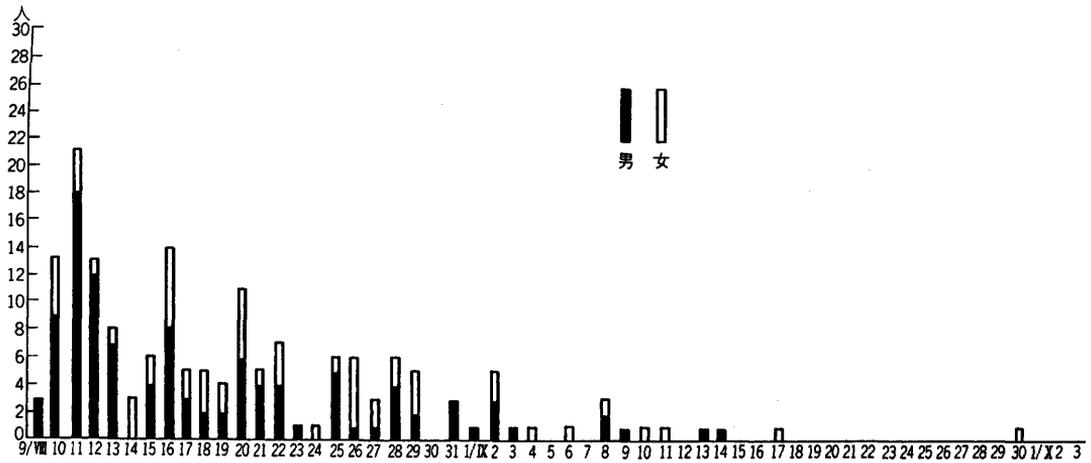
調査資料 暦日	余等ガ長崎ニテ 調査セル死亡者			大村海軍病院ニ収容セ ラレタル患者中ノ死亡者			川棚共済病 院ニ収容セ ラレタル患者 中ノ死亡者	時津国民学 校ニ収容セラ レタル患者 中ノ死亡者	時津萬行寺 ニ収容セラ レタル患者 中ノ死亡者
	男	女	計	男	女	計			
9月18日	0	0	0	0	0	0	0		
19	0	0	0	0	0	0	0		
20	0	0	0	0	0	0	0		
21	0	0	0	0	0	0	0		
22	0	2	2	0	0	0	0		
23	1	1	2	0	0	0	0		
24	0	1	1	0	0	0	1		
25	1	0	1	0	0	0	0		
26	0	1	1	0	0	0	1		
27	0	0	0	0	0	0	0		
28	1	0	1	0	0	0	0		
29	1	0	1	0	0	0	0		
30	0	0	0	0	1	1	0		
10月1日	1	0	1	0	0	0			
2	1	0	1	0	0	0			
3	1	0	1	0	0	0			
4	0	0	0	0	0	0			
5	0	0	0	0	0	0			
6	0	0	0	0	0	0			
7	0	0	0	0	1	1			
8	0	1	1	0	0	0			
9	0	0	0	0	0	0			
10	0	1	1	1	0	1			
11	0	0	0	0	0	0			
12	0	0	0	0	0	0			
13	0	0	0	0	0	0			
14	0	1	1	0	0	0			
15	1	0	1	0	2	2			
16	0	0	0	0	0	0			
17	0	0	0	0	0	0			
18	1	0	1	0	1	1			
19	0	0	0	0	0	0			
20	0	0	0	0	0	0			
21	0	0	0	0	0	0			
22	0	0	0	0	0	0			
23	1	0	1	0	0	0			
24	0	0	0	0	0	0			
25	0	0	0	0	0	0			
26	0	0	0	0	0	0			
27	0	0	0	0	0	0			
死亡総数	165	168	333	112	61	173	72	194	25



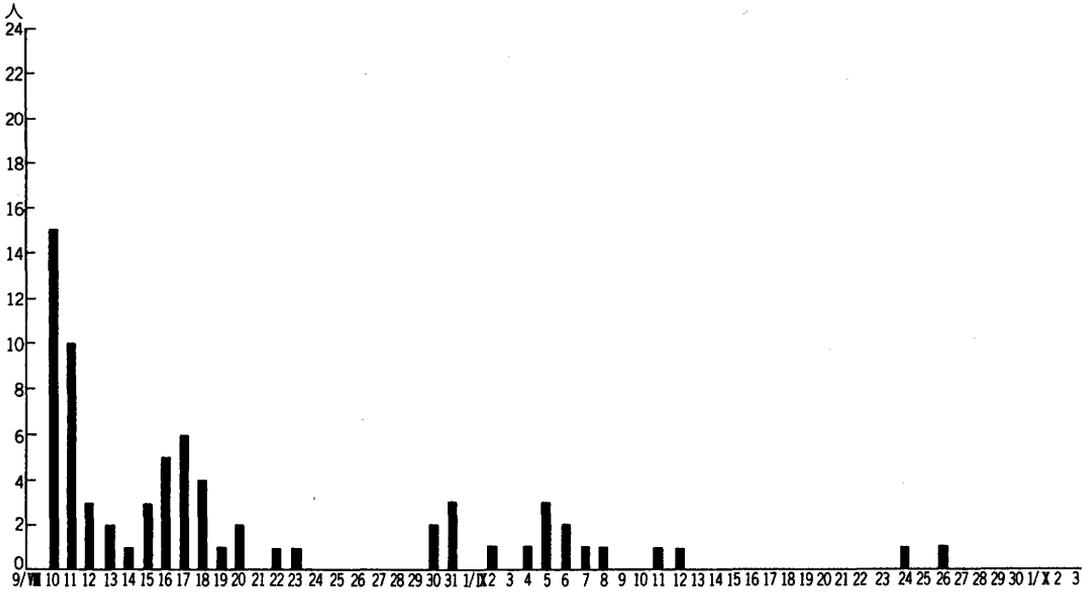
第一図 余等ガ長崎ニ於テ調査シタル原子爆弾死亡者ノ死亡時期



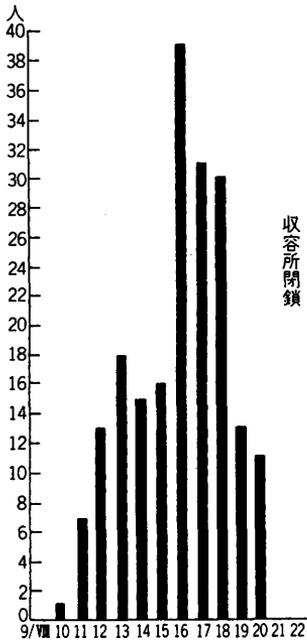
第二図 大村海軍病院入院患者例
須山学士調査 総数173人



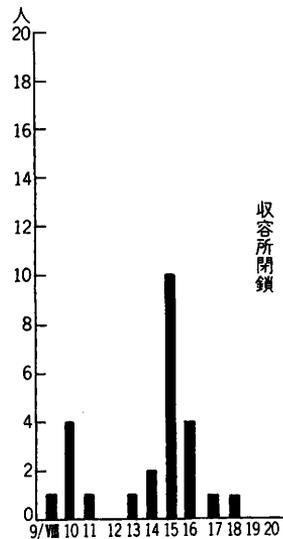
第三図 川棚共済病院入院患者例
赤羽、久保田氏調査 総数74人



第五図 時津萬行寺收容患者例
亀井博士調査 総数25人

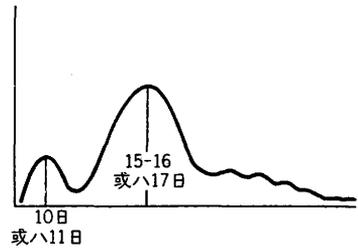


第四図 時津国民学校收容患者例
亀井博士調査 総数195人

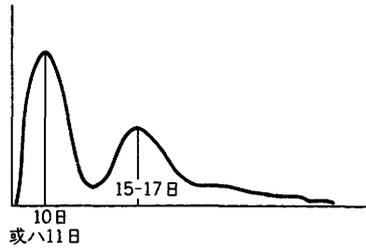


以上ヲ総括スルト、死亡曲線ハ凡ソ次ノ二種トナル。

第六図



第七図



第六図ニ属スルモノハ、余等ノ調査例ト時津萬行寺調査例デアルガ、時津国民学校例モ前ノ小山ガ欠ケテキルノミデ、大体之ト一致スル。

第七図ニ属スルモノハ、大村海軍病院例ト川棚共済病院例デアル。

- ① 何故ニ差異ヲ生ジタカ ソレハ恐ラク長途輸送ガ関係シタモノト考ヘル。即チ大村、川棚ハ長崎カラ数時間汽車ニユラレ、更ニ病院迄「トラック」、「バス」等ニユラレテ収容サレタ為、急死ヲ招クニ至ツタモノデアラウ。時津ハ長崎カラ僅カ二里ノ所ニアリ、長崎市内ニアルモノト殆ド大差ガナイト見テ差支ガナイ。

- ② 何故ニ山ヲ生ズルカ 此点ハ判然シナイ。生体ノ受ケル傷害ガ蓄積シテ約一週間後ニ重要臓器ノ機能が廢絶スルニ至ルモノカ。前ノ山ハ一次性「ショック」死デ後ノ山ハ二次性「ショック」ニヨル死デアルノカ。色々ニ考ヘラレルガ、其真相ハツキトメラレテキナイ。興味アル研究課題デアルト思フ。

第二章 平均生存日数ニ就テ

以上ノ資料ヲ基本トシテ平均生存日数ヲ調査シテミタ。而シテ之ヲ性別、年齢別、収容所別ニ比較シタ。

生存日数算出ニ就テハ次ノ法則ニ從ツテナスコトシタ。

- (1) 九ノ〃死亡ノモノハ〇・五日トシテ計算シタ。
 - (2) 死亡者ハ九月末日迄ノ死亡ニ限定シタ。収容所別ノ比較ノ際ニ相互ニ甚シイ差異ヲ生ジナイ様ニシタタメデアル。
 - (3) 性別比較ニ際シテハ死亡例ヲ爆心ヨリ一km以内ノ木造家屋内ニテ遭難シタモノノミニ限定シタ。誤差ヲ少クスルタメデアル。
 - (4) 年齢別比較ノ際ハ一km以内ノ遭難者ノミニ就テ觀察シタ。
- 結果ハ次表ノ通りデアル。

第二表 平均生存日数

	死亡者数	生存ノ延日数	平均生存日数
余等ノ調査例	324	4783	14.8
大村海軍病院例	166	1787.5	10.8
川棚共済病院例	74	815	11.0
計	564	7385.5	13.1

備考：9月末日迄ノ死亡ニ限定ス。

第三表 平均生存日数ノ年齢比較

	0~1km		
	死亡者数	生存ノ延日数	平均生存日数
小 児	22	308	14.0
青 壯 年	74	949.5	12.8
老 人	21	232.5	10.6

大村海軍病院例モ川棚共済病院例モ共ニ長崎ノ例ヨリ生存日数ガ短イ。其理由ハ矢張り長途ノ輸送ニヨルモノト考ヘラレル。即チ前章ニ於テ、十ノⅧ或ハ十一ノⅧヲ中心トスル拋物線ガ、十六ノⅧ或ハ十七ノⅧヲ中心トスルモノヨリモ大デアル結果ガ、生存日数ノ短縮トナツテ表ハレ来ツタモノト思ハレルノデアル。

次ニ年齢ト生存日数トノ關係ハ次ノ如クデアル。

小 児ガ最モ生存日数長ク、次ニ青壯年、最モ短イノガ老人トナツテナル。コノコトハ第一編ノ成績ト相反スル様デアルガ、一定ノ時期ヲ超過シタモノデハ小児デ抵抗力ガ増大シテ長ク生キルノカモ知レナイ。又十歳以下ノ幼児ハ速カニ斃レルガ、十ノ十五歳ノ小児ハ抵抗力ガ大デ、コレガ長ク生キル結果生存日数ガ延長シタノカモ知レナイ。或ハ又例数ガ少イ為ノ誤差デアルカモ知レナイ。

茲ニ小児ト云フハ勿論十五歳以下デ、青壯年ハ十六ノ五十歳、老人ハ五十一歳以上トシタノデアル。一km以内ニ限局シタノハ誤差ヲ少クスル為ニ外ナラナイ。

共ニ女ノ方ガ男ヨリ生存日数ガ長クナツテキル。コノコトハ第一編ニ於テ女ノ方ガ死亡率ガ少イノト全ク一致スル成績デアル。

大村海軍病院例ト余等ノ調査例ト男女ノ差ガ著シク異ナル理由ハ、余等ノ例ニオイテハ一km以内ノ木造家屋内遭難ノミニ限局シタメト思ハレル。

第四表 平均生存日数ノ男女比較

	余等ノ調査例			大村海軍病院例		
	死亡者数	生存ノ延日数	平均生存日数	死亡者数	生存ノ延日数	平均生存日数
男	40	488	12.2	111	1021.5	9.2
女	34	461.5	13.6	55	766	13.9

備考：余等ノ調査例ニ於テハ、死亡例ヲ爆心ヨリ1km以内ノ木造家屋内ニテ遭難シタモノノミニ限定シタ。

第五表

死亡時期	男	女	計
3 日 以 内	15	14	29
1 週 ヲ (4~7日)	36	31	67
2 週 ヲ (8~14日)	45	52	97
3 週 ヲ (15~21日)	24	19	43
4 週 ヲ (22~28日)	21	22	43
第 2 月 (29~60日)	21	27	48
第 3 月 以後 (61日~)	3	3	6
計	165	168	333

第三章 爆心ヨリノ距離ト死亡時期トノ關係

余等ノ長崎ニ於ケル調査例ヲ基礎トシテ之ヲ觀察シタ。此際死亡ノ時期ヲ大別シテ、三日以内、一週以内、二週以内、三週以内、四週以内、第二月、第三月以後ノ七ツニ区分シタ。此区分法ニ從フト各区分ノ死亡数ハ次表ノ如クナル(第五表)。

次ニ爆心ヨリノ距離ト死亡時期トノ關係ヲ表記スルト、第六表ノ如クナル。

第六表

死亡時期	0~1 km				1~1.5 km				1.5~2 km				2~3 km				合計	
	男	女	計	%	男	女	計	%	男	女	計	%	男	女	計	%	総計	%
3日以内	9	10	19	9.9	3	2	5	4.8	3	2	5	19.2	0	0	0	0	29	8.7
1週々	26	19	45	23.5	8	8	16	15.2	2	4	6	23.1	0	0	0	0	67	20.1
2週々	33	38	71	36.9	10	11	21	20.0	1	3	4	15.4	1	0	1	10.0	97	29.1
3週々	13	10	23	12.0	7	7	14	13.3	4	1	5	19.2	0	1	1	10.0	43	12.9
4週々	12	9	21	10.9	7	11	18	17.1	1	1	2	7.7	1	1	2	20.0	43	12.9
第2月	6	7	13	6.7	8	19	27	25.7	2	0	2	7.7	5	1	6	60.0	48	14.4
第3月以後	0	0	0	0	2	2	4	3.8	1	1	2	7.7	0	0	0	0	6	1.8
計	99	93	192		45	60	105		14	12	26		7	3	10		333	

結果…近距離程早期死亡ノ率ガ高く、遠距離程晚期死亡ノ率ガ高イ様デアル。例数ガ少イノデ余リ明確デハナイガ、〇〜一kmデハ一週以内及二週以内ガ最も多イノニ反シ、二〜三kmデハ第二月ノ死亡ガ最も多トナツテキル。男女間ノ差異ハ余リ判然シナイ。

第四章 年齢ト死亡時期トノ關係

第七表 (1)

死亡時期	~10歳				11~20歳				21~30歳				31~40歳			
	男	女	計	%	男	女	計	%	男	女	計	%	男	女	計	%
3日以内	4	3	7	16.3	4	4	8	7.3	2	2	4	6.6	2	1	3	10.7
1週々	4	2	6	14.0	14	14	28	25.7	10	3	13	21.3	2	3	5	17.8
2週々	11	4	15	34.9	12	17	29	26.6	9	13	22	36.1	2	4	6	21.4
3週々	2	2	4	9.3	12	2	14	12.8	2	6	8	13.1	4	2	6	21.4
4週々	2	3	5	11.6	7	4	11	10.1	1	3	4	6.6	2	4	6	21.4
第2月	2	4	6	14.0	7	9	16	14.7	3	7	10	16.4	0	2	2	7.1
第3月以後	0	0	0	0	1	2	3	2.8	0	0	0	0	0	0	0	0
計	25	18	43		57	52	109		27	34	61		12	16	28	

第七表 (2)上ノ続キ

死亡時期	41~50歳				51~60歳				61歳~				合計	
	男	女	計	%	男	女	計	%	男	女	計	%	総計	%
3日以内	0	1	1	2.6	3	1	4	12.9	0	2	2	8.7	29	8.7
1週々	1	4	5	13.2	3	1	4	12.9	2	4	6	26.1	67	20.1
2週々	4	5	9	23.7	3	6	9	29.0	4	3	7	30.4	97	29.1
3週々	1	3	4	10.5	3	3	6	19.3	0	1	1	4.4	43	12.9
4週々	4	3	7	18.4	2	3	5	16.1	3	2	5	21.7	43	12.9
第2月	4	5	9	23.7	3	0	3	9.7	2	0	2	8.7	48	14.4
第3月以後	2	1	3	7.9	0	0	0	0	0	0	0	0	6	1.8
計	16	22	38		17	14	31		11	12	23		333	

結果… 幼児ト老人ニ於テハ早期ニ死亡スルモノ多ク、青壯年者デハ死期ガ延長サレル様デアル。特ニ四十一〜五十歳ノモノニ於テサウデアル。コノコトハ、死期ヲ二週間以内、二〜四週、第二月、第三月以後ノ四ツニ分ケテ見ルト尚ヨク判ル。
男女間ノ差異デハ、女子ハ男子ヨリモ少シ死期ガ延長スル様ニ思ハレル。殊ニ若年者ニ於テ著シイ。

第五章 被爆時ノ環境ト死亡時期トノ關係

第八表 (1)

死亡時期	屋外(開放)				屋外(陰)				屋内(木造)			
	男	女	計	%	男	女	計	%	男	女	計	%
3 日 以内	6	7	13	19.1	0	2	2	6.1	7	5	12	6.5
1 週 ヶ	8	10	18	26.5	0	0	0	0	23	16	39	21.2
2 週 ヶ	6	12	18	26.5	6	5	11	33.3	28	24	52	28.3
3 週 ヶ	5	5	10	14.7	4	2	6	18.2	13	9	22	12.0
4 週 ヶ	3	0	3	4.4	3	5	8	24.2	12	15	27	14.7
第 2 月	3	1	4	5.9-5.9	2	4	6	18.2-18.2	12	17	29	15.7-15.7
第 3 月 以後	1	1	2	3.0-3.0	0	0	0	0-0	1	2	3	1.7-1.7
計	32	36	68		15	18	33		96	88	184	

第八表 (2)上ノ続キ

死亡時期	屋内(コンクリート)				兼 内				計	
	男	女	計	%	男	女	計	%	総計	%
3 日 以内	2	0	2	4.5	0	0	0	0	29	8.7
1 週 ヶ	5	5	10	22.7	0	0	0	0	67	20.1
2 週 ヶ	4	11	15	34.1	1	0	1	25.0	97	29.1
3 週 ヶ	2	3	5	11.4	0	0	0	0	43	12.9
4 週 ヶ	3	2	5	11.4	0	0	0	0	43	12.9
第 2 月	3	4	7	15.9-15.9	1	1	2	50.0-50.0	48	14.4-14.4
第 3 月 以後	0	0	0	0-0	1	0	1	25.0-25.0	6	1.8-1.8
計	19	25	44		3	1	4		333	

結果…屋外（開放）ノ場合ガ最モ死期ガ早イ。次ハ屋内（コンクリート）、屋内（木造）ノ順トナリ、屋外（陰）ノ場合ハ死期ガ著シク延長シ、壕内ノ場合ハ最モ遅ク死亡スル。屋内ノ場合ハ木造モ「コンクリート」モ殆ド変リガナイ。コノ中ニハ共ニ屋内ニ居テモ光ニ直射サレタモノガ含マレテキル結果デアルト考ヘラレル。

男女間ノ差異デハ、屋外（開放）ノ場合ハ女ノ方ハ男ヨリ遙カニ死期ガ短ク、（陰）ノ場合ハ両者大差ナク、屋内（木造）ノ場合ハ女ノ方ガ死期ガ延長シテキル。此等ハ興味アルコトト思ハレル。

第六章 損傷ノ種類ト死亡時期トノ關係

第九表 (1)

死亡時期	熱 傷					外 傷						
	男		女		計	%	男		女		計	%
	数	%	数	%			数	%	数	%		
3 日 以 内	6		6		12	14.0	4		4		8	7.1
1 週 ヲ	14	60.0	15	69.5	29	33.7	7	47.4	5	52.8	12	10.7
2 週 ヲ	4		11		15	17.4	16		20		36	32.1
3 週 ヲ	8		4		12	14.0	9		7		16	14.3
4 週 ヲ	2	25.0	3	15.2	5	5.8	11	35.1	10	30.9	21	18.8
第 2 月	5	12.5	5	10.9	10	11.6-11.6	9	15.8	8	14.5	17	15.2-15.2
第 3 月 以 後	1	2.5	2	4.3	3	3.5-3.5	1	1.8	1	1.8	2	1.8-1.8
計	40		46		86		57		55		112	

第九表 (2)上ノ続キ

死亡時期	熱傷兼外傷					無 傷						
	男		女		計	%	男		女		計	%
	数	%	数	%			数	%	数	%		
3 日 以 内	3		3		6	8.8	2		1		3	4.5
1 週 ヲ	10	77.2	9	72.8	19	27.9	5	54.6	2	35.3	7	10.4
2 週 ヲ	14		12		26	38.2	11		9		20	29.9
3 週 ヲ	1		6		7	10.3	6		2		8	11.9
4 週 ヲ	4	14.3	1	21.2	5	7.3	4	30.3	8	29.5	12	17.9
第 2 月	3	8.6	2	6.1	5	7.3-7.3	4	12.1	12	35.3	16	23.9-23.9
第 3 月 以 後	0	0	0	0	0	0-0	1	3.0	0	0	1	1.5-1.5
計	35		33		68		33		34		67	

結果…損傷中デハ熱傷兼外傷ガ最モ死期ガ早ク、次ハ熱傷、外傷ノ順
デ無傷ノ場合ガ最モ遅レル。

男女間ノ比較デハ熱傷及外傷デハ女ノ死期ガ多少早ク、無傷
ノ場合ハ明カニ男ヨリ遅延スル。熱傷兼外傷デハ略々大差ハナ
イ。

第三編 原子爆弾ニヨル外科的損傷ニ就テ

長崎医科大学外科第一教室 教授 調 來 助
同 “ 助教授 木 戸 利 一
同 解剖学教室 助教授 佐 藤 純 一郎
同 風土病研究所 助教授 一 瀬 賢 吾
同 細菌学教室 助教授 高 橋 庄 四 郎

緒 言

今次世界大戦ニ終止符ヲ打ツタ原子爆弾ハ、昭和二十年八月六日第一弾ガ広島ニ投下サレ、三日後ノ八月九日ニハ長崎ニ第二弾ガ投下サレテ、一瞬ニシテ市ノ大半ヲ灰燼ニ帰セシムルト同時ニ幾万ノ生靈ヲ奪ヒ去ツタ。其ノ威力ハ実ニ慄然タルモノガアル。

我等ハ長崎医科大学ニ職ヲ奉ジ、此世紀ノ災害ニ際シ医学的研究ヲ遂行スルニ絶好ノ地位ニアリナガラ、或ハ爆弾ノ犠牲トナリ、或ハ傷ツキテ之ガ検査ニ参加出来ナカッタコトハ実ニ千秋ノ恨ミデアリ、幾度カ切齒扼腕シテ己ガ不運ヲカコッタコトデアラウ。

幸ニ余等ハ危難ヲ逃レ必然的ニ罹患シタ原子爆弾症モ漸ク快癒シタ同年十月、米国ヨリ研究ニ來崎シタ De Courcy ガ少ク共五〇〇〇人ノ罹災者調査ヲ行フベキヲ提唱シ、東大教授都築博士ヨリ本調査ノ完成ヲ我が長崎医大二課セラレタノヲ機会ニ、余等ハ学生、生徒ノ力ヲ借り、一ヶ月余ノ日子ヲ費シテ市内ヲ実地踏査シテ略々其目的ヲ達成スルヲ得タ。

五〇〇〇人ノ目標ヲ調査ヲ開始シ幸ニ各員ノ努力ニヨリ六〇〇〇人ヲ突破スルニ至ツタガ、未ダ完璧トハ云ヒ難イ。然シ原子爆弾ニヨル人的損傷ノ一端ヲ窺フニハ充分デアルト信ズル。長崎ニ於ケル原子爆弾

災害ノ調査報告ハ余等ノ引受ケタ責任デアルカラ、茲ニ其概略ヲ報告シテ責ヲ果シタイト思フ。

原子爆弾ニヨツテ起ル障碍ハ之ヲ分ツテ外科的損傷ト放射線病トニ大別スルコトガ出来ル。本編デハ外科的損傷ニツイテ述ベルコトトスル。

調査方法

調査期日 昭和二十年十月下旬ヨリ十一月上旬ニ至ル約三週間ノ中ニ完了シタ。

調査人員

前記ノ五名ノ外、学生、生徒約五十名ガ一団トナツテ協力施行シタモノデアル。尚東大都築外科ノト部博士ノ御指導ヲ受ケタコトヲ感謝スル。又永井隆助教授（現長大教授）ハ重傷ヲ負ヒ原子症ニ悩マサレナガラ疎開先デ多数ノ調査ヲサレタ。

本調査ノ中ニハ東大ヨリ研究ニ出張シテ居ラレタ数名ノ方々ニヨツテナサレタモノモ加ハツテキル。

調査方法

初メ戸別訪問ニヨツテ調査ヲ初メタガ、後ニハ学校、工場等ノ集団調査ヲ行ヒ、最後ニハ再ビ戸別訪問ヲナシテ目的ヲ達スルヲ得タ。尚負傷者及発病者ノミヲ調査シテ五〇〇〇人ニ達スルコトハ到底不可能ナノデ、四km以内ヲ調査ノ範圍トシテ殆ド何等ノ傷害ノナイモノニモ及ブコトトシタ。調査中我々ハ選択ノ一定区域ノミヲ調査スルコトナク、非選択ノ全地域ニ及ブ様心懸ケタ。故ニ罹災者全員カラ出来タ統計デハナイガ、其百分率モ相当ニ信用シテ差支ナイモノト信ズル。

調査ニ當ツテハ茲ニ貼付シタ様ナ調査用紙ヲ使用シタガ、

第一表 地区別、性別、年齢別調査人数表 (生存者)

距離	町名	～10歳		11～20		21～30		31～40		41～50		51～60		61歳～		計		總計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
0～1km	上野町,山里,大橋	3	3	4	8	1	3	4	2	0	2	0	3	1	1	13	22	35
	長崎医科大学	1	2	17	30	48	13	8	2	5	6	2	1	4	0	85	54	139
	坂本町,江平町	4	5	1	5	0	4	1	4	1	1	1	2	0	0	8	21	29
	市立商業	3	1	40	17	1	0	1	0	5	0	1	0	0	0	51	18	69
	城山町	10	7	10	15	5	11	0	5	10	9	4	2	1	4	40	53	93
	岩川町,浦上駅	1	4	2	3	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	5	10	15
	浦上製鋼所	0	0	8	5	4	3	6	0	5	0	2	0	0	0	25	8	33
	竹久保一丁目	0	0	10	3	1	3	4	0	3	1	4	0	1	0	23	7	30
計	22	22	92	86	62	37	24	13	29	21	14	8	7	6	250	193	443	
1～1.5km	大橋兵器	0	0	195	264	37	40	47	6	46	7	14	2	1	0	340	319	659
	家野町	10	8	11	17	0	5	1	6	2	4	1	0	0	1	25	41	66
	西町	7	9	7	26	3	3	1	6	1	7	6	2	2	1	27	54	81
	本原一丁目	11	8	5	6	0	10	1	11	3	2	2	0	1	4	23	41	64
	高尾町	5	6	1	6	2	6	1	5	1	1	1	0	1	1	12	25	37
	竹久保二丁目	6	8	19	18	3	15	3	7	4	5	1	5	2	2	38	60	98
	目覚町,浦上駅	5	5	12	19	4	13	5	7	9	6	3	3	3	2	41	55	96
	茂里町兵器	0	0	36	159	5	13	14	2	9	1	4	0	0	0	68	175	243
茂里町製鋼所	0	0	13	13	4	6	12	0	6	0	3	0	0	0	38	19	57	
計	44	44	299	528	58	111	85	50	81	33	35	12	10	11	612	789	1401	
1.5～2km	本原二丁目	14	18	24	26	1	24	2	23	3	16	7	8	1	9	52	124	176
	住吉町南部(1)	9	15	20	27	5	10	3	13	6	7	8	3	4	5	55	80	135
	長崎師範	0	0	27	2	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	29	4	33
	昭和町(1)	6	8	3	12	1	2	1	7	0	7	1	2	2	1	14	39	53
	本原三丁目	11	12	5	13	4	12	2	7	1	11	2	0	4	3	29	58	87
	竹久保三丁目	15	8	25	28	4	12	6	9	6	13	7	7	5	5	68	82	150
	銭座町	8	7	32	29	3	11	1	10	1	9	2	6	1	5	48	77	125
	舟倉町,宝町,寿町	1	0	6	7	2	2	2	2	1	2	3	2	0	1	15	16	31
幸町,其附近	0	1	17	10	3	8	9	4	8	1	4	2	1	0	42	26	68	
計	64	69	159	154	23	82	27	75	27	66	34	31	18		352	506	858	
2～3km	住吉トンネル工場	0	0	19	67	4	4	4	0	2	0	2	0	0	0	31	71	102
	住吉町(2)	14	15	30	26	0	6	1	5	4	9	2	7	5	5	56	73	129
	昭和町(2)	13	16	7	14	0	15	2	2	1	4	7	4	4	5	34	60	94
	西山町,高商	1	2	30	29	0	4	3	2	0	5	0	4	0	1	34	47	81
	八千代町	0	0	28	20	3	4	5	5	3	4	2	2	2	1	43	36	79
	西城町	3	2	6	7	0	4	1	3	0	5	1	3	3	1	14	25	39
	長崎駅	1	0	27	9	4	4	4	3	8	1	1	1	3	0	48	18	66
	大里町,五島町	3	1	36	10	1	2	2	3	4	2	2	2	0	0	48	20	68
	筑後町,東町,西町	19	11	30	22	1	17	1	17	6	17	3	21	6	7	66	112	178
	立山町	12	16	20	23	3	15	0	8	1	14	2	9	5	5	43	90	133
	旭町	4	2	20	8	1	3	3	4	6	5	1	1	0	1	35	24	59
	稲佐一丁目	9	6	17	30	2	12	1	8	2	6	3	7	5	6	39	75	114
〃二丁目	19	11	53	72	5	13	5	16	6	22	9	14	8	9	105	157	262	
〃三丁目	9	13	41	56	4	14	4	17	10	15	10	11	1	3	79	129	208	
平戸小屋	0	3	22	20	0	1	0	0	1	2	0	0	0	0	23	26	49	
三菱電機	0	0	46	25	2	1	0	1	1	0	2	0	0	0	51	27	78	
計	107	98	432	438	30	119	36	94	55	111	47	86	42	44	749	990	1739	
3～4km	西浦上	4	9	28	61	2	4	1	4	4	4	3	5	0	2	42	89	131
	旧市内東部	2	1	91	65	3	6	1	4	2	5	4	4	2	4	105	89	194
	小江原郷	1	0	3	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	5	1	6	
	旧市内西部	13	15	181	228	3	35	11	25	21	24	25	19	15	8	269	354	623
	飽浦,水浦	0	0	46	47	1	9	5	1	6	0	10	0	0	0	68	57	125
計	20	25	349	402	9	54	18	34	33	33	43	28	17	14	489	590	1079	
總計	257	258	1331	1608	182	403	190	266	225	264	173	165	94	104	2452	3068	5520	

第一章 損傷ノ種類及頻度

原子爆弾ニヨツテ發生シタ損傷ノ種類ヲ大別シテ熱傷ト外傷ト二分ケタガ、中ニハ兩者ヲ兼ネタモノモアリ、又全ク傷ナクシテ（原子症中ノ）放射線病ヲ發シタモノモアルノデ、本調査ニオイテハ熱傷、外傷、熱傷兼外傷、無傷ノ四種類ニ分ケテ統計ヲトルコトトシタ。

爆心カラノ距離ハ初メ〇〜一km、一〜二km、二〜三km、三〜四km、四km外ノ五種ニ分ケテキタガ、一〜二km中デハ罹災者ガ甚ダ多ク、且ツ一〜一・五kmノモノト一・五〜二kmノモノハ著シク其趣キヲ異ニシテキルノデ、一〜二kmヲ其ニツニ分ケルコトトシタ。尚四km外ノモノハ唯參考ニ調査シタモノデアアル。被爆時ノ環境ハ屋外（開放）、屋外（陰）、屋内（木造）、屋内（コンクリート）、壕内ノ五種ニ分類シ、「トタン」葺キハ木造ト見做シ、煉瓦建ハ「コンクリート」建ト見做シ其中ニ包含セシメタ。壕モ横穴ト家庭用ノ縦穴トガアルガ区別シナカタ。余リ分類ヲ多クスルト複雑ニナツテ判ラナクナルト考ヘタカラデアアル。

カクシテ調査シタ例ハ、生存者五七四八人、中四km以内五五二〇人、四km外二二八人、死亡者三三三人ニ達スル。

之ヲ表記スルト、第二〜九表ノ如クナル。

結果…(一) 生存者例

1. 距離別調査 一〜一・五kmノ数ガ多イノハ工場ニ働イテキタ中学生、女学生ノ多カッタ為デアリ、二〜三、三〜四kmノ数ノ多イノハ中等学校ノ集團調査ノ結果ト戸別訪問ノ結果デアアル。
2. 年齢別調査 十一〜二十歳ノモノガ断然多数トナツテキルガ、コレハ中等学校及国民学校ノ集團調査ノ結果ニ外ナラナイ。
3. 環境別調査 コレデハ木造家屋内ノ数ガ半数以上ヲ占メテキル。

コレハ實際、住宅ニ居タモノノ外ニ「トタン」葺キノ工場内ニ居タモノヲ此中ニ入レタタメデアアル。

4. 損傷別調査 無傷ガ約半数ヲ占メテキルガ、此中ニハ無傷デ放射線病ニ罹ッタモノモ含マレテ居リ、又何等ノ症状ヲ呈シナカタモノモ含マレテ居ル。

生存者例

第二表 距離別生存者数

距離	男	女	計
0 ~1 km	250	193	443
1 ~1.5	612	789	1401
1.5~2	352	506	858
2 ~3	749	990	1739
3 ~4	489	590	1079
計	2452	3068	5520
4 km外	55	173	228

第四表 環境別生存者数

環境	男	女	計
屋 外 (開放)	286	259	545
〃 (陰)	368	306	674
屋 内 (木造)	1331	1867	3198
〃(コンクリート)	337	439	776
壕 内	130	197	327
計	2452	3068	5520

第三表 年齢別生存者数

年 齢	男	女	計
~10 歳	257	258	515
11~20	1331	1608	2939
21~30	182	403	585
31~40	190	266	456
41~50	225	264	489
51~60	173	165	338
61~	94	104	198
計	2452	3068	5520

第五表 損傷別生存者数

損傷名	男	女	計
熱 傷	393	362	755
外 傷	798	921	1719
熱 傷 兼 外 傷	115	112	227
無 傷	1146	1673	2819
計	2452	3068	5520

死亡者例

第六表 距離別死亡者数

距離	男	女	計
0 ~1 km	99	93	192
1 ~1.5	45	60	105
1.5~2	14	12	26
2 ~3	7	3	10
3 ~4	0	0	0
計	165	168	333

第八表 環境別死亡者数

環境	男	女	計
屋 外 (開放)	32	36	68
〃 (陰)	15	18	33
屋 内 (木造)	96	88	184
〃(コンクリート)	19	25	44
壕 内	3	1	4
計	165	168	333

第七表 年齢別死亡者数

年 齢	男	女	計
0~10 歳	25	18	43
11~20	57	52	109
21~30	27	34	61
31~40	12	16	28
41~50	16	22	38
51~60	17	14	31
61~	11	12	23
計	165	168	333

第九表 損傷別死亡者数

損傷名	男	女	計
熱 傷	40	46	86
外 傷	57	55	112
熱 傷 兼 外 傷	35	33	68
無 傷	33	34	67
計	165	168	333

(II) 死亡者例

1. 距離別調査 非選択的ニ調査シタノデアルガ、矢張り一km以内ノ死亡者ガ最も多く、二〜三kmデハ極メテ少数トナツテキル。尚本調査例中ニハ三km以遠ノ地デハ死亡者ヲ見ナカッタ。此外ニ若シアルトシテモソレハ原子爆弾ニヨルモノカ否カ甚ダ疑ハシイ。
 2. 年齢別死亡者 十一〜二十歳ノ死亡者ガ群ヲ抜イテキルガ、コレハ中等学校生徒ガ工場デ死亡シタモノガ相当多カッタメデアル。
 3. 環境別調査 木造家屋内ノ死亡ガ最も多ク壕内ノモノガ最も少イ。コノ調査ニハ木造家屋ノ下敷トナツテ其儘焼死シタモノハ含マレテキナイ。壕内デモ僅カデハアルガ死亡シテキルノハ、第一編死亡率ノ項デモ述ベタ通りデ、壕ノ入口ニ近い所ニ居タカ、或ハ不完全ナ縦穴壕ノ中デ遭難死亡シタモノデアラウト思ハレル。
 4. 損傷別調査 外傷ガ最も多クナツテキルガ、コレハ外傷ノ方ガ死亡率ガ高イト云フ意味デハナイ。偶々調査シタモノノ中ニ外傷例ガ多カッタト云フニ過ギナイと思フ。
無傷デモ相当数死亡シテキルノハ注目ニ値スル。
- 次ニ第五表及第九表カラ各種損傷ノ百分率ヲ出シテミルト、第十表及第十一表ノ如クナリ、之ヲ図表デ表ハスト第一図及第二図ノ如クナル。

第十表 損傷別頻度 (生存者例)

損傷名	男		女		計	
	人員数	%	人員数	%	人員数	%
熱傷	393	16.0	362	11.8	755	13.7
外傷	798	32.5	921	30.0	1719	31.1
熱傷兼外傷	115	4.7	112	3.6	227	4.1
無傷	1146	46.7	1673	54.5	2819	51.1
計	2452		3068		5520	

第十一表 損傷別頻度 (死亡者例)

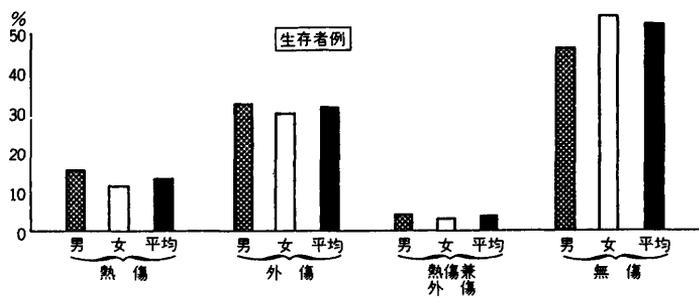
損傷名	男		女		計	
	人員数	%	人員数	%	人員数	%
熱傷	40	24.2	46	27.4	86	25.8
外傷	57	34.5	55	32.7	112	33.6
熱傷兼外傷	35	21.2	33	19.6	68	20.4
無傷	33	20.0	34	20.2	67	20.1
計	165		168		333	

考察…前述ノ如ク本調査ハ受傷者ノ全部ヲ調査シタモノデナイカラ、
 絶対的ナ確實性ハナイガ、非選択ノ二各方面カラ調査シタモ
 ノデアルカラ、或程度ハ信頼シ得ルモノト信ズル。
 ソコデ第一図ト第二図トヲ比較シテミルト、凡ソ次ノ様ナ
 コトガ云ヘルト思フ。

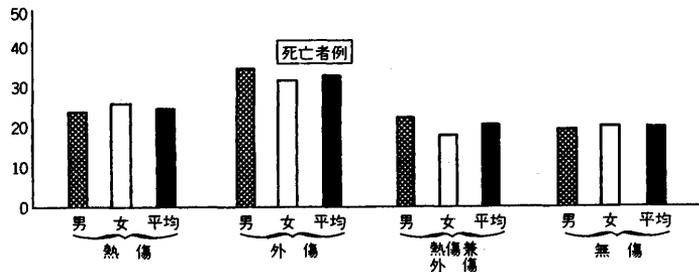
- (1) 外傷デハ生存者モ死亡者モ同率ヲ示スガ、熱傷殊ニ熱傷兼外傷
 デハ死亡者ノ方ガ生存者ヨリモ遙カニ大ナル率ヲ示シ、逆ニ無
 傷者ニ於テハ生存者ノ方ガ高率ヲ示シテ居ル。
- (2) 此点カラ考察スルト、熱傷及熱傷兼外傷ハ外傷ノミノ場合ヨリ
 死亡率ガ高ク、無傷ハ死亡率ガ低イト云ヒ得ルト思フ。
- (3) 死亡者ノミカラ見ルト外傷者ガ最も死亡率ガ高クナツテ居ルガ、
 コレハ外傷ノミニヨル死亡デハナイ。熱傷ノ場合モ熱傷兼外傷
 ノ場合モソレ等ト放射線病ノ合併デアルカラ、本調査ニ於テ外
 傷ヲ受ケタモノガ多クコトヲ意味スルモノト思ハレル。事
 実工場デハ熱傷ガ少ク外傷ガ多クカッタガ、今次ノ外傷デハ致命
 傷ト思ハレル様ナ重篤ナ外傷ガ殆ド見ラレナカッタノデアルカ
 ラ、無傷ノ場合ト同ジク放射線病ノ影響ガ極メテ大デアッタト
 云ヒ得ルト考ヘル。
- (4) 生存者ノミニ於テ云フト、熱傷兼外傷デ助カッタモノハ極メテ
 少イ、最も多イノハ無傷ノ場合デアアル。勿論ノコトト思フ。
- (5) 男女ノ比較デハ、熱傷デ死亡スルモノハ女ニ多ク、助カルモノ
 ハ女ニ少イ。換言スレバ女ガ熱傷ヲ受ケルト予後ガ悪イト云ヘ
 ルト思フ。
- (6) 外傷ハ女ヨリ男ニ多イ。熱傷兼外傷モ同ジデアアル。反対ニ無傷
 ハ男ヨリ女ニ多クナツテ居ル。之モ異論ノナイ所デアラウ。即

チ男ハ女ヨリモ暴力ニサラサレテキルト云フ平時ノ一般外傷ノ
 場合ト全ク同ジデアアル。

第一図



第二図



第二章 原子爆弾ニヨル熱傷ニ就テ

原子爆弾ニヨル熱傷ハ主トシテ爆発ノ際ノ高熱ニ基クモノトサレル。
 故ニ近距離デ屋外開放ノ場所ニ居タモノニ多数発生シ、其程度モ重篤
 デアルコトガ想像サレル。果シテ然ルカ。余等ハ調査例ニツキ距離ト
 ノ関係、年齢トノ関係、環境トノ関係等ヲ検索シテ此点ヲ明確ナラシ
 メタイト思フ。

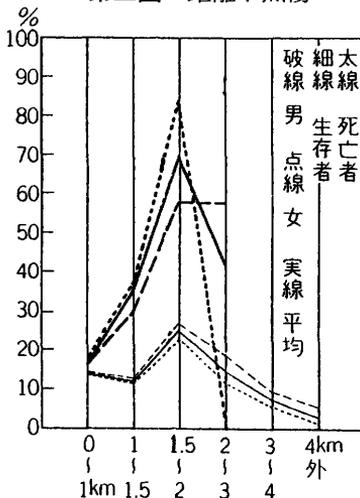
第十二表 (生存者例)

爆心ヨリノ距離	男			女			計		
	調査数	熱傷数	%	調査数	熱傷数	%	調査数	熱傷数	%
0 ~1 km	250	37	14.8	193	27	14.0	443	64	14.4
1 ~1.5	612	75	12.3	789	82	10.4	1401	157	11.2
1.5~2	352	93	26.4	506	113	22.3	858	206	24.1
2 ~3	749	140	18.7	990	103	10.4	1739	243	14.0
3 ~4	489	48	9.8	590	37	6.3	1079	85	7.9
計	2452	393		3068	362		5520	755	
4 km外	55	3	5.5	173	1	0.6	228	4	1.8

第十三表 (死亡者例)

爆心ヨリノ距離	男			女			計		
	調査数	熱傷数	%	調査数	熱傷数	%	調査数	熱傷数	%
0 ~1 km	99	15	15.2	93	15	16.1	192	30	15.6
1 ~1.5	45	13	28.9	60	21	35.0	105	34	32.4
1.5~2	14	8	57.1	12	10	83.3	26	18	69.2
2 ~3	7	4	57.1	3	0	0	10	4	40.0
3 ~4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	165	40		168	46		333	86	
4 km外	0	0	0	0	0	0	0	0	0

第三図 距離ト熱傷



第十二及第十三表ヲ合セテ図表ニスルト、第三図ノ如クナル。
 即チ近距離必ズシモ熱傷ノ頻度ハ高クナイ。コレニハ環境ガ大イニ関係スルモノト思フ。
 即チ近距離「デハ壕内或ハ「コンクリート」建築物、工場等ニ居テ助カタモノ、或ハコレラニサヘギラレテ熱傷ヲ受ケズ、外傷又ハ無傷デ死亡シタモノノ多カッタコトヲ表ハスノデアル。
 一・五(二kmノ所ニハ畑等ガアリ、仕事中ニ遭難シテ熱傷ヲ蒙ッタモノガ多数アッタ。遠距離デ熱傷ノ少クナルノハ勿論デアル。
 然シ四km以上離レタ所デモ数名ニ於テ熱傷ガ見ラレタ。勿論程度ハ極メテ輕イモノデアル。
 生存者ト死亡者ノ頻度ガ著シク離レ、死亡者ノ方ガ遙カニ高クナツテキルコトハ熱傷ノ予後ガ不良デアルコトヲ表ハスモノデアル。

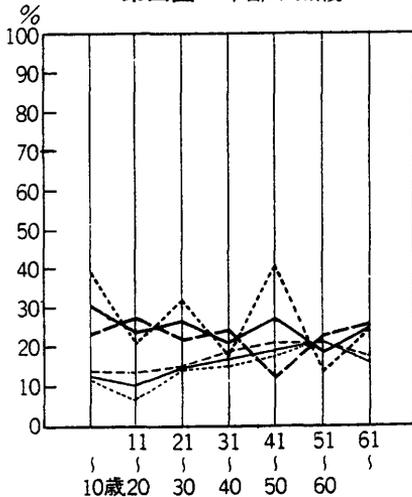
第十四表 (生存者例)

年 齡	男			女			計		
	調査数	熱傷数	%	調査数	熱傷数	%	調査数	熱傷数	%
~10 歳	257	38	14.8	258	33	12.8	515	71	13.8
11~20	1331	188	14.1	1608	121	7.5	2939	309	10.5
21~30	182	30	16.5	403	62	15.4	585	92	15.7
31~40	190	37	19.5	266	44	16.5	456	81	17.8
41~50	225	47	20.9	264	49	18.6	489	96	19.8
51~60	173	36	20.8	165	35	21.2	338	71	21.0
61~	94	17	18.1	104	18	17.3	198	35	17.7
計	2452	393		3068	362		5520	755	

第十五表 (死亡者例)

年 齡	男			女			計		
	調査数	熱傷数	%	調査数	熱傷数	%	調査数	熱傷数	%
~10 歳	25	6	24.0	18	7	38.9	43	13	30.2
11~20	57	16	28.1	52	11	21.1	109	27	24.8
21~30	27	6	22.2	34	11	32.3	61	17	27.9
31~40	12	3	25.0	16	3	18.8	28	6	21.4
41~50	16	2	12.5	22	9	40.9	38	11	29.0
51~60	17	4	23.5	14	2	14.3	31	6	19.3
61~	11	3	27.3	12	3	25.0	23	6	26.1
計	165	40		168	46		333	86	

第四図 年齢ト熱傷



年齢ト熱傷ノ関係ニ於テハ特記スベキコトモナイ様
 デアル。各年齢層ニ平均シテ熱傷ガ見ラレ、特ニ頻発
 スル年代モ認メラレナイ。
 生存者デハ高年ノモノニ多少多イ様ニモ思ハレルガ、
 死亡者デハ却ッテ少クナツテキル。
 唯若年者デハ熱傷ノ場合ノ死亡率ガ高年者ニ比シ幾
 分高イ様ニモ思ハレル。

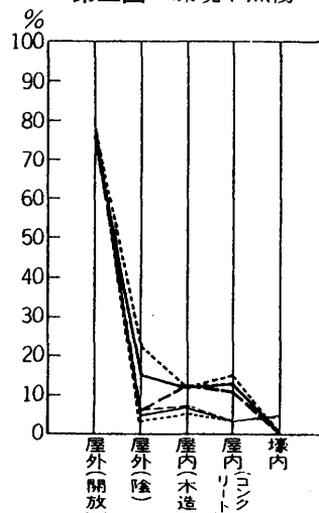
第十六表 (生存者例)

環 境	男			女			計		
	調査数	熱傷数	%	調査数	熱傷数	%	調査数	熱傷数	%
屋 外 (開放)	286	233	81.5	259	196	75.7	545	429	78.7
〃 (陰)	368	28	7.6	306	12	3.9	674	40	5.9
屋 内 (木造)	1331	114	8.6	1867	125	6.7	3198	239	7.5
〃 (コンクリート)	337	12	3.6	439	17	3.9	776	29	3.7
壕 内	130	6	4.6	197	12	6.1	327	18	5.5
計	2452	393		3068	362		5520	755	

第十七表 (死亡者例)

環 境	男			女			計		
	調査数	熱傷数	%	調査数	熱傷数	%	調査数	熱傷数	%
屋 外 (開放)	32	25	78.1	36	28	77.8	68	53	77.9
〃 (陰)	15	1	6.7	18	4	22.2	33	5	15.2
屋 内 (木造)	96	12	12.5	88	10	11.4	184	22	12.0
〃 (コンクリート)	19	2	10.5	25	4	16.0	44	6	13.7
壕 内	3	0	0	1	0	0	4	0	0
計	165	40		168	46		333	86	

第五図 環境ト熱傷



熱傷ハ環境ニ支配サレル所ガ大キイ。屋外開放ノ所デ熱傷ヲ蒙ムルコトガ甚タ多ク他ハ極メテ少イ。屋内ヤ壕内ニ居テ熱傷ヲ蒙ツタ例ハ窓ギワニ居タカ縁ニ近ク居タカ、或ハ壕ノ入口ニ近ク居タモノデアル。

第四節 熱傷ノ部位並ニ程度

原子爆彈ニヨル熱傷ガ平時ノ熱傷ト異ル点ハ、部位ガ甚ダ広範圍ニ巨ルコトト、程度ガ殆ド凡テ第二度ノ水泡形成性ノモノデアッタコトデアル。今距離別熱傷ノ部位ニツイテ統計ヲトツテミルト、第十八表及ビ第十九表ノ如クナル。

コレハ生存者男子ノミノ統計デアルガ、半身及全身ノ熱傷ガ甚ダ多イ。特ニ近距離ニ於テサウデアリ、一km以内ヨリモ一・五kmノ方ガ著明デアル。遠距離ニ行クニ從ヒ半身ヤ全身ニ及ブ熱傷ガ少ク、表ニハ出テキナイガ四km外ノ熱傷三名ハ軀幹ニ、上肢一デ、広範圍ノモノハ一例モナイ。今試ミニ上半身、下半身、左右半身、全身ノ四ツヲ広範圍ノモノトシテ百分率ヲ合計シテミルト、

〇〜一kmデハ 五一・三%、一〜一・五kmデハ 六四・〇%、一・五〜二kmデハ 四四・一%、二〜三kmデハ 四五・〇%、三〜四kmデハ 一四・六%、
トナツテ漸減スル。

同様ノコトガ死亡者ノ統計ニ於テモ云ヘル(第十九表)。

下表ニ於テ半身及全身ノ%ヲ合計スルト

〇〜一km 四五・一%、一〜一・五km 五三・〇%、一・五〜二km 八五・〇%
二〜三km 五〇・〇%、計(平均)五二・三%
死亡者ノ場合ハ一・五〜二kmガ最モ高率ヲ示シテキ

第十八表 熱傷ノ部位(距離別)(生存者、男)

	0~1 km		1~1.5 km		1.5~2 km		2~3 km		3~4 km		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
頭部及顔面	4	10.8	9	12.0	20	21.5	34	24.3	18	37.5	85	21.6
軀幹	2	5.4	2	2.7	7	7.5	10	7.1	4	8.3	25	6.4
上肢	6	16.2	12	16.0	14	15.1	19	13.6	11	22.9	62	15.8
下肢	5	13.5	4	5.3	10	10.8	14	10.0	7	14.6	40	10.2
上半身	16	43.2	41	54.7	24	25.8	42	30.0	5	10.4	128	32.6
下半身	1	2.7	2	2.7	4	4.3	3	2.1	0	0	10	2.5
左右半身	1	2.7	4	5.3	10	10.8	12	8.6	2	4.2	29	7.4
全身	1	2.7	1	1.3	3	3.2	6	4.3	0	0	11	2.8
不詳	1	2.7	0	0	1	1.1	0	0	1	2.1	3	0.8
計	37		75		93		140		48		393	

第十九表 熱傷ノ部位(距離別)(死亡者、男女)

熱傷ノ部位	0~1 km		1~1.5 km		1.5~2 km		2~3 km		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
頭部及顔面	18	22.5	13	25.5	0	0	1	25.0	32	20.6
軀幹	3	3.8	1	2.0	1	5.0	1	25.0	6	3.9
上肢	14	17.5	5	9.8	1	5.0	0	0	20	12.9
下肢	7	8.8	3	5.9	1	5.0	0	0	11	7.1
上半身	20	25.0	15	29.5	6	30.0	1	25.0	42	27.1
下半身	4	5.0	1	2.0	1	5.0	0	0	6	3.9
左右半身	7	8.8	4	7.8	4	20.0	1	25.0	16	10.3
全身	5	6.3	7	13.7	6	30.0	0	0	18	11.0
不詳	2	2.5	2	3.9	0	0	0	0	4	3.2
計	80		51		20		4		155	

ル。

第二十表 性別熱傷部位（死亡者例）

熱傷ノ部位	男		女	
	例数	%	例数	%
頭部及顔面	15	20.0	17	21.3
軀 幹	3	4.0	3	3.8
上 肢	11	14.7	9	11.3
下 肢	5	6.7	6	7.5
上 半 身	23	30.7	19	23.8
下 半 身	0	0	6	7.5
左 右 半 身	8	10.7	8	10.0
全 身	9	12.0	9	11.3
不 詳	1	1.3	3	3.8
計	75		80	

男女間ニハ殆ド差異ガナイ。

次ニ性別ノ熱傷部位ヲ死亡者ニ就テ觀察スルト、次表ノ如クナル。

第二十一表 年齢別熱傷部位（生存者、男）

熱傷ノ部位	～10歳		11～20		21～30		31～40		41～50		51～60		61～	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
頭部及顔面	7	20.6	49	25.8	6	20.0	4	10.3	11	23.4	7	19.4	1	5.9
軀 幹	4	11.8	12	6.3	2	6.7	2	5.1	1	2.1	3	8.3	1	5.9
上 肢	2	5.8	33	17.4	5	16.7	7	18.0	8	17.0	6	16.6	1	5.9
下 肢	7	20.6	15	7.9	2	6.7	2	5.1	6	12.8	1	2.8	7	41.2
上 半 身	7	20.6	59	31.1	11	36.7	16	41.0	17	36.2	12	33.3	6	35.3
下 半 身	4	11.8	1	0.5	1	3.3	1	2.6	1	2.1	2	5.6	0	0
左 右 半 身	3	8.8	11	5.8	2	6.7	7	18.0	3	6.4	3	8.3	0	0
全 身	0	0	8	4.0	1	3.3	0	0	0	0	1	2.8	1	5.9
不 詳	0	0	2	1.0	0	0	0	0	0	0	1	2.8	0	0
計	34		190		30		39		47		36		17	

次ニ年齢別ノ熱傷部位ヲ統計的に觀察シテミルト、次表ノ如クデア

前例ニ倣ツテ半身及全身ノ%ヲ合計シテミルト、

〇〜十歳ハ 四一・二%、十一〜二十歳ハ 四一・四%
 二十一〜三十歳ハ 五〇・〇%、三十一〜四十歳ハ 六一・六%
 四十一〜五十歳ハ 四四・七%、五十一〜六十歳ハ 五〇・〇%
 六十一歳〜ハ 四一・二%
 トナリ三十一〜四十歳ノモノニ特ニ広範囲熱傷が多い。

熱傷ノ程度ハ殆ド総テガ第二度デ、水泡ヲ形成シテキタ。ソシテ其
 多クハ化膿シテ癩痕ヲ形成スルニ至ツタ。第一度ノ熱傷ハ素人ニ判リ
 難ク、統計ニハ現ハレテ来ナカッタ。第三度ノモノデ指、趾等ノ断裂
 ヲ来シタモノハ見ナカッタ。

衣服ノ熱傷トノ関係モ此度ノ調査デハ判然シナカッタ。白衣ヨリモ
 黒衣ノ方が熱傷ヲ起シ易イト云フコトハ、腕ニ黒文字入り腕章ヲツケ
 テキタ者ニ於テ文字通りノ皮膚着色ガ生ジタ一例カラ見タ方ガ判リ易
 イト思フ。近距離デハ白衣デモ黒衣デモ共ニ熱傷ヲ受ケ、遠距離デハ
 何レノ場合モ起ツテキナイノデ、両者ノ差異ハ極メテ一局部ニ限局サ
 レネバナラヌ筈デアアル。依テ本統計ニハ省略シタ。

第三章 原子爆弾ニヨル外傷ニ就テ

外傷ノ統計モ其頻度ト種類トニ就テトルコトトシタ。

第一節 爆心ヨリノ距離ト外傷ノ頻度

第二十二、及第二十三表ヲ合セテ図表ニスルト、第六図ノ如クナル
 コレニヨツテ見ルト、熱傷ノ場合トハ種々ノ点ニ於テ逆トナツテキル
 ノガ判ル。即チ外傷ハ近距離ニ多ク、熱傷ノ多イ一・五〜二kmノ所デ
 ハ急ニ少クナリ、其後ハ熱傷ト同ジク漸次減少スル。

第二十二表 距離別外傷頻度（生存者例）

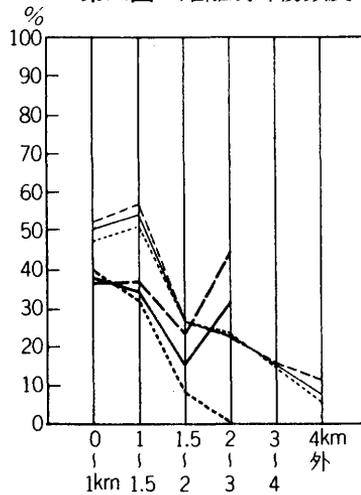
爆心ヨリノ 距離	男			女			計		
	調査数	外傷数	%	調査数	外傷数	%	調査数	外傷数	%
0 ~1 km	250	126	50.4	193	91	47.2	443	217	49.0
1 ~1.5	612	344	56.2	789	394	49.9	1401	738	52.7
1.5~2	352	90	25.6	506	130	25.7	858	220	25.6
2 ~3	749	158	21.1	990	218	22.0	1739	376	21.6
3 ~4	489	80	16.4	590	88	14.9	1079	168	15.6
計	2452	798		3068	921		5520	1719	
4 km外	55	6	10.9	173	10	5.8	228	16	7.0

第二十三表 距離別外傷頻度（死亡者例）

爆心ヨリノ 距離	男			女			計		
	調査数	外傷数	%	調査数	外傷数	%	調査数	外傷数	%
0 ~1 km	99	35	35.4	93	36	38.7	192	71	37.0
1 ~1.5	45	16	35.6	60	18	30.0	105	34	32.4
1.5~2	14	3	21.4	12	1	8.3	26	4	15.4
2 ~3	7	3	42.9	3	0	0	10	3	30.0
3 ~4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	165	57		168	55		333	112	
4 km外	0	0	0	0	0	0	0	0	0

死亡者例デハ男ノ二〜三kmガ高率トナツタメ、平均モ一・五〜二kmヨリ却ツテ上ツテキルガ、コレハ例数ガ少イノデ誤差ヲ生ジタモノト考ヘラレル。
 生存者例ヨリモ死亡者例ガ低率トナツテキルノハ外傷ノ予後ガ不良デナイコトヲ物語ル。

第六図 距離別外傷頻度



第二十四表 年齢別外傷頻度 (生存者例)

年齢	男			女			計		
	調査数	外傷数	%	調査数	外傷数	%	調査数	外傷数	%
~10歳	257	55	21.4	258	42	16.3	515	97	19.0
11~20	1331	387	29.1	1608	527	32.8	2939	914	31.1
21~30	182	99	54.4	403	136	33.7	585	235	40.2
31~40	190	82	43.2	266	78	29.3	456	160	35.1
41~50	225	86	38.2	264	72	27.3	489	158	32.3
51~60	173	62	35.8	165	37	22.4	338	99	29.4
61~	94	27	28.7	104	29	27.9	198	56	28.3
計	2452	798		3068	921		5520	1719	

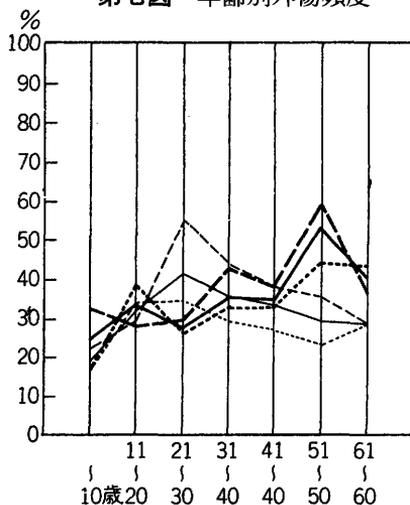
第二十五表 年齢別外傷頻度 (死亡者例)

年齢	男			女			計		
	調査数	外傷数	%	調査数	外傷数	%	調査数	外傷数	%
~10歳	25	8	32.0	18	3	16.7	43	11	25.6
11~20	57	16	28.1	52	20	38.5	109	36	33.0
21~30	27	8	29.6	34	9	26.5	61	17	27.9
31~40	12	5	41.7	16	5	31.3	28	10	35.7
41~50	16	6	37.5	22	7	31.8	38	13	34.2
51~60	17	10	58.8	14	6	42.9	31	16	51.6
61~	11	4	36.4	12	5	41.7	23	9	39.1
計	165	57		168	55		333	112	

第二節 年齢ト外傷ノ頻度

外傷ハ生存者デハ幼児ニ少ク二十一〜三十歳ノ壯年者ニ最高トナツ
 テキルガ、死亡者デハ年齢ト共ニ漸増シ五十一〜六十歳ノ老人ガ最モ
 多イ。

第七図 年齢別外傷頻度



第二十六表 環境別外傷頻度 (生存者例)

環境	男			女			計		
	調査数	外傷数	%	調査数	外傷数	%	調査数	外傷数	%
屋外 (開放)	286	10	3.5	259	15	5.8	545	25	4.6
〃 (陰)	368	71	19.3	306	57	18.6	674	128	19.0
屋内 (木造)	1331	487	36.6	1867	605	32.4	3198	1092	34.1
〃 (コンクリート)	337	211	62.6	439	231	52.7	776	442	57.0
壕内	130	19	14.6	197	13	6.6	327	32	9.8
計	2452	798		3068	921		5520	1719	

第二十七表 環境別外傷頻度 (死亡者例)

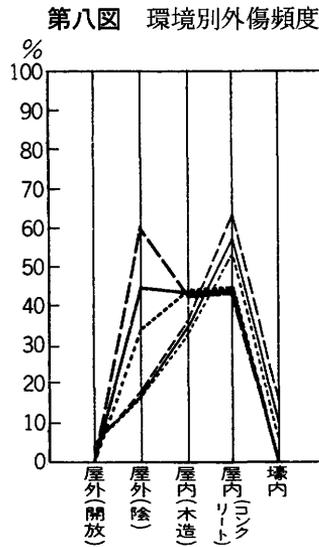
環境	男			女			計		
	調査数	外傷数	%	調査数	外傷数	%	調査数	外傷数	%
屋外 (開放)	32	0	0	36	0	0	68	0	0
〃 (陰)	15	9	60.0	18	6	33.3	33	15	45.5
屋内 (木造)	96	40	41.7	88	38	43.2	184	78	42.4
〃 (コンクリート)	19	8	42.1	25	11	44.0	44	19	43.2
壕内	3	0	0	1	0	0	4	0	0
計	165	57		168	55		333	112	

第三節 環境ト外傷ノ頻度

生存者デハ「コンクリート」屋内ノ外傷ガ断然多イ。コレハ硝子破

片ニヨル切創ガ多カッタ結果デアル。木造屋内デハ打撲傷、挫創等モアルガ、矢張り硝子創モ多イ。屋外（開放）デハ熱傷ガ多ク外傷ハ少イ。壕内デハ共ニ少イガ、多少共コレガ見ラレルノハ多クハ打撲傷デアル。

死亡者例デハ屋外（開放）ト壕内ノ外傷ハ一例モナク、屋外（陰）、屋内（木造）、屋内（コンクリート）ノ三者ハ略々同率ヲ占メル。



第二十八表 距離別外傷ノ種類（生存者、男）

外傷種類	0~1 km		1~1.5 km		1.5~2 km		2~3 km		3~4 km		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
切創	80	63.5	201	58.4	43	46.7	91	57.6	60	75.0	475	59.5
挫創	16	12.7	50	14.5	11	12.2	18	11.4	7	8.8	102	12.8
打撲	18	14.3	62	18.0	26	28.9	39	24.7	13	16.3	158	19.8
擦過	8	6.4	12	3.5	3	3.3	7	4.4	0	0	30	3.8
骨折	3	2.4	11	3.2	1	1.1	2	1.3	0	0	17	2.1
不詳	1	0.8	8	2.3	6	6.7	1	0.6	0	0	16	2.0
計	126		344		90		158		80		798	

第二十九表 距離別外傷ノ種類（死亡者例、男女）

外傷種類	0~1 km		1~1.5 km		1.5~2 km		2~3 km		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
切創(硝子)	46	38.0	20	40.8	2	33.3	2	66.7	70	39.1
挫創	29	24.0	12	25.5	3	50.0	0	0	44	24.6
打撲	39	32.2	12	25.5	1	16.7	1	33.3	53	29.6
擦過	1	0.8	1	2.0	0	0	0	0	2	1.1
骨折	6	5.0	4	8.2	0	0	0	0	10	5.6
不詳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	121		49		6		3		179	

第四節 外傷ノ種類

何レノ場合モ硝子破片ニヨル切創ガ最多イ。生存者デハ約六割ヲ占メ、死亡者デハ四割ヲ占メル。

次ハ打撲傷、挫創ノ順デ擦過傷、骨折等ハ極メテ少イ。骨折ノ如キ重傷ハ近距離ニ多イ。コレハ倒壊家屋ノ下敷トナツタリ、又ハ爆風ニ吹キトバサレテ生ズルカラデア。硝子創ハ遠距離ニモ存在シ、却ツテ他ノ外傷ガ少イノデ百分率ハ多クナツテキル。四km外デハ六人ノ受傷者中切創ガ五人（八三・三%）ヲ占メル。

男女間ノ差異ハ余リ認メラレナイ。切創及骨折ハ女ニ多ク、挫創ト打撲傷ハ男ニ多イ結果ニナツテキルガ、コレ位ノ数ノ統計デハ何トモ云ヘナイト思フ。

第三十表 性別外傷ノ種類（死亡者例）

外傷種類	男		女	
	例数	%	例数	%
切創	35	38.0	35	40.2
挫創	24	26.1	20	23.0
打撲傷	28	30.4	25	28.7
擦過傷	1	1.1	1	1.2
骨折	4	4.3	6	6.9
不詳	0	0	0	0
計	92		87	

年齢間ニモ殆ド差異ガ認メラレナイ、六十二歳以上ノモノニ切創ガ稍々多クナツテキルガ、例数ノ少イ為カモ知レナイ。骨折ハ三十一、四十歳ノ壮年ニ最も多イコトニナツテキルガ、コレモ例数ガ少イノデ何トモ云ヘナイト思フ。他ハ殆ド差ガナイ。却ツテ奇異ノ感ガスル。

尚環境別ニモ統計ヲトルベキデアルガ、第二十六、二十七表及第八図ヲ参照スレバ、硝子創ガ殆ド大部分デアルカラ、屋内ニ於テ硝子創ガ多イコトハ明カニナルト思フ。

第三十一表 年齢別外傷ノ種類（生存者、男）

外傷種類	～10歳		11～20		21～30		31～40		41～50		51～60		61歳～	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
切創	31	56.4	238	61.2	55	55.5	46	56.1	50	59.5	35	56.4	20	74.1
挫創	7	12.7	52	13.4	14	14.4	9	11.0	11	13.1	7	11.3	2	7.4
打撲傷	8	14.5	78	20.1	20	20.2	18	22.0	17	20.2	14	22.6	3	11.1
擦過傷	5	9.1	9	2.3	7	7.1	0	0	4	4.8	4	6.5	1	3.7
骨折	2	3.6	5	1.3	1	1.0	4	4.9	2	2.4	2	3.2	1	3.7
不詳	2	3.6	7	1.8	2	2.0	5	6.1	0	0	0	0	0	0
計	55		389		99		82		84		62		27	

第三十二表 距離別頻度（生存者例）

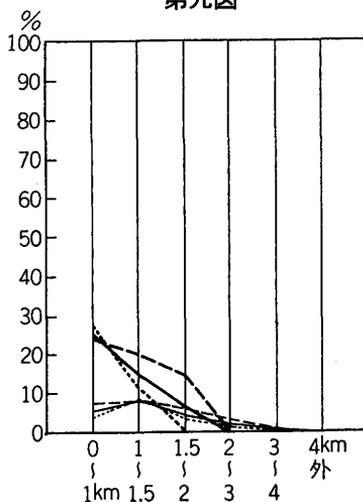
距離	男			女			計		
	調査数	外傷数	%	調査数	外傷数	%	調査数	外傷数	%
0 ~1 km	250	20	8.0	193	9	4.7	443	29	6.5
1 ~1.5	612	51	8.3	789	73	9.3	1401	124	8.9
1.5~2	352	22	6.2	506	20	4.0	858	42	4.9
2 ~3	749	18	2.4	990	9	0.9	1739	27	1.6
3 ~4	489	4	0.8	590	1	0.2	1079	5	0.5
計	2452	115		3068	112		5520	227	
4 km外	55	0	0	173	0	0	228	0	0

第三十三表 同上（死亡者例）

距離	男			女			計		
	調査数	外傷数	%	調査数	外傷数	%	調査数	外傷数	%
0 ~1 km	99	24	24.2	93	26	28.0	192	50	26.0
1 ~1.5	45	9	20.0	60	7	11.7	105	16	15.2
1.5~2	14	2	14.3	12	0	0	26	2	7.7
2 ~3	7	0	0	3	0	0	10	0	0
3 ~4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	165	35		168	33		333	68	
4 km外	0	0	0	0	0	0	0	0	0

第四章 熱傷ト外傷ノ合併例ニ就テ
 第一節 爆心ヨリノ距離ト熱傷兼外傷例ノ頻度

第九図



熱傷ト外傷ノ合併例ハ一般ニ近距離ニ多く、コトニ死亡者例ニ於テ
 サウデアル。
 尚死亡者ノ例ガ生存者ノ場合ヨリ高率トナツテキルノハ、予後ノ不
 良ナルコトヲ表ハスモノデアル。

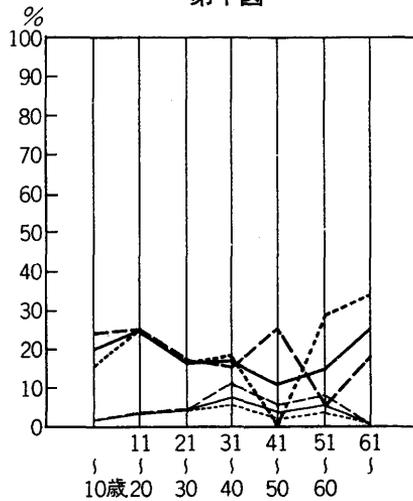
第三十四表 年齢別頻度（生存者例）

年 齡	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
～10 歳	257	3	1.2	258	4	1.6	515	7	1.4
11～20	1331	54	4.1	1608	63	3.9	2939	117	4.0
21～30	182	10	5.5	403	18	4.5	585	28	4.8
31～40	190	20	10.5	266	15	5.6	456	35	7.8
41～50	225	13	5.8	264	5	1.9	489	18	3.7
51～60	173	15	8.7	165	5	3.0	338	20	5.9
61～	94	0	0	104	2	1.9	198	2	1.0
計	2452	115		3068	112		5520	227	

第三十五表 同上（死亡者例）

年 齡	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
～10 歳	25	6	24.0	18	3	16.7	43	9	20.9
11～20	57	15	26.3	52	13	25.0	109	28	25.7
21～30	27	5	18.5	34	6	17.7	61	11	18.0
31～40	12	2	16.7	16	3	18.8	28	5	17.9
41～50	16	4	25.0	22	0	0	38	4	10.5
51～60	17	1	5.9	14	4	28.6	31	5	16.1
61～	11	2	18.2	12	4	33.3	23	6	26.1
計	165	35		168	33		333	68	

第十図



結果…年齢間ニ大差ヲ見ナイ。死亡者例ハ生存者例ヨリモ遙カニ頻度ガ高い。予後ノ悪イ証左アル。

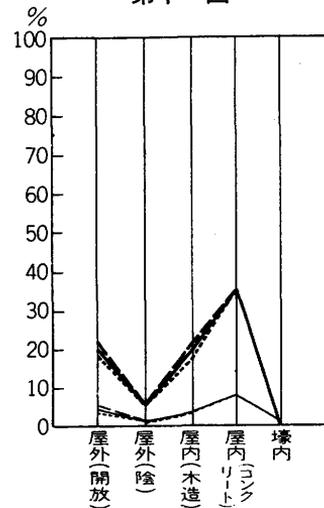
第三十六表 (生存者例)

環 境	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
屋 外 (開放)	32	7	21.9	36	7	19.4	68	14	20.6
〃 (陰)	15	1	6.7	18	1	5.6	33	2	6.1
屋 内 (開放)	96	20	20.8	88	16	18.2	184	36	19.5
〃 (陰)	19	7	36.9	25	9	36.0	44	16	36.4
壕 内	3	0	0	1	0	0	4	0	0
計	165	35		168	33		333	68	

第三十七表 (死亡者例)

環 境	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
屋 外 (開放)	286	20	7.0	259	10	3.9	545	30	5.5
〃 (陰)	368	7	1.9	306	4	1.3	674	11	1.6
屋 内 (木造)	1331	57	4.3	1867	55	2.9	3198	112	3.5
〃 (コンクリート)	337	30	8.9	439	40	9.1	776	70	9.0
壕 内	130	1	0.8	197	3	1.5	327	4	1.2
計	2452	115		3068	112		5520	227	

第十一図



〔兩者共二屋内(コンクリート)ノ頻度ガ最モ高イ。硝子創ト熱傷トガ合併スルカラデアアル。〕

第三十八表 (生存者、男)

種 類	0~1 km		1~1.5 km		1.5~2 km		2~3 km		3~4 km		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
熱傷ト切創	14	70.0	28	54.9	11	50.0	10	55.6	1	25.0	64	55.7
ト打撲傷	3	15.0	12	23.5	6	27.3	5	27.8	2	50.0	28	24.3
ト其他傷	3	15.0	11	21.6	5	22.7	3	16.7	1	25.0	23	20.0
不詳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	20		51		22		18		4		115	

第四節 熱傷ト合併スル外傷ノ種類
 此場合モ外傷ノミノ時ト同ジク、
 切創ト合併スルモノガ最も多イ。次
 ハ打撲傷デアリ、其他ノ傷中ニハ挫
 創、骨折等ガ含マレルガ、其数ハ極
 メテ少イ。

第三十九表 (生存者例)

距 離	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
0 ~1 km	250	67	26.8	193	66	34.2	443	133	30.0
1 ~1.5	612	142	23.2	789	240	30.4	1401	382	27.3
1.5~2	352	147	41.8	506	243	48.0	858	390	45.5
2 ~3	749	433	57.8	990	660	66.7	1739	1093	62.9
3 ~4	489	357	73.0	590	464	78.6	1079	821	76.1
計	2452	1146	83.6	3068	1673		5520	2819	
4 km外	55	46	83.6	173	162	93.6	228	208	91.2

第四十表 (死亡者例)

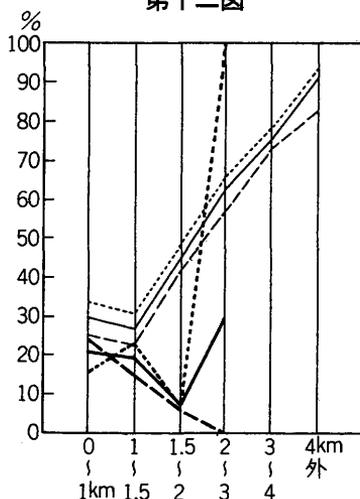
距 離	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
0 ~1 km	99	25	25.3	93	16	17.2	192	41	21.4
1 ~1.5	45	7	15.6	60	14	23.3	105	21	20.0
1.5~2	14	1	7.1	12	1	8.3	26	2	7.7
2 ~3	7	0	0	3	3	100.0	10	3	33.3
計	165	33		168	34		333	67	

第五章 無傷例ニ就テ
 第一節 爆心ヨリノ距離ト無傷例ノ頻度

生存者ノ無傷例ハ距離ノ増大ト共ニ急激ニ増加スル。死亡者例デハ
 逆ニ距離ト共ニ減少スル。二、三kmノモノハ例外デアアル。

男女ノ比較デハ一般ニ無傷例ハ男ヨリモ女ニ多イ。
 死亡者例ノ曲線ガ生存者例ヨリモ下ニアルコトハ無傷ノ予後ノ良イ
 コトヲ表ハス。

第十二圖



第四十一表 (生存者例)

年 齡	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
~10 歳	257	161	62.6	258	179	69.4	515	340	66.0
11~20	1331	702	52.7	1608	897	55.8	2939	1599	54.4
21~30	182	43	23.6	403	187	46.4	585	230	39.3
31~40	190	51	26.8	266	129	48.5	456	180	39.5
41~50	225	79	35.1	264	138	52.3	489	217	44.4
51~60	173	60	34.7	165	88	53.3	338	148	43.8
61~	94	50	53.2	104	55	52.9	198	105	53.0
計	2452	1146		3068	1673		5520	2819	

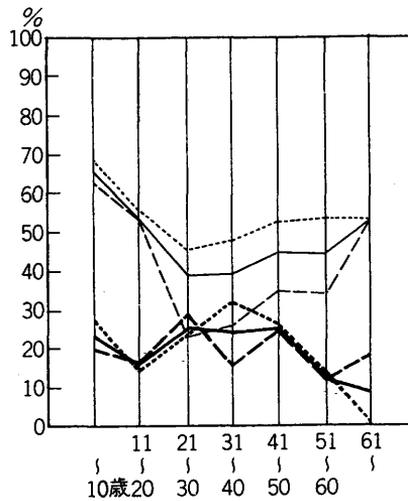
第四十二表 (死亡者例)

年 齡	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
~10 歳	25	5	20.0	18	5	27.8	43	10	23.3
11~20	57	10	17.5	52	8	15.4	109	18	16.5
21~30	27	8	29.6	34	8	23.5	61	16	26.2
31~40	12	2	16.7	16	5	31.3	28	7	25.0
41~50	16	4	25.0	22	6	27.2	38	10	26.3
51~60	17	2	11.8	14	2	14.3	31	4	12.9
61~	11	2	18.2	12	0	0	23	2	8.7
計	165	33		168	34		333	67	

第二節 年齢ト無傷例ノ頻度

無傷者ハ若年及高年ニ多ク（生存者）、中年ニ少イ。女ハ男ヨリモ遙カニ多イ。之ニ反シ死亡例デハ無傷ハ中年ニ多ク、高年者ニ少イ。即チ中年者ハ無傷デモ原子症ニ犯サレルモノガ多イト云フ結果ニナル。死亡例ノ頻度ガ生存者ヨリ少イコトハ、矢張り予後ノ良イコトヲ表ハスモノト思フ。

第十三図



第四十三表（生存者例）

環境	男			女			計		
	調査数	外傷数	%	調査数	外傷数	%	調査数	外傷数	%
屋外 (開放)	286	23	8.0	259	38	14.7	545	61	11.2
〃 (陰)	368	262	71.2	306	233	76.1	674	495	73.4
屋内 (木造)	1331	673	50.6	1867	1082	58.0	3198	1755	54.9
〃 (コンクリート)	337	84	24.9	439	151	34.4	776	235	30.1
壕内	130	104	80.0	197	169	85.8	327	273	83.5
計	2452	1146		3068	1673		5520	2819	

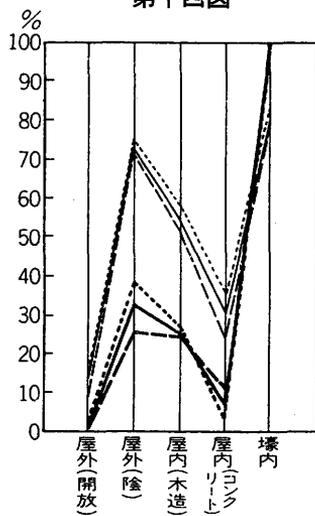
第四十四表（死亡者例）

環境	男			女			計		
	調査数	外傷数	%	調査数	外傷数	%	調査数	外傷数	%
屋外 (開放)	32	0	0	36	1	2.8	68	1	1.5
〃 (陰)	15	4	26.7	18	7	38.9	33	11	33.3
屋内 (木造)	96	24	25.0	88	24	27.3	184	48	26.1
〃 (コンクリート)	19	2	10.5	25	1	4.0	44	3	6.8
壕内	3	3	100.0	1	1	100.0	4	4	100.0
計	165	33		168	34		333	67	

第三節 環境ト無傷例ノ頻度

無傷例ハ共ニ屋外(陰)ト壕内ニ多イ。屋外(開放)デハ熱傷多ク「コンクリート」屋内デハ硝子創ガ多イノデ共ニ無傷例ハ低率ヲ示ス。無傷例ガ女ニ多く、予後ガ他ノ場合ヨリモヨイコトハ、コノ曲線カラモ窺ハレル。

第十四図



第四編 原子爆弾ニヨル放射線病ニ就テ

第一章 嘔氣ニ就テ
第一節 爆心ヨリノ距離ト嘔氣頻度

長崎医科大学 外科第一教室 教授 來助
 同 外科第一教室 助教授 木戸利一
 同 解剖学教室 助教授 佐藤純一郎
 同 風土病研究所 助教授 一瀬賢吾
 同 細菌学教室 助教授 高橋庄四郎

緒言

余等ハ第三編ニ於テ述ベタ原子爆弾罹災者六〇〇〇有余人ニツキ、更ニ放射線病ノ發生状況ヲ考察シタノデ、茲ニ略述スル。

原子爆弾ニヨル放射線病ハ中性子並ニγ線ニヨルモノトサレル。其症状ニハ種々アルガ、不確實ニナリ勝ナ項目ヲ除キ、次ノ十一症状ニツキ統計ヲトルコトトシタ。即チ、嘔氣（嘔氣ノミデ嘔吐ヲナサナカッタモノ）、嘔吐（嘔氣ノ上ニ更ニ嘔吐ヲ伴ツタモノ）、下痢、発熱、出血、脱毛、意識障碍、眩暈、頭痛、腹痛、嚔下通、以上十一症状デアル。

統計ハ主トシテ其頻度ヲ調べルコトトシタガ、二ノ三ノ症状ニツイテハ其出現期ヲモ調べテミタ。又頻度調査ニ當ッテハ、距離別、年齢別、環境別、損傷別ニ夫々統計ヲトツタ。
 以下ハ其成績デアル。

第一表 (生存者例)

距離	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
0 ~1 km	250	22	8.8	193	16	8.3	443	38	8.6
1 ~1.5	612	71	11.6	789	81	10.3	1401	152	10.9
1.5~2	352	20	5.7	506	18	3.6	858	38	4.4
2 ~3	749	39	5.2	990	39	3.9	1739	78	4.5
3 ~4	489	10	2.0	590	28	4.7	1079	38	3.5
計	2452	162		3068	182		5520	344	
4 km外	55	2	3.6	173	0	0	228	2	0.9

第二表 (死亡者例)

距離	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
0 ~1 km	99	8	8.1	93	6	6.5	192	14	7.3
1 ~1.5	45	1	2.2	60	4	6.7	105	5	4.8
1.5~2	14	2	14.3	12	2	16.7	26	4	15.4
2 ~3	7	2	28.6	3	0	0	10	2	20.0
計	165	13		168	12		333	25	

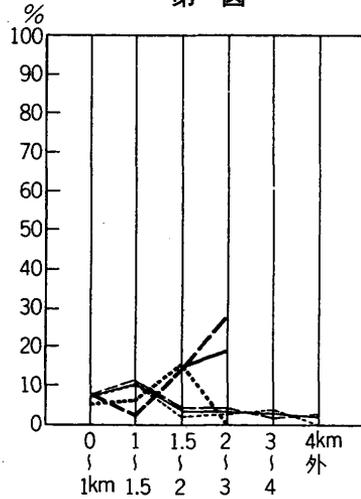
結果…嘔気トハ嘔吐ヲ伴ハヌ嘔気ノミノ例デアアルガ、生存者デハ一

五km迄ハ幾分頻度ガ高イガ、二km以上ハ殆下差異ガナイ。コレハ原子爆弾ノ放射線病ノ症状トシテ意義ノ少イコトヲ示スモノデアアル。

死亡者例デハ近距離ニ少ク、遠距離ニ多クナツテキル。コレハ近距離デハ嘔吐ヲ伴フコト多ク、遠距離ニナルニ従ヒ嘔吐ヲ伴ハヌ嘔気ガ多イコトヲ意味スル。

又生存者ノ場合ト死亡者ノ場合ト頻度ニ大差ガナイ。コノコトモ原子爆弾症症状トシテ意義ノ少イコトヲ表ハスモノデア

第一圖



第三表 (生存者例)

年 齡	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
~10 歳	257	6	2.3	258	2	0.8	515	8	1.6
11~20	1331	88	6.6	1608	107	6.7	2939	195	6.6
21~30	182	26	14.3	403	30	7.4	585	56	9.6
31~40	190	18	9.5	266	17	6.8	456	35	7.7
41~50	225	17	7.6	264	14	5.3	489	31	6.3
51~60	173	5	2.9	165	10	6.1	338	15	4.4
61~	94	2	2.1	104	2	1.9	198	4	2.0
計	2452	162		3068	182		5520	344	

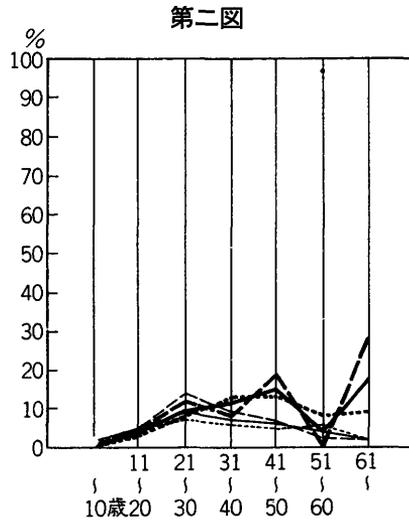
第四表 (死亡者例)

年 齡	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
~10 歳	25	0	0	18	0	0	43	0	0
11~20	57	3	5.3	52	2	3.9	109	5	4.6
21~30	27	3	11.1	34	3	8.8	61	6	9.8
31~40	12	1	8.3	16	2	12.5	28	3	10.7
41~50	16	3	18.8	22	3	13.6	38	6	15.8
51~60	17	0	0	14	1	7.1	31	1	3.2
61~	11	3	27.3	12	1	8.3	23	4	17.4
計	165	13		168	12		333	25	

第二節 年齢別嘔気ノ頻度

結果…生存者デハ中年ノモノニ幾分多く、幼児及老年ニ少イ。然シ其間ニ余リ大差ハナイ。

死亡者デハ高年ニナルニツレテ幾分多クナツテキルヤウダ。然シコレモ大差ハナイ。又生存者ト死亡者トノ間ニモ目立ツ程ノ差異ガナイ。



第五表 (生存者例)

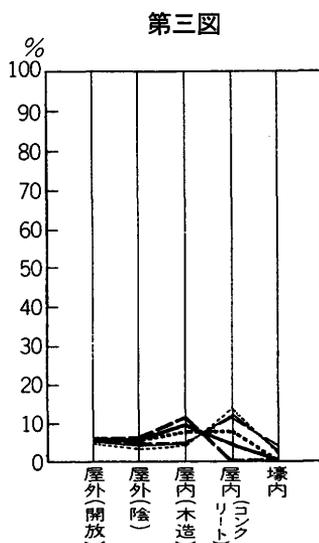
環 境	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
屋 外 (開放)	286	19	6.6	259	15	5.8	545	34	6.2
〃 (陰)	368	19	5.2	306	13	4.2	674	32	4.7
屋 内 (木造)	1331	82	6.2	1867	106	5.7	3198	188	5.9
〃 (コンクリート)	337	36	10.7	439	44	12.3	776	80	10.3
壕 内	130	6	4.6	197	4	2.0	327	10	3.0
計	2452	162	6.7	3068	182	5.9	5520	344	6.2

第六表 (死亡者例)

環 境	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
屋 外 (開放)	32	2	6.3	36	2	5.6	68	4	6.0
〃 (陰)	15	1	6.7	18	1	5.6	33	2	6.1
屋 内 (木造)	96	10	10.4	88	7	8.0	184	17	9.2
〃 (コンクリート)	19	0	0	25	2	8.0	44	2	4.5
壕 内	3	0	0	1	0	0	4	0	0
計	165	13	7.9	168	12	7.1	333	25	7.5

第三節 環境別嘔気ノ頻度

結果…生存者、死亡者共ニ屋内ニ居タモノガ最モ嘔氣ノ頻度ガ高イ。
然シ、其他ノモノト雖モ大差ナク、且ツ生存者ト死亡者トノ間ノ差
異モ極メテ僅少デアル。



第七表 (生存者例)

損傷	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
熱傷	393	29	7.4	362	22	6.1	755	51	6.7
外傷	798	88	11.0	921	72	7.8	1719	160	9.2
熱傷兼外傷	115	9	7.8	112	7	6.3	227	16	7.0
無傷	1146	36	3.2	1673	81	4.8	2819	117	4.0
計	2452	162		3068	182		5520	344	

第八表 (死亡者例)

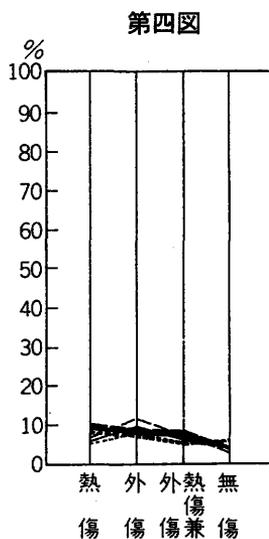
損傷	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
熱傷	40	4	10.0	46	4	8.7	86	8	9.3
外傷	57	5	8.8	55	4	7.3	112	9	8.0
熱傷兼外傷	35	3	8.6	33	2	6.1	68	5	7.4
無傷	33	1	3.0	34	2	5.9	67	3	4.5
計	165	13		168	12		333	25	

第四節 損傷別嘔氣ノ頻度

結果…生存者デハ外傷ノ場合ニ多イ様デアルガ、各損傷間ニ大ナル差

異ハ認メラレナイ。生存者、死亡者間ニモ大差ハナイ。

即チ嘔氣ハ原子爆弾症ニトツテ大ナル意義ヲ有スルモノデナイコトガ、コレニヨツテモ想像サレル。



第九表 (男、死亡者例)

出現期	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
当日ノミ	3	37.5	0	0	1	50.0	0	0	4	30.8
当日及翌日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当日ヨリ数日間或ハ死亡迄	4	50.0	0	0	0	0	0	0	4	30.8
翌日又ハ1週以内ニ出現	0	0	1	100.0	0	0	0	0	1	7.7
第2週ニ出現	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第3週ニ出現	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第4週以後ニ出現	0	0	0	0	0	0	1	50.0	1	7.7
不詳	1	12.5	0	0	1	50.0	1	50.0	3	23.1
計	8		1		2		2		13	

第十表 (女、死亡者例)

出現期	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
当日ノミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当日及翌日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当日ヨリ数日間或ハ死亡迄	2	33.3	1	25.0	1	50.0	0	0	4	33.3
翌日又ハ1週以内ニ出現	2	33.3	1	25.0	1	50.0	0	0	4	33.3
第2週ニ出現	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第3週ニ出現	1	16.7	0	0	0	0	0	0	1	8.3
第4週以後ニ出現	0	0	2	50.0	0	0	0	0	2	16.7
不詳	1	16.7	0	0	0	0	0	0	1	8.3
計	6		4		2		0		12	

第五節 嘔氣ノ出現期

第十一表 (男女合計、死亡者例)

出現期	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
当日ノミ	3	21.4	0	0	1	25.0	0	0	4	16.0
当日及翌日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当日ヨリ数日間或ハ死亡迄	6	42.9	1	20.0	1	25.0	0	0	8	32.0
翌日又ハ1週以内ニ出現	2	14.3	2	40.0	1	25.0	0	0	5	20.0
第2週ニ出現	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第3週ニ出現	1	7.1	0	0	0	0	0	0	1	4.0
第4週以後ニ出現	0	0	2	40.0	0	0	1	50.0	3	12.0
不詳	2	14.3	0	0	1	25.0	1	50.0	4	16.0
計	14		5		4		2		25	

結果…嘔気ハ早期ニ現ハレルノヲ常トスル。当日ニ始マルモノガ約半
数ヲ占メ、一週以内ニ出現スルモノハ合計約七十%デアル。生存者
デハ幾分異ルト思ハレルガ、茲ニハ省略スル。

第十二表 (生存者例)

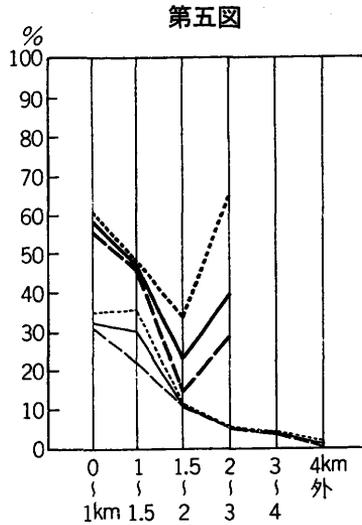
距離	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
0 ~1 km	250	77	30.8	193	68	35.2	443	145	32.7
1 ~1.5	612	134	21.9	789	288	36.5	1401	422	30.1
1.5~2	352	37	10.5	506	60	11.8	858	97	11.3
2 ~3	749	45	6.0	990	62	6.3	1739	107	6.2
3 ~4	489	22	4.5	590	33	5.6	1079	55	5.1
計	2452	315	12.8	3068	511	16.7	5520	826	15.0
4 km外	55	0	0	173	3	1.7	228	3	1.3

第十三表 (死亡者例)

距離	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
0 ~1 km	99	56	56.6	93	56	60.2	192	112	58.3
1 ~1.5	45	21	46.7	60	29	48.3	105	50	47.6
1.5~2	14	2	14.3	12	4	33.3	26	6	23.1
2 ~3	7	2	28.6	3	2	66.7	10	4	40.0
計	165	81		168	91		333	172	51.6

結果..

- 1) 生存者、死亡者共ニ距離程頻度が大デ、距離が大トナル程減少スル。死亡者例デニ、3kmノモノガ大トナルノハ例数ガ少イタメノ誤差ト思ハレル。
- 2) 生存者例ト死亡者例トノ間ニ頻度ノ差ガ著シイノハ、放射線病ガ重篤デアレバアル程嘔吐ノ襲来スルコトヲ意味スルモノデ、本症ノ症状トシテ大ナル意義ヲ持ツモノデアルコトガ判ル。
- 3) 一般ニ女ハ男ヨリモ高率ヲ示ス。



第十四表 (生存者例)

年齢	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
~10歳	257	28	10.9	258	42	16.3	515	70	13.6
11~20	1331	172	12.9	1608	281	17.5	2939	453	15.4
21~30	182	39	21.4	403	93	23.1	585	132	22.6
31~40	190	27	14.2	266	45	16.9	456	72	15.8
41~50	225	29	12.9	264	24	9.1	489	53	10.8
51~60	173	16	9.2	165	16	9.7	338	32	9.5
61~	94	4	4.2	104	10	9.6	198	14	7.1
計	2452	315		3068	511		5520	826	

第十五表 (死亡者例)

年齢	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
~10歳	25	12	48.0	18	9	50.0	43	21	48.8
11~20	57	29	50.9	52	33	63.5	109	62	56.9
21~30	27	18	66.7	34	20	58.9	61	38	62.3
31~40	12	7	58.3	16	6	37.5	28	13	46.4
41~50	16	5	31.3	22	10	45.5	38	15	39.5
51~60	17	7	41.2	14	6	42.9	31	13	41.9
61~	11	3	27.3	12	7	58.3	23	10	43.5
計	165	81		168	91		333	172	

第二節 年齢別嘔吐ノ頻度

結果..

1)

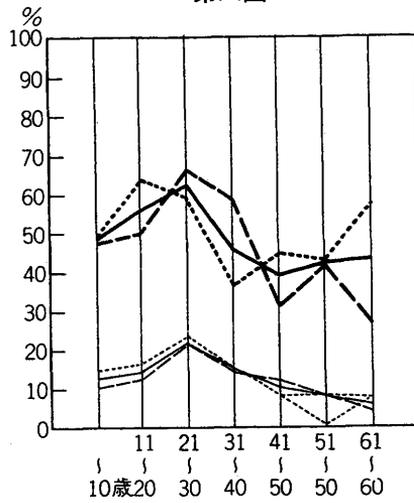
生存者モ死亡者モ二十一〜三十歳ノ壯年者ニ於テ頻度ガ高い。老人ニハ漸次ニ減少スル。敏感度ノ相異ニヨルモノト思ハレ

ル。

2)

死亡者ノ頻度ハ生存者ノ場合ヨリモ著シク高率ヲ示ス。

第六図



第十六表 (生存者例)

環境	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
屋外 (開放)	286	41	14.3	259	49	18.9	545	90	16.5
〃 (陰)	368	36	9.8	306	35	11.4	674	71	10.5
屋内 (木造)	1331	184	13.8	1867	295	15.8	3198	479	15.0
〃 (コンクリート)	337	49	14.5	439	125	28.5	776	174	22.2
壕内	130	5	3.8	197	7	3.6	327	12	3.7
計	2452	315		3068	511		5520	826	

第十七表 (死亡者例)

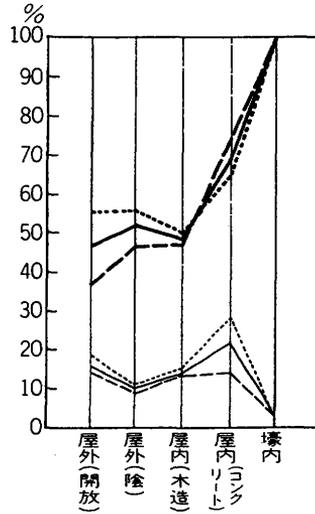
環境	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
屋外 (開放)	32	12	37.5	36	20	55.6	68	32	47.8
〃 (陰)	15	7	46.7	18	10	55.6	33	17	51.5
屋内 (木造)	96	45	46.9	88	44	50.0	184	89	48.4
〃 (コンクリート)	19	14	73.7	25	16	64.0	44	30	68.2
壕内	3	3	100.0	1	1	100.0	4	4	100.0
計	165	81		168	91		333	172	

第三節 環境別嘔吐ノ頻度

結果..

- 1) 一般ニ女ハ男ヨリモ嘔吐ノ頻度ガ高イ。感受性ノ強イタメデアラウ。
- 2) 「コンクリート」屋内ノモノニ高率ヲ示シテキルノハ奇異ノ感ガスル。
- 3) 死亡者ノ頻度ハ生存者ノソレヨリモ遙カニ高イ。

第七図



第十八表 (生存者例)

損傷	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
熱傷	393	56	14.2	362	78	21.5	755	134	17.7
外傷	798	138	17.3	921	232	25.2	1719	370	21.5
熱傷兼外傷	115	24	20.9	112	45	40.2	227	69	30.4
無傷	1146	97	8.5	1673	156	9.3	2819	253	8.9
計	2452	315		3068	511		5520	826	

第十九表 (死亡者例)

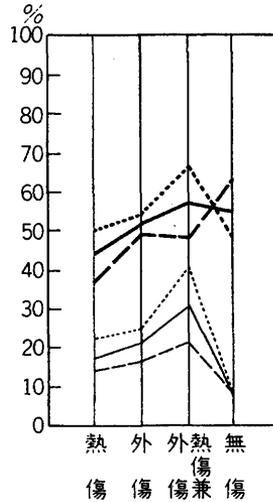
損傷	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
熱傷	40	15	37.5	46	23	50.0	86	38	44.2
外傷	57	28	49.1	55	30	54.5	112	58	51.8
熱傷兼外傷	35	17	48.6	33	22	66.7	68	39	57.3
無傷	33	21	63.6	34	16	47.1	67	37	55.2
計	165	81		168	91		333	172	

第四節 損傷別嘔吐ノ頻度

結果..

- 1) 生存者デハ熱傷兼外傷ガ最モ頻度ガ高ク、無傷ガ最モ低イ。
 - 2) 死亡者デモ熱傷兼外傷ガ頻度最高デアアルガ、無傷ハ次ニ高率
 - 3) デ熱傷ノミノ場合ガ最低トナツテキル。
 - 4) 女ハ男ヨリ頻度ガ高イ。
- 死亡者ハ生存者ヨリモ頻度ガ高イ。

第八圖



第二十表 (男、死亡者例)

出現期	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
当日ノミ	12	21.4	7	33.3	0	0	0	0	19	23.5
当日及翌日	5	8.9	5	23.8	1	50.0	0	0	11	13.6
当日ヨリ数日間或ハ死亡迄	11	19.6	4	19.0	0	0	0	0	15	18.5
翌日又ハ1週以内ニ出現	18	32.1	2	9.5	0	0	1	50.0	21	25.9
第2週ニ出現	2	3.6	0	0	0	0	0	0	2	2.5
第3週ニ出現	2	3.6	0	0	1	50.0	0	0	3	3.7
第4週以後ニ出現	1	1.8	2	9.5	0	0	1	50.0	4	4.9
不詳	5	8.9	1	4.8	0	0	0	0	6	7.4
計	56		21		2		2		81	

第二十一表 (女、死亡者例)

出現期	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
当日ノミ	8	14.3	6	20.7	1	25.0	0	0	15	16.5
当日及翌日	2	3.5	5	17.2	1	25.0	0	0	8	8.8
当日ヨリ数日間或ハ死亡迄	19	33.9	8	27.6	0	0	0	0	27	29.7
翌日又ハ1週以内ニ出現	22	39.3	1	3.5	2	50.0	0	0	25	27.5
第2週ニ出現	1	1.8	1	3.5	0	0	0	0	2	2.2
第3週ニ出現	0	0	1	3.5	0	0	1	50.0	2	2.2
第4週以後ニ出現	0	0	4	13.8	0	0	0	0	4	4.4
不詳	4	7.2	3	10.4	0	0	1	50.0	8	8.8
計	56		29		4		2		91	

第五節 嘔吐ノ出現期

第二十二表 (男女合計、死亡者例)

出現期	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
当日ノミ	20	17.9	13	26.0	1	16.7	0	0	34	19.8
当日及翌日	7	6.3	10	20.0	2	33.3	0	0	19	11.0
当日ヨリ数日間或ハ死亡迄	30	26.8	12	24.0	0	0	0	0	42	24.4
翌日又ハ1週以内ニ出現	40	35.7	3	6.0	2	33.3	1	25.0	46	26.7
第2週ニ出現	3	2.7	1	2.0	0	0	0	0	4	2.3
第3週ニ出現	2	1.8	1	2.0	1	16.7	1	25.0	5	2.9
第4週以後ニ出現	1	0.9	6	12.0	0	0	1	25.0	8	4.7
不詳	9	8.0	4	8.0	0	0	1	25.0	14	8.1
計	112		50		6		4		172	

結果…嘔吐モ初期ニ出現スル。第一週以内ニ始マルモノ、八十二%ノ多キニ達スル。男女間ノ差異ハ殆ドナク、距離別デハ近距離程早期ニ出現スルヤウデアアル。

第二十三表 (生存者例)

距離	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
0 ~1 km	250	101	40.4	193	71	36.8	443	172	38.8
1 ~1.5	612	247	40.4	789	353	44.7	1401	600	42.8
1.5~2	352	120	34.1	506	170	33.6	858	290	33.8
2 ~3	749	225	30.0	990	298	30.1	1739	523	30.1
3 ~4	489	102	20.9	590	154	26.1	1079	256	24.0
計	2452	795	32.4	3068	1046	34.1	5520	1841	33.3
4 km外	55	11	20.0	173	19	11.0	228	30	13.2

第二十四表 (死亡者例)

距離	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
0 ~1 km	99	71	71.7	93	65	69.9	192	136	70.8
1 ~1.5	45	23	51.1	60	40	66.7	105	63	60.0
1.5~2	14	8	57.1	12	8	66.7	26	16	61.5
2 ~3	7	7	100.0	3	3	100.0	10	10	100.0
計	165	109		168	116		333	225	67.6

第三章 下痢ニ就テ
第一節 距離別下痢ノ頻度

結果..

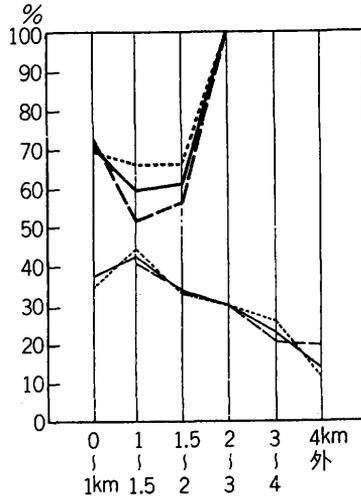
1) 近距離ハ頻度高ク遠距離トナルニ從ヒ低下スル。但四km外ト

雖モ全ク零トナラナイノハ、普通ノ健康人デモ夏季中ニ一回位
下痢スルコトガアルノニ起因スルモノト思ハレル。

2) 死亡者例デハ二〜三kmガ一〇〇%トナツテキルガ、コレハ例
数ノ少イノニヨルモノデアラウ。或ハ下痢ニヨツテ死亡シタ
トモ云フコトガ出来ル。

3) 死亡者ハ生存者ヨリ頻度高ク、原子爆弾症トシテ下痢ガ少カ
ラズ意義アルコトヲ示ス。

第九図



第二十五表 (生存者例)

年 齡	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
~10 歳	257	82	31.9	258	82	31.8	515	164	31.8
11~20	1331	399	30.0	1608	528	32.8	2939	927	31.5
21~30	182	70	38.5	403	162	40.2	585	232	39.7
31~40	190	75	39.5	266	94	35.3	456	169	37.1
41~50	225	96	42.7	264	93	35.2	489	189	38.7
51~60	173	46	26.6	165	57	34.5	338	103	30.5
61~	94	27	28.7	104	30	28.8	198	57	28.8
計	2452	795		3068	1046		5520	1841	

第二十六表 (死亡者例)

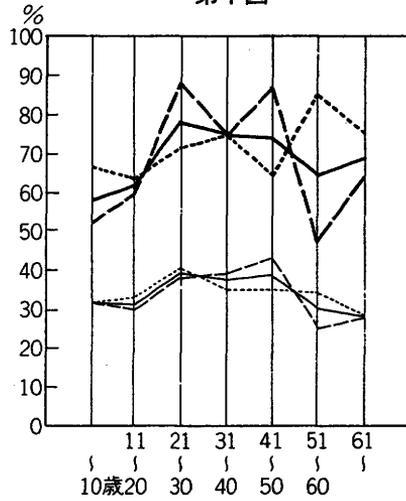
年 齡	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
~10 歳	25	13	52.0	18	12	66.7	43	25	58.1
11~20	57	34	59.7	52	33	63.5	109	67	61.5
21~30	27	24	88.9	34	24	70.6	61	48	78.7
31~40	12	9	75.0	16	12	75.0	28	21	75.0
41~50	16	14	87.5	22	14	63.6	38	28	73.7
51~60	17	8	47.1	14	12	85.7	31	20	64.5
61~	11	7	63.6	12	9	75.0	23	16	69.6
計	165	109		168	116		333	225	

第二節 年齢別下痢ノ頻度

結果..

- 1) 生存者モ死亡者モ中年ニ頻度ガ高い。
- 2) 男女ノ差ハ判然シナイ。
- 3) 死亡者ノ頻度ハ生存者ヨリモ遙カニ大デアル。

第十図



第二十七表 (生存者例)

環 境	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
屋 外 (開放)	286	110	38.5	259	81	31.3	545	191	35.0
〃 (陰)	368	102	27.7	306	106	34.6	674	208	30.9
屋 内 (木造)	1331	440	33.1	1867	623	33.4	3198	1063	33.2
〃 (コンクリート)	337	110	32.6	439	181	41.2	776	291	37.2
壕 内	130	33	25.4	197	55	27.9	327	88	26.8
計	2452	795		3068	1046		5520	1841	

第二十八表 (死亡者例)

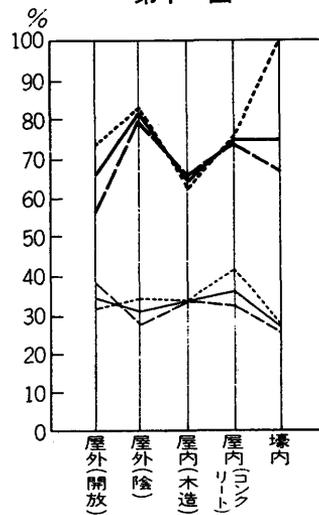
環 境	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
屋 外 (開放)	32	18	56.3	36	26	72.2	68	44	65.7
〃 (陰)	15	12	80.0	18	15	83.3	33	27	81.8
屋 内 (木造)	96	63	65.6	88	55	62.5	184	118	64.1
〃 (コンクリート)	19	14	73.7	25	19	76.0	44	33	75.0
壕 内	3	2	66.7	1	1	100.0	4	3	75.0
計	165	109		168	116		333	225	

第三節 環境別下痢ノ頻度

結果..

- 1) 生存者デハ各環境共殆ド変リガナイ。
- 2) 死亡者デハ屋外陰、「コンクリート」屋内、壕内等遮蔽サレタ場所ノ方ガ高率ヲ示スヤウデアアルガ、例数ガ少イノデ断定ハ出来ナイ。
- 3) 死亡者ノ頻度ハ明カニ生存者ノソレヨリモ高イ。

第十一図



第二十九表 (生存者例)

損傷	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
熱傷	393	131	33.3	362	130	35.9	755	261	34.5
外傷	798	290	36.3	921	386	42.9	1719	676	39.3
熱傷兼外傷	115	46	40.0	112	50	44.6	227	96	42.2
無傷	1146	328	29.5	1673	480	28.7	2819	808	28.6
計	2452	795		3068	1046		5520	1841	

第三十表 (死亡者例)

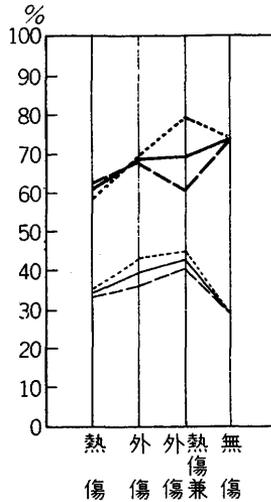
損傷	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
熱傷	40	25	62.5	46	27	58.7	86	52	60.5
外傷	57	39	68.4	55	38	69.1	112	77	68.8
熱傷兼外傷	35	21	60.0	33	26	78.8	68	47	69.1
無傷	33	24	72.7	34	25	73.5	67	49	73.1
計	165	109		168	116		333	225	

第四節 損傷別下痢ノ頻度

結果..

- 1) 生存者デハ熱傷兼外傷ガ最モ多ク無傷ガ最モ少イ。当然ト思フ。
- 2) 死亡者デハ無傷ガ最モ多イコトトナツテ居ル。恐ラク下痢モ死亡ノ一因トナツタモノト思ハレル。
- 3) 女ガ男ヨリ高率ノ様デアアルガ、余リ著シイ差異ハ認メラレナイ。
- 4) 死亡者ノ頻度ハ生存者ヨリ遙カニ大デアアル。

第十二図



第三十一表 (男、死亡者例)

出現期	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
当日ニ始マルモノ	22	31.0	2	8.7	3	37.5	1	14.3	28	25.7
第1週ニ	28	39.4	10	43.5	2	25.0	0	0	40	36.7
第2週ニ	3	4.2	4	17.4	2	25.0	0	0	9	8.3
第3週ニ	8	11.3	2	8.7	1	12.5	1	14.3	12	11.0
第4週ニ	4	5.6	1	4.4	0	0	0	0	5	4.6
第2月ニ	3	4.2	3	13.1	0	0	3	42.9	9	8.3
第3月ニ	0	0	1	4.4	0	0	0	0	1	0.9
不詳	3	4.2	0	0	0	0	2	28.6	5	4.6
計	71		23		8		7		109	

第三十二表 (女、死亡者例)

出現期	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
当日ニ始マルモノ	15	23.1	5	12.5	1	12.5	0	0	21	18.1
第1週ニ	39	60.0	17	42.5	4	50.0	1	33.3	61	52.6
第2週ニ	6	9.2	4	10.0	1	12.5	1	33.3	12	10.3
第3週ニ	2	3.1	3	7.5	0	0	0	0	5	4.3
第4週ニ	2	3.1	5	12.5	1	12.5	0	0	8	6.9
第2月ニ	1	1.5	3	7.5	1	12.5	1	33.3	6	5.2
第3月ニ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不詳	0	0	3	7.5	0	0	0	0	3	2.6
計	65		40		8		3		116	

第五節 下痢ノ出現期

結果…下痢モ早期ニ出現スルノヲ原則トシ、其六十〜七十%ハ第一週ニ現ハレ、其後二五〜十%デ、三ヶ月後ニ現ハレルモノハ殆ドナイ。

第三十三表 (男女合計、死亡者例)

出現期	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
当日ニ始マルモノ	37	27.2	7	11.1	4	25.0	1	10.0	49	21.8
第1週ニ	67	49.3	27	42.9	6	37.5	1	10.0	101	44.9
第2週ニ	9	6.6	8	12.7	3	18.7	1	10.0	21	9.3
第3週ニ	10	7.4	5	7.1	1	6.3	1	10.0	17	7.6
第4週ニ	6	4.4	6	9.5	1	6.3	0	0	13	5.8
第2月ニ	4	2.9	6	9.5	1	6.3	4	40.0	15	6.7
第3月ニ	0	0	1	1.6	0	0	0	0	1	0.4
不詳	3	2.2	3	4.8	0	0	2	20.0	8	3.6
計	136		63		16		10		225	

第三十四表 (男、死亡者例)

合併症	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
血便	8	25.4	4	17.4	3	37.5	2	28.6	27	24.8
腹痛	25	35.2	10	43.5	1	12.5	2	28.6	38	34.9
発熱	61	85.9	20	87.0	7	87.5	2	28.6	90	82.6
腹痛及発熱	20	28.2	8	34.8	1	12.5	0	0	29	26.6
嘔気	7	9.9	1	4.4	1	12.5	2	28.6	11	10.1
嘔吐	45	63.4	12	52.2	1	12.5	2	28.6	60	55.0
下痢総例数	71		23		8		7		109	

第三十五表 (女、死亡者例)

合併症	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
血便	12	18.5	13	32.5	1	12.5	1	33.3	27	23.3
腹痛	2	3.1	3	7.5	0	0	0	0	5	4.3
発熱	36	55.4	20	50.0	5	62.5	3	100.0	64	55.2
腹痛及発熱	25	38.5	11	27.5	1	12.5	0	0	37	31.9
嘔気	4	6.2	4	10.0	2	25.0	0	0	10	8.6
嘔吐	45	69.2	20	50.0	3	37.5	2	66.7	70	60.3
下痢総例数	65		40		8		3		116	

第六節 下痢ノ合併症

第三十六表 (男女合計、死亡者例)

合併症	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
血便	30	22.1	17	27.0	4	25.0	3	30.0	54	24.0
腹痛	27	19.8	13	20.6	1	6.3	2	20.0	43	19.5
発熱	97	71.3	40	63.5	12	75.0	5	50.0	154	68.4
腹痛及発熱	45	33.1	19	30.1	2	12.5	0	0	66	29.3
嘔気	11	8.1	5	7.9	3	18.7	2	20.0	21	9.3
嘔吐	90	66.2	32	50.8	4	25.0	4	40.0	130	57.8
下痢総例数	136		63		16		10		225	

結果…発熱ト合併スル場合ガ最も多イ。特ニ男ガサウデアル。次ハ嘔吐、最も少イノハ嘔気、腹痛等デアル。血便ハ下痢ノ中約二十五% (四分ノ一)ニ存在スル。男女間ノ差異デハ、男デハ発熱ト合併スルコトガ多イノニ反シ女デハ嘔吐ト合併スルコトガ最も多イ。又女ノ腹痛ハ男ニ比べ遙カニ少イ。

第三十七表 (生存者例)

距離	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
0 ~1 km	250	108	43.2	193	85	44.0	443	193	43.6
1 ~1.5	612	208	34.0	789	268	34.0	1401	476	34.0
1.5~2	352	88	25.0	506	70	13.8	858	158	18.4
2 ~3	749	103	13.8	990	137	13.8	1739	240	13.8
3 ~4	489	53	10.8	590	65	11.0	1079	118	10.9
計	2452	560	22.8	3068	625	20.4	5520	1185	21.5
4 km外	55	6	10.9		7	4.0		13	5.7

第三十八表 (死亡者例)

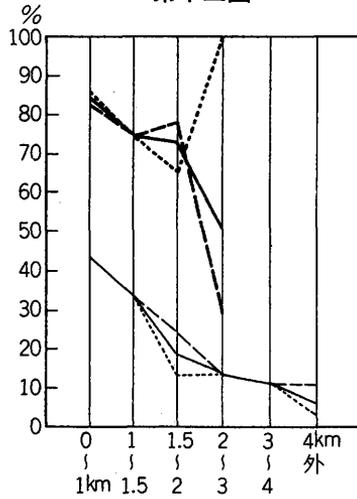
距離	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
0 ~1 km	99	82	82.8	93	80	86.0	192	162	84.4
1 ~1.5	45	34	75.6	60	45	75.0	105	79	75.2
1.5~2	14	11	78.6	12	8	66.7	26	19	73.1
2 ~3	7	2	28.6	3	3	100.0	10	5	50.0
計	165	129		168	136		333	265	80.0

第四章 発熱ニ就テ
第一節 距離別発熱ノ頻度

結果..

- 1) 生存者、死亡者共ニ距離ガ増大スルト共ニ頻度ハ低下スル。
- 2) 生存者ノ頻度ガ4km外デモ○トナライノハ、他ノ原因ニ基クモノガ算入サレタモノト想像サレル。
- 3) 男女ノ差異ハ著明デナイ。
- 4) 死亡者ノ頻度ガ生存者ノ夫レヨリモ遙カニ高イノハ、原子爆弾症ノ死因トシテ発熱ガ重要ナ位置ヲ占ムルコトガ明カニ首肯サレル。

第十三図



第三十九表 (生存者例)

年 齢	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
~10 歳	257	50	19.46	258	65	25.2	515	115	22.2
11~20	1331	245	18.4	1608	308	19.2	2939	553	18.8
21~30	182	76	41.8	403	119	29.5	585	195	33.3
31~40	190	73	38.4	266	49	18.4	456	122	26.8
41~50	225	71	31.5	264	40	15.2	489	111	24.7
51~60	173	37	21.8	165	28	17.0	338	65	19.2
61~	94	8	8.5	104	16	15.4	198	24	12.1
計	2452	560		3068	625		5520	1185	

第四十表 (死亡者例)

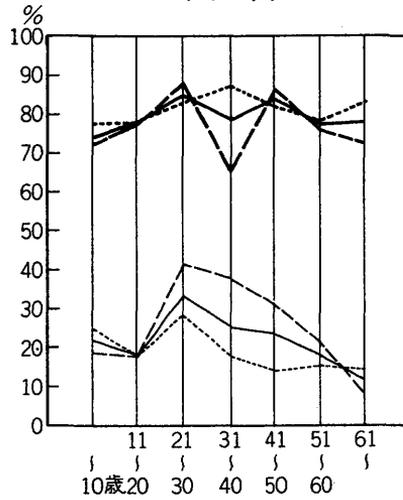
年 齢	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
~10 歳	25	18	72.0	18	14	77.8	43	32	74.4
11~20	57	44	77.2	52	41	78.8	109	85	78.0
21~30	27	24	88.9	34	28	82.4	61	52	85.2
31~40	12	8	66.7	16	14	87.5	28	22	78.6
41~50	16	14	87.5	22	18	81.8	38	32	84.2
51~60	17	13	76.5	14	11	78.6	31	24	77.4
61~	11	8	72.7	12	10	83.3	23	18	78.3
計	165	129		168	136		333	265	

第二節 年齢別発熱ノ頻度

結果..

- 1) 二十一〜三十歳ノ壯年者ニ最モ頻度ガ高イ。熱ニ対スル感度ガ高イタメト思ハレル。
- 2) 女ヨリモ男ニ頻度ガ高イ様デアルガ、死亡者デハ判然シナイ。
- 3) 死亡者ノ頻度ガ生存者ノ夫レヨリモ遙カニ高イノハ前ト同様デアル。

第十四図



第四十一表 (生存者例)

環境	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
屋外 (開放)	286	125	43.7	259	74	28.6	545	199	36.5
〃 (陰)	368	54	14.7	306	43	14.1	674	97	14.4
屋内 (木造)	1331	267	20.1	1867	358	19.2	3198	625	19.5
〃 (コンクリート)	337	101	30.0	439	126	28.7	776	227	28.2
壕内	130	13	10.0	197	24	12.2	329	37	11.3
計	2452	560		3068	625		5520	1185	

第四十二表 (死亡者例)

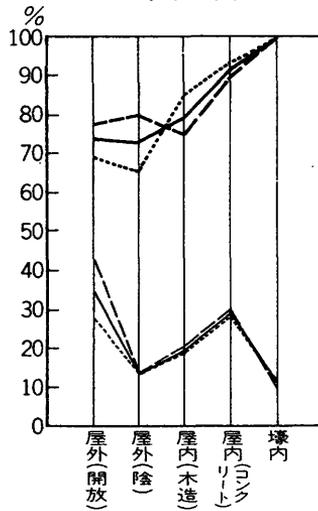
環境	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
屋外 (開放)	32	25	78.1	36	25	69.4	68	50	74.6
〃 (陰)	15	12	80.0	18	12	66.7	33	24	72.7
屋内 (木造)	96	72	75.0	88	75	85.2	184	147	79.9
〃 (コンクリート)	19	17	89.5	25	23	92.0	44	40	90.9
壕内	3	3	100.0	1	1	100.0	4	4	100.0
計	165	129		168	136		333	265	

第三節 環境別発熱ノ頻度

結果..

- 1) 生存者デハ屋外開放ガ最多イガ、死亡者デハ寧ロ「コンク
リート」屋内及壕内ガ最多トナツテキル。
- 2) 男女ノ差異ハ認めラレナイ。
- 3) 生存者ト死亡者トノ頻度ハ大イニ異リ、死亡者ノソレガ遙カ
ニ高イ。

第十五図



第四十三表 (生存者例)

損傷	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
熱傷	393	153	38.9	362	107	29.6	755	260	34.4
外傷	798	216	27.1	921	264	28.7	1719	480	27.9
熱傷兼外傷	115	59	51.3	112	45	40.2	227	104	45.8
無傷	1146	132	11.5	1673	209	12.5	2819	341	12.1
計	2452	560		3068	625		5520	1185	

第四十四表 (死亡者例)

損傷	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
熱傷	40	28	70.0	46	34	73.9	86	62	72.1
外傷	57	47	82.5	55	49	89.1	112	96	85.7
熱傷兼外傷	35	31	88.6	33	28	84.8	68	59	86.8
無傷	33	23	69.7	34	25	73.5	67	48	71.6
計	165	129		168	136		333	265	

第四節 損傷別発熱ノ頻度

結果

1)

熱傷兼外傷が最も頻度が高い。無傷ハ最も低いが、熱傷ト外傷トデハ生存者ト死亡者ト相異ル。生存者ハ外傷が低く、死亡者ハ逆ニ高イ。

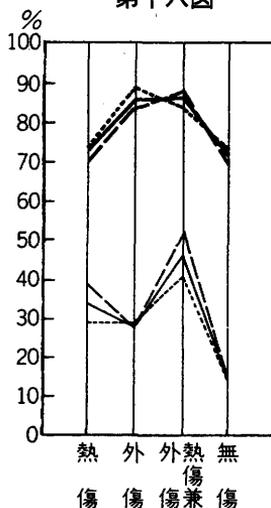
2)

男女ノ差異ハ判然シナイ。

3)

死亡者ハ一般ニ生存者ヨリモ遙カニ高率ヲ示ス。

第十六図



第四十五表 (男、死亡者例)

出現期	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
当日ニ始マルモノ	21	25.6	6	17.7	5	45.5	0	0	32	24.8
第1週ニク	37	45.1	10	29.4	1	9.1	0	0	48	37.2
第2週ニク	2	2.4	4	11.8	1	9.1	0	0	7	5.4
第3週ニク	13	15.9	7	20.6	1	9.1	0	0	21	16.3
第4週ニク	2	2.4	3	8.8	1	9.1	0	0	6	4.7
第2月ニク	2	2.4	0	0	0	0	2	100.0	4	3.1
第3月ニク	0	0	1	2.9	0	0	0	0	1	0.8
不詳	5	6.1	3	8.8	2	18.2	0	0	10	7.8
計	82		34		11		2		129	

第四十六表 (女、死亡者例)

出現期	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
当日ニ始マルモノ	18	22.5	5	11.1	2	25.0	0	0	25	18.4
第1週ニク	43	53.8	14	31.1	5	62.5	1	33.3	63	46.3
第2週ニク	6	7.5	2	4.4	0	0	1	33.3	9	6.6
第3週ニク	6	7.5	4	8.9	0	0	0	0	10	7.4
第4週ニク	5	6.3	12	26.7	1	12.5	0	0	18	13.2
第2月ニク	1	1.3	3	6.7	0	0	1	33.3	5	3.7
第3月ニク	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不詳	1	1.3	5	11.1	0	0	0	0	6	4.4
計	80		45		8		3		139	

第五節 発熱ノ出現期

結果…発熱モ早期ヲ原則トスル。第一週以内ニ全例ノ $\frac{2}{3}$ ガ起リ、他ノ $\frac{1}{3}$ ガ其後ニ起ル。

第四十七表 (男女合計、死亡者例)

出現期	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
当日ニ始マルモノ	39	24.1	11	13.9	7	36.8	0	0	57	21.5
第1週ニ	80	49.4	24	30.4	6	31.6	1	20.0	111	41.9
第2週ニ	8	9.4	6	7.6	1	5.3	1	20.0	16	6.0
第3週ニ	19	18.9	11	13.9	1	5.3	0	0	31	11.7
第4週ニ	7	4.3	15	19.0	2	10.5	0	0	24	9.1
第2月ニ	3	1.9	3	3.8	0	0	3	60.0	9	3.4
第3月ニ	0	0	1	1.3	0	0	0	0	1	0.4
不詳	6	3.7	8	10.1	2	10.5	0	0	16	6.0
計	162		79		19		5		265	

第四十八表 (生存者例)

距離	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
0 ~1 km	250	84	33.6	193	55	28.5	443	139	31.4
1 ~1.5	612	156	25.5	789	248	31.4	1401	404	28.8
1.5~2	352	37	10.5	506	56	11.1	858	93	10.8
2 ~3	749	64	8.5	990	66	6.7	1739	130	7.5
3 ~4	489	15	3.1	590	31	5.2	1079	46	4.3
計	2452	356	14.5	3068	456	14.9	5520	812	14.7
4 km外	55	2	3.6	173	5	2.9	228	7	3.1

第四十九表 (死亡者例)

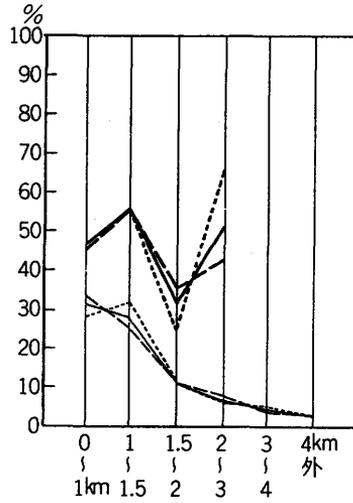
距離	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
0 ~1 km	99	46	46.5	93	44	47.3	192	90	46.9
1 ~1.5	45	25	55.6	60	34	56.7	105	59	56.2
1.5~2	14	5	35.7	12	3	25.0	26	8	30.8
2 ~3	7	3	42.9	3	2	66.7	10	5	50.0
計	165	79		168	83		333	162	

第五章 出血ニ就テ
第一節 距離別出血ノ頻度

結果..

- 1) 生存者ハ距離ノ増大ト共ニ低下スル。
- 2) 死亡者デ二、三kmガ上昇スルノハ例数ノ少イタメノ誤差ト思ハレル。
- 3) 死亡者ガ生存者ヨリ頻度ノ高イノハ出血ガ死亡ノ原因トナルコトヲ物語ルモノデアル。
- 4) 男女間ノ差異ハ殆ド見ラレナイ。

第十七図



第五十表 (生存者例)

年 齢	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
～10歳	257	26	10.1	258	28	10.8	515	54	10.5
11～20	1331	157	11.7	1608	227	14.1	2939	384	13.1
21～30	182	49	26.9	403	93	23.1	585	142	24.3
31～40	190	41	21.6	266	45	16.9	456	86	18.9
41～50	225	57	25.5	264	35	11.4	489	92	18.8
51～60	173	19	11.0	165	16	9.7	338	35	10.4
61～	94	7	7.4	104	12	11.5	198	19	9.6
計	2452	356		3068	456		5520	812	14.7

第五十一表 (死亡者例)

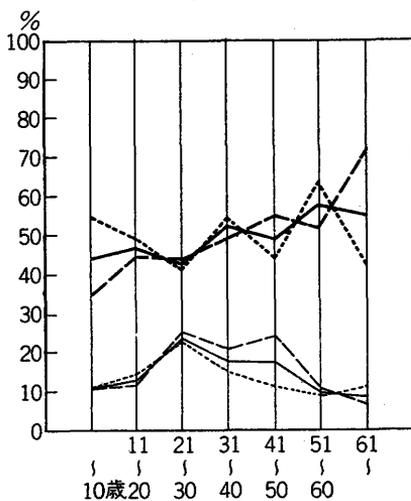
年 齢	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
～10歳	25	9	36.0	18	10	55.6	43	19	44.2
11～20	57	26	45.6	52	26	50.0	109	52	47.7
21～30	27	12	44.4	34	14	41.2	61	26	42.6
31～40	12	6	50.0	16	9	56.3	28	15	53.6
41～50	16	9	56.3	22	10	45.5	38	19	50.0
51～60	17	9	52.9	14	9	64.3	31	18	58.1
61～	11	8	72.7	12	5	41.7	23	13	56.5
計	165	79		168	83		333	162	48.6

第二節 年齢別出血ノ頻度

結果..

- 1) 生存者ニ於テハ中年ニ多イガ、死亡者テハ年齢ト共ニ増加ノ傾向ヲ示ス。
- 2) 男女ノ差ハ明確デナイ。
- 3) 死亡者ノ頻度ハ生存者ヨリ遙カニ大デアル。

第十八図



第五十二表 (生存者例)

環境	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
屋外 (開放)	286	51	17.8	259	39	15.1	545	90	16.5
〃 (陰)	368	27	7.6	306	30	9.8	674	57	8.5
屋内 (木造)	1331	190	14.3	1867	274	14.7	3198	464	14.5
〃 (コンクリート)	337	71	21.1	439	104	23.7	776	175	22.5
壕内	130	17	13.1	197	9	4.6	327	26	7.9
計	2452	356		3068	456		5520	812	

第五十三表 (死亡者例)

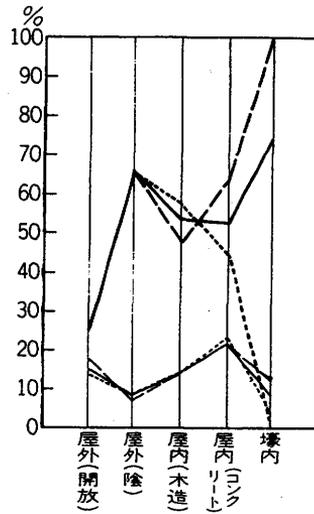
環境	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
屋外 (開放)	32	8	25.0	36	9	25.0	68	17	25.4
〃 (陰)	15	10	66.7	18	12	66.7	33	22	66.7
屋内 (木造)	96	46	47.9	88	51	58.0	184	97	52.7
〃 (コンクリート)	19	12	63.2	25	11	44.0	44	23	52.3
壕内	3	3	100.0	1	0	0	4	3	75.0
計	165	79		168	83		333	162	

第三節 環境別出血ノ頻度

結果..

- 1) 生存者デハ屋外開放及ビ「コンクリート」屋内ニ多く、死亡者デハ屋外陰ニ多イ。
- 2) 男女ノ差ハ殆ド認めラレナイ。
- 3) 死亡者ノ頻度ハ生存者ノソレヨリモ遙カニ大デ原子爆弾症及ビソレニヨル死亡ニ対シ大ナル意義ヲ有スルコトガ判ル。

第十九図



第五十四表 (生存者例)

損傷	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
熱傷	393	54	13.7	362	68	18.8	755	122	17.4
外傷	798	166	20.8	921	202	21.9	1719	368	21.4
熱傷兼外傷	115	31	27.0	112	30	26.8	227	61	26.8
無傷	1146	105	9.2	1672	156	9.3	2819	261	9.2
計	2452	356		3068	456		5520	812	

第五十五表 (死亡者例)

損傷	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
熱傷	40	12	30.0	46	12	26.1	86	24	27.9
外傷	57	26	45.6	55	34	61.8	112	60	53.6
熱傷兼外傷	35	21	60.0	33	17	51.5	68	38	55.9
無傷	33	20	60.6	34	20	58.8	67	40	59.7
計	165	79		168	83		333	162	

第四節 損傷別出血ノ頻度

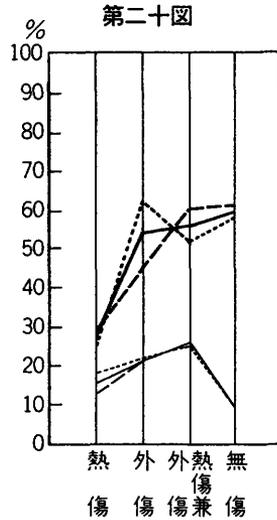
結果

1)

熱傷兼外傷ノモノニ最モ多く、熱傷ト外傷トデハ外傷ニ多イ。熱傷デハソレガ広範圍ニアツテ潰瘍ヲ生ジタタメ、實際ハ皮下出血ナドアリナガラ不明瞭デアッタノカモ知レナイ。或ハ熱傷デ急速ニ死亡シタタメ出血ニ至ラズシテ斃レタタメカモ知レナイ。或ハ又實際ニ熱傷ニハ出来難ク、外傷ニ出来易イ理由ガアルノカモ知レナイ。

2)

男女ノ差ハ不明。死亡者ト生存者トデハ前者ガ遙カニ頻度ガ高イ。



第五十六表 (男、死亡者例)

出現期	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
当日=始マルモノ	6	13.0	3	12.0	1	20.0	0	0	10	12.4
第1週=	12	26.1	3	12.0	2	40.0	0	0	17	21.5
第2週=	7	15.2	4	16.0	1	20.0	1	33.3	13	16.5
第3週=	7	15.2	4	16.0	0	0	0	0	11	13.9
第4週=	3	6.5	6	24.0	0	0	0	0	9	11.4
第2月=	1	2.2	1	4.0	0	0	2	66.7	4	5.1
第3月=	0	0	1	4.0	0	0	0	0	1	1.3
不詳	10	21.7	3	12.0	1	20.0	0	0	14	17.7
計	46		25		5		3		79	

第五十七表 (女、死亡者例)

出現期	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
当日=始マルモノ	4	9.1	0	0	0	0	0	0	4	4.8
第1週=	13	29.5	4	11.8	1	33.3	0	0	18	21.7
第2週=	10	22.7	2	5.9	0	0	1	50.0	13	15.7
第3週=	6	13.6	8	23.5	1	33.3	0	0	15	18.1
第4週=	1	2.3	11	32.4	0	0	0	0	12	14.5
第2月=	1	2.3	4	11.8	0	0	1	50.0	6	7.2
第3月=	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不詳	9	20.5	5	14.7	1	33.3	0	0	15	18.1
計	44		34		3		2		83	

第五節 出血ノ出現期

第五十八表 (男女合計、死亡者例)

出現期	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
当日ニ始マルモノ	10	11.1	3	5.1	1	12.5	0	0	14	8.6
第1週ニ	25	27.8	7	11.9	3	37.5	0	0	35	21.6
第2週ニ	17	18.9	6	10.2	1	12.5	2	40.0	26	16.1
第3週ニ	13	14.4	12	20.3	1	12.5	0	0	26	16.1
第4週ニ	4	4.4	17	27.1	0	0	0	0	21	12.9
第2月ニ	2	2.2	5	8.5	0	0	3	60.00	10	6.2
第3月ニ	0	0	1	1.7	0	0	0	0	1	0.6
不詳	19	21.1	8	13.6	2	25.0	0	0	29	15.4
計	90		59		8		5		162	

結果…出血ハ近距離デハ早期ニ始マリ、遠距離トナルニツレテ遅レル傾向ガアル。○(一kmデハ第一週ニ約四十%出現スルニ反シ、一・五kmデハ十七%程度ニ止ル。男女ノ差ハ殆ドナイ。

第五十九表 (男、死亡者例)

出血種類	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
齒齦出血	13	28.3	4	16.0	0	0	1	33.3	18	22.8
蛆血	13	28.3	5	20.0	0	0	0	0	18	22.8
結膜出血	4	8.7	1	4.0	0	0	0	0	5	6.3
喀血	5	10.9	1	4.0	0	0	0	0	6	7.6
吐血	9	19.6	7	28.0	0	0	0	0	16	20.3
下血	18	39.1	4	16.0	3	60.0	2	66.7	27	34.2
血尿	6	13.0	1	4.0	0	0	1	33.3	8	10.1
皮下出血	18	39.1	13	52.0	2	40.0	2	66.7	35	44.3
不詳	0	0	1	4.0	0	0	0	0	1	1.3
出血総例数	46		25		5		3		79	

第六十表 (女、死亡者例)

出血種類	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
齒齦出血	13	29.5	13	38.2	1	33.3	0	0	27	32.5
蛆血	10	22.7	5	14.7	0	0	0	0	15	18.1
結膜出血	2	4.5	0	0	0	0	0	0	2	2.4
喀血	7	15.9	1	2.9	0	0	0	0	8	9.6
吐血	6	13.6	7	20.6	0	0	1	50.0	14	16.9
下血	12	27.3	13	38.2	1	33.3	1	50.0	27	32.5
血尿	3	6.8	4	11.8	0	0	0	0	7	8.4
皮下出血	17	38.6	19	55.9	1	33.3	1	50.0	38	45.8
不詳	1	2.3	0	0	0	0	0	0	1	1.2
出血総例数	44		34		3		2		83	

第六節 出血ノ種類

第六十一表 (男女合計、死亡者例)

出血種類	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
齒齦出血	26	28.9	17	27.1	1	12.5	1	20.0	45	27.8
衄血	23	25.6	10	17.0	0	0	0	0	33	20.4
結膜出血	6	6.7	1	1.7	0	0	0	0	7	4.3
咯血	12	13.3	2	3.4	0	0	0	0	14	8.6
吐血	15	16.7	14	23.7	0	0	1	20.0	30	18.5
下血	30	33.3	17	27.1	4	50.0	3	60.0	54	33.3
尿管	9	10.0	5	8.5	0	0	1	20.0	15	9.3
皮下出血	35	38.9	32	54.2	3	37.5	3	60.0	73	45.1
不詳	1	1.1	1	1.7	0	0	0	0	2	1.2
出血総例数	90		59		8		5		102	

結果… 1) 皮下出血が最も多く、次ハ下血、齒齦出血ノ順デアル。

2) 皮下出血ハ〇〜1 kmより一〜五 kmニ多イノニ衄血、結膜

出血、咯血等ハ近距離ニ多イ。齒齦出血、尿管、吐血等ハ女

ハ男ヨリ遅レル傾向ガアル。

第六十二表 (男、死亡者例)

	0~1 km	1~1.5	1.5~2	2~3	計
出血(+), 脱毛(+)	19	13	2	1	35
出血(+), 脱毛(-)	27	12	3	2	44
出血(-), 脱毛(+)	5	5	1	0	11
計	51	30	6	3	90

第六十三表 (女、死亡者例)

	0~1 km	1~1.5	1.5~2	2~3	計
出血(+), 脱毛(+)	19	15	1	1	36
出血(+), 脱毛(-)	25	19	2	1	47
出血(-), 脱毛(+)	9	6	0	0	15
計	53	40	3	2	98

第六十四表 (男女合計、死亡者例)

	0~1 km	1~1.5	1.5~2	2~3	計
出血(+), 脱毛(+)	38	28	3	2	71
出血(+), 脱毛(-)	52	31	5	3	91
出血(-), 脱毛(-)	14	11	1	0	26
計	104	70	9	5	188

結果…

1)

出血ト脱毛トハ原子爆弾症中重要ナ徴候デアルガ、必ズシモ
兩者ガ合併スルモノデハナイ。一八八例中七十一例即チ約三
十八%ニ於テ合併シ、他ハ出血力、脱毛力、何レカヲ見ルノ
ミデアル。

2)

出血ヲ来スモノガ多く、一八八例中九十一例即チ約四十八%
ハ出血ノミデ、脱毛ノミヲ来スモノハ一八八例中二十六例約
十四%ニ過ギナイ。

第七節 出血ト脱毛ノ合併ニ就テ

第六十五表 (生存者例)

距離	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
0 ~1 km	250	83	33.2	193	55	28.5	443	138	31.1
1 ~1.5	612	143	23.4	789	219	27.5	1401	362	25.8
1.5~2	352	33	9.4	506	43	8.5	858	76	8.9
2 ~3	749	25	3.3	990	31	3.1	1739	56	3.2
3 ~4	489	5	1.2	590	14	2.4	1079	19	1.8
計	2452	289	11.8	3068	362	11.8	5520	651	11.8
4 km外	55	0	0	173	2	1.2	228	2	0.9

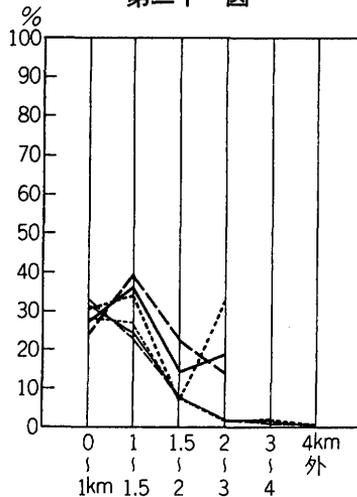
第六十六表 (死亡者例)

距離	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
0 ~1 km	99	24	24.2	93	28	30.1	192	52	27.1
1 ~1.5	45	18	40.0	60	21	35.0	105	39	37.1
1.5~2	14	3	21.4	12	1	8.3	26	4	15.4
2 ~3	7	1	14.3	3	1	33.3	10	2	20.0
計	165	46		168	51		333	97	29.1

結果..

- 1) 生存者デハ距離ト共ニ低下スル。死亡者デ〇()一kmガ低イノハ、脱毛ニ至ラズシテ死亡スルタメデアラウ。
- 2) 生存者ト死亡者トノ頻度ノ差ガ著シクナイノハ、脱毛ガ死亡ノ原因トシテ余リ大キナ意義ヲ持タナイコトヲ表ハスモノト思ハレル。
- 3) 男女ノ差ハ不明デアアル。

第二十一図



第六十七表 (生存者例)

年 齡	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
～10歳	257	31	12.1	258	31	12.0	515	62	12.0
11～20	1331	125	9.4	1608	167	10.3	2939	292	9.9
21～30	182	44	24.2	403	70	17.4	585	114	19.5
31～40	190	32	18.9	266	44	16.5	456	76	16.7
41～50	225	36	15.2	264	30	11.4	489	66	13.5
51～60	173	16	9.2	165	12	7.3	338	28	8.3
61～	94	5	5.3	104	8	7.7	198	13	6.6
計	2452	289		3068	362		5520	651	

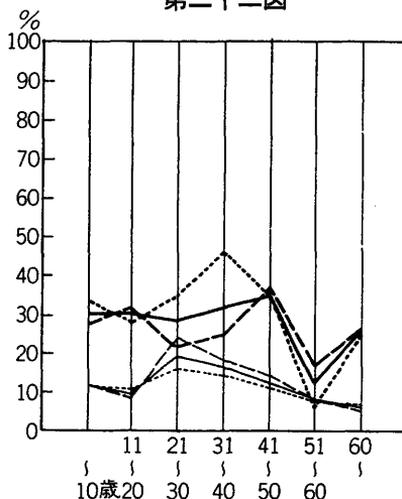
第六十八表 (死亡者例)

年 齡	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
～10歳	25	7	28.0	18	6	33.3	43	13	30.2
11～20	57	18	31.6	52	15	28.8	109	33	30.3
21～30	27	6	22.2	34	12	35.3	61	18	29.5
31～40	12	3	25.0	16	6	47.5	28	9	32.1
41～50	16	6	37.5	22	8	36.4	38	14	36.8
51～60	17	3	17.6	14	1	7.1	31	4	12.9
61～	11	3	27.3	12	3	25.0	23	6	26.1
計	165	46		168	51		333	97	

結果..

- 1) 生存者ハ中年ニ多イ。死亡者中ノ女モサウデアアル。
- 2) 男女間ノ差異ハ一定シナイ。
- 3) 死亡者ハ生存者ヨリ遙カニ多イ。

第二十二図



第六十九表 (生存者例)

環 境	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
屋 外 (開放)	286	59	20.6	259	50	19.4	545	109	20.0
〃 (陰)	368	31	8.4	306	27	8.8	674	58	8.6
屋 内 (木造)	1331	149	11.2	1867	206	11.0	3198	355	11.1
〃 (コンクリート)	337	46	13.6	439	74	16.8	776	120	15.5
壕 内	130	4	3.1	197	5	2.5	327	9	2.7
計	2452	289		3068	362		5520	651	

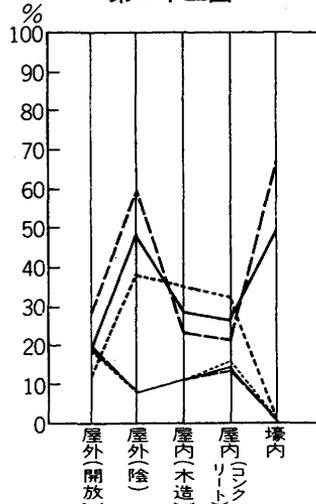
第七十表 (死亡者例)

環 境	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
屋 外 (開放)	32	9	28.1	36	4	11.1	68	13	19.4
〃 (陰)	15	9	60.0	18	7	38.9	33	16	48.5
屋 内 (木造)	96	22	22.9	88	32	36.4	184	54	29.3
〃 (コンクリート)	19	4	21.1	25	8	32.0	44	12	27.3
壕 内	3	2	66.7	1	0	0	4	2	50.0
計	165	46		168	51		333	97	

結果..

- 1) 生存者デハ屋外開放ガ最モ多ク、次ハ「コンクリート」屋内、壕内ハ最モ少イ。
- 2) 死亡者デハ屋外開放ガ陰ヨリモ遙カニ少クナッテキルガ、コレハ脱毛ノ期ヲ待タズニ死亡シタ為デアラウ。
- 3) 死亡者中壕内ノ頻度ガ高クナッテキルノハ、数ノ少イノニヨルモノデアアル。

第二十三図



第七十一表 (生存者例)

損傷	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
熱傷	393	82	20.9	362	92	25.4	755	174	23.0
外傷	798	104	13.0	921	138	15.0	1719	242	14.0
熱傷兼外傷	115	38	33.0	112	39	35.7	227	77	33.4
無傷	1146	65	5.7	1673	93	5.6	2819	158	5.6
計	2452	289		3068	362		5520	651	

第七十二表 (死亡者例)

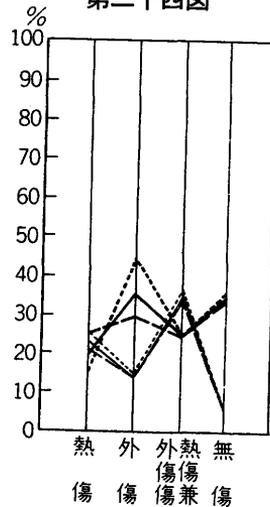
損傷	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
熱傷	40	10	25.0	46	7	15.2	86	17	19.8
外傷	57	17	29.8	55	24	43.6	112	41	36.6
熱傷兼外傷	35	8	22.9	33	8	24.2	68	16	23.5
無傷	33	11	33.3	34	12	35.3	67	23	34.3
計	165	46		168	51		333	97	

結果..

- 1)
- 2)
- 3)

熱傷兼外傷ニ多く、次ハ熱傷デ無傷ハ最モ少イ(生存者)。
 死亡者デハ熱傷ハ少ク、外傷及無傷ニ多クナツテキル。熱傷
 及熱傷兼外傷ニ少イノハ、死亡ノ時期ガ早クテ脱毛期前ニ死
 亡シタモノト思ハレル。
 生存者ト死亡者トノ頻度ニ大差ガナイ。コレハ脱毛ガ死亡ノ
 原因トシテ意義少イノヲ表ハスモノデアル。

第二十四図



第七十三表 (男、死亡者例)

出現期	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
当日=始マルモノ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第1週ニ	4	16.7	1	5.6	0	0	0	0	5	10.9
第2週ニ	7	29.2	5	27.8	1	33.3	0	0	13	28.3
第3週ニ	9	37.5	6	33.3	1	33.3	0	0	16	34.8
第4週ニ	1	4.2	2	11.1	0	0	1	100.0	4	8.7
第2月ニ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第3月ニ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不詳	3	12.5	4	22.2	1	33.3	0	0	8	17.4
計	24		18		3		1		46	

第七十四表 (女、死亡者例)

出現期	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
当日=始マルモノ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第1週ニ	14	50.0	3	14.3	0	0	0	0	17	33.3
第2週ニ	8	28.6	5	23.8	0	0	1	100.0	14	27.5
第3週ニ	5	17.9	8	38.1	1	100.0	0	0	14	27.5
第4週ニ	0	0	2	9.5	0	0	0	0	2	3.9
第2月ニ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第3月ニ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不詳	1	3.6	3	14.3	0	0	0	0	4	7.8
計	28		21		1		1		51	

第七十五表 (男女合計、死亡者例)

出現期	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
当日=始マルモノ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第1週ニ	18	34.6	4	10.3	0	0	0	0	22	22.7
第2週ニ	15	28.8	10	25.6	1	25.0	1	50.0	27	27.8
第3週ニ	14	26.9	14	35.9	2	50.0	0	0	30	30.9
第4週ニ	1	1.9	4	10.3	0	0	1	50.0	6	6.2
第2月ニ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第3月ニ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不詳	4	7.7	7	18.0	1	25.0	0	0	12	12.4
計	52		39		4		2		97	

結果…第三週ニ出現スルモノガ最も多イ。近距離デハ早く出現シ、遠距離デハ遅ク出現スル。女ハ男ヨリ早く起ル様デアル。コレハ髪方長クテ目立チ易イ為デアラウ。

第七十六表 (生存者例)

距離	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
0 ~1 km	250	41	16.4	193	23	11.9	443	64	14.4
1 ~1.5	612	82	13.4	789	86	10.9	1401	168	12.0
1.5~2	352	23	6.5	506	26	5.1	858	49	5.7
2 ~3	749	25	3.3	990	40	4.0	1739	65	3.7
3 ~4	489	9	1.8	590	8	1.4	1079	17	1.6
計	2452	180		3068	183		5520	363	6.6
4 km外	55	0	0	173	1	0.6	228	1	0.4

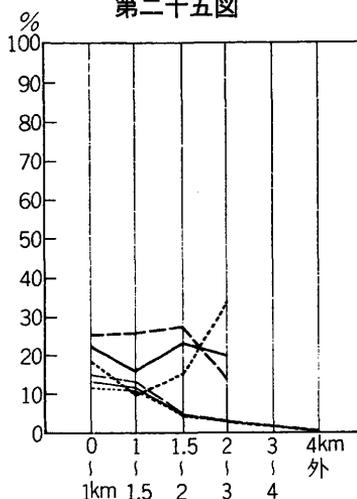
第七十七表 (死亡者例)

距離	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
0 ~1 km	99	26	26.3	93	18	19.4	192	44	22.9
1 ~1.5	45	12	26.7	60	6	10.0	105	18	17.1
1.5~2	14	4	28.6	12	2	16.7	26	6	23.1
2 ~3	7	1	14.3	3	1	33.3	10	2	20.0
計	165	43		168	27		333	70	21.0

結果..

- 1) 近距離ニ於テ軽度ニ認メラレル。遠距離デハ殆ド見ラレナイ。
- 2) 死亡者ニ於テモ頻度ハ高クナイ。又距離ニヨル差異モ認メラレナイ。
- 3) 女ヨリモ男ノ方ガ頻度ガ高い。
- 4) 原子爆弾症ニ於ケル意義ハ余リ大デナイ。

第二十五図



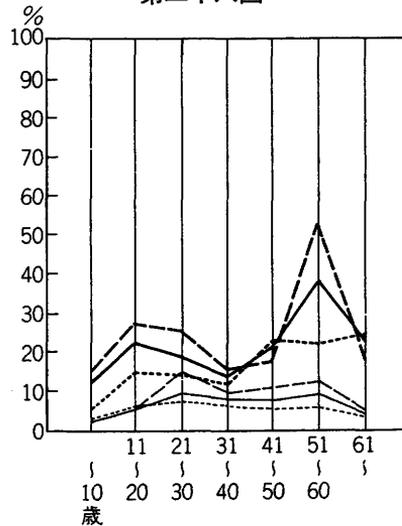
第七十八表 (生存者例)

年齢	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
～10歳	257	4	1.6	258	6	2.3	515	10	1.9
11～20	1331	77	5.8	1608	102	6.3	2939	179	6.1
21～30	182	28	15.4	403	30	7.4	585	58	9.9
31～40	190	19	10.0	266	17	6.4	456	36	7.9
41～50	225	25	11.1	264	14	5.3	489	39	8.0
51～60	173	22	12.7	165	10	6.1	338	32	9.5
61～	94	5	5.3	104	4	3.8	198	9	4.5
計	2452	180		3068	183		5520	363	

第七十九表 (死亡者例)

年齢	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
～10歳	25	4	16.0	18	1	5.6	43	5	11.6
11～20	57	16	28.1	52	8	15.4	109	24	22.0
21～30	27	7	25.9	34	5	14.7	61	12	19.7
31～40	12	2	16.7	16	2	12.5	28	4	14.3
41～50	16	3	18.8	22	5	22.7	38	8	21.1
51～60	17	9	52.9	14	3	21.4	31	12	38.7
61～	11	2	18.2	12	3	25.0	23	5	21.7
計	165	43		168	27		333	70	

第二十六図



- 結果..
- 1) 年齢ニヨル差異ハ殆ド認めラレナイ。
 - 2) 男ハ女ヨリモ意識障害ヲ起シ易イ様デアル。
 - 3) 生存者ト死亡者トノ頻度ノ差ハ僅少デアル。

第八十表 (生存者例)

環 境	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
屋 外 (開放)	286	34	11.9	259	22	8.3	545	56	10.3
〃 (陰)	368	10	2.7	306	10	3.3	674	20	3.0
屋 内 (木造)	1331	86	6.5	1867	96	5.1	3198	182	5.7
〃 (コンクリート)	337	45	13.3	439	50	11.4	776	95	12.1
兼 内	130	5	3.8	197	5	2.5	327	10	3.0
計	2452	180		3068	183		5520	363	

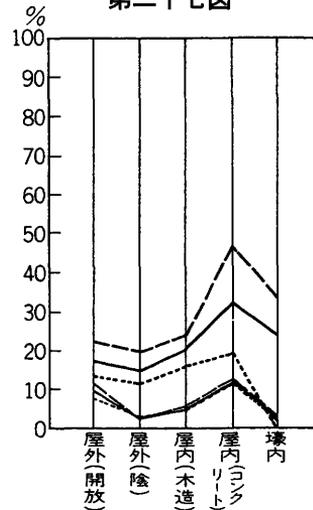
第八十一表 (死亡者例)

環 境	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
屋 外 (開放)	32	7	21.9	36	5	13.9	68	12	17.9
〃 (陰)	15	3	20.0	18	2	11.1	33	5	15.1
屋 内 (木造)	96	23	24.0	88	15	17.0	184	38	20.7
〃 (コンクリート)	19	9	47.4	25	5	20.0	44	14	31.8
兼 内	3	1	33.3	1	0	0	4	1	25.0
計	165	43		168	27		333	70	

結果..

- 1) 屋外開放ト「コンクリート」屋内ニ多イ。
- 2) 男ハ女ヨリ意識障碼ヲ起シ易イ傾向ガアル。

第二十七図



第八十二表 (生存者例)

損傷	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
熱傷	393	40	10.2	362	35	9.9	755	75	9.8
外傷	798	99	12.4	921	92	10.0	1719	191	11.1
熱傷兼外傷	115	23	20.0	112	20	17.9	227	43	18.9
無傷	1146	18	1.6	1673	36	2.2	2819	54	1.9
計	2452	180		3068	183		5520	363	

第八十三表 (死亡者例)

損傷	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
熱傷	40	13	32.5	46	6	13.0	86	19	22.1
外傷	57	12	21.1	55	8	14.5	112	20	17.9
熱傷兼外傷	35	12	34.3	33	9	27.3	68	21	30.9
無傷	33	6	18.2	34	4	11.8	67	10	14.9
計	165	43		168	27		333	70	

結果..

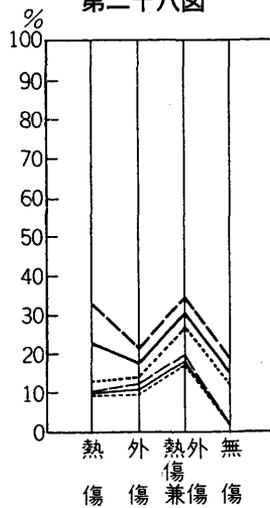
1) 熱傷兼外傷ニ最モ多ク、壕内ガ最モ少イ。

2) 男ハ女ヨリ頻度ガ大デアル。

備考..

意識障害ノ出現期ハ、早期即チ被爆当時ニ多カッタ様デアルガ、調査ノ際明確ニ記載サレタモノガ少ナカッタノデ、統計ニトルコトハ省略シタ。

第二十八図



第八十四表 (生存者例)

距離	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
0 ~1 km	250	48	19.2	193	31	16.1	443	79	17.8
1 ~1.5	612	108	17.6	789	162	20.5	1401	270	19.3
1.5~2	352	28	8.0	506	45	8.9	858	73	8.5
2 ~3	749	34	4.5	990	69	7.0	1739	103	5.9
3 ~4	489	26	5.3	590	28	4.7	1079	54	5.0
計	2452	244	9.9	3069	335	10.9	5520	579	10.5
4 km外	55	1	1.8	173	4	2.3	228	5	2.2

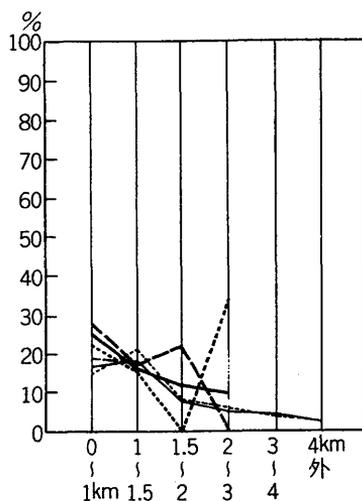
第八十五表 (死亡者例)

距離	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
0 ~1 km	99	28	28.3	93	21	22.6	192	49	25.5
1 ~1.5	45	8	17.8	60	10	16.7	105	18	17.1
1.5~2	14	3	21.4	12	0	0	26	3	11.5
2 ~3	7	0	0	3	1	33.3	10	1	10.0
計	165	39		168			333	71	21.3

結果..

- 1) 眩暈モ意識障碍ト同ジク近距離ニ於テ軽度ニ証明サレル。遠距離デハ漸次減少スル。四km外デ見ラレルモノハ原子爆彈トハ関係ノナイモノデアラウ。
- 2) 生存者ト死亡者トノ差異ガ殆ドナイノハ、原子爆彈症ノ症状或ハ死亡ノ原因トシテ意義ノ少イコトヲ意味スル。
- 3) コレハ女ヨリ男ニ少シ頻度ガ高イ。

第二十九図



第八十六表 (生存者例)

年 齡	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
～10 歳	257	7	2.7	258	4	1.6	515	11	2.1
11～20	1331	95	7.1	1608	169	10.5	2939	264	9.0
21～30	182	36	19.8	403	65	16.1	585	101	17.3
31～40	190	31	16.3	266	38	14.3	456	69	15.1
41～50	225	44	19.5	264	31	11.7	489	75	15.3
51～60	173	24	13.8	165	20	12.2	338	44	13.0
61～	94	7	7.4	104	8	7.7	198	15	7.6
計	2452	244		3068	335		5520	579	

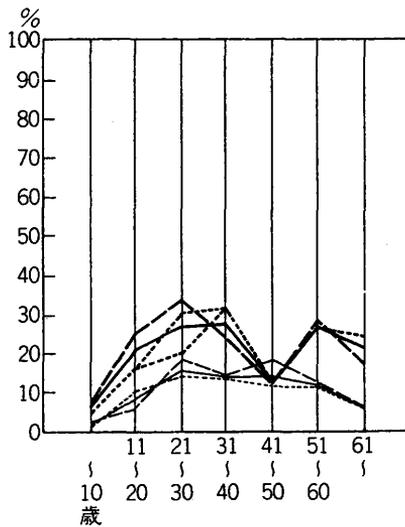
第八十七表 (死亡者例)

年 齡	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
～10 歳	25	2	8.0	18	1	5.6	43	3	7.0
11～20	57	15	26.3	52	9	17.3	109	24	22.0
21～30	27	10	34.0	34	7	20.6	61	17	27.9
31～40	12	3	25.0	16	5	31.3	28	8	28.6
41～50	16	2	12.5	22	3	13.6	38	5	13.2
51～60	17	5	29.4	14	4	28.6	31	9	29.0
61～	11	2	18.2	12	3	25.0	23	5	21.7
計	165	39		168	32		333	71	

結果..

- 1) 幼児及老人ニ少イ。幼児デハ眩暈ヲ訴ヘルモノガ少イノニヨルモノデアラウ。
- 2) 死亡者デ四十一～五十歳ニ急ニ少クナッテキルノハ偶然ノ結果ト思ハレル。
- 3) 男ハ女ヨリ眩暈ヲ起シ易イ様ダ。
- 4) 生存者ト死亡者トノ差ハ僅少デアル。

第三十図



第八十八表 (生存者例)

環境	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
屋外 (開放)	286	39	13.6	259	30	11.6	545	69	12.7
〃 (陰)	368	22	6.0	306	25	8.2	674	47	6.4
屋内 (木造)	1331	122	9.2	1867	171	9.1	3198	293	9.2
〃 (コンクリート)	337	54	16.0	439	94	21.4	776	148	19.1
壕内	130	7	5.4	197	15	7.6	327	22	6.7
計	2452	244		3068	335		5520	579	

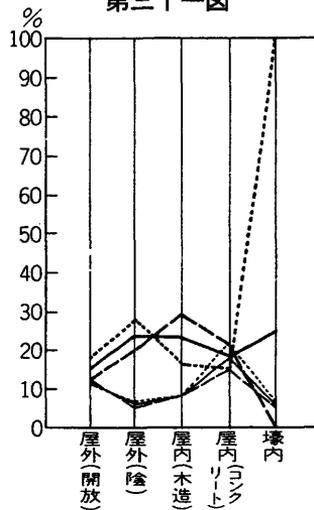
第八十九表 (死亡者例)

環境	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
屋外 (開放)	32	4	12.5	36	7	19.4	68	11	16.4
〃 (陰)	15	3	20.0	18	5	27.8	33	8	24.2
屋内 (木造)	96	28	29.2	88	15	17.0	184	43	23.4
〃 (コンクリート)	19	4	21.1	25	4	16.0	44	8	18.2
壕内	3	0	0	1	1	100.0	4	1	25.0
計	165	39		168	32		333	71	

結果..

- 1) 「コンクリート」屋内ニ最も多く、次ハ屋外開放デアル。死亡者デハ大略其逆トナツテキル。故ニ何レモ略々大差ガナイト見テ差支ナイデアラウ。
- 2) 男女ノ差モ少イ。

第三十一図



第九十表 (生存者例)

損傷	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
熱傷	393	43	10.9	362	50	13.8	755	93	12.3
外傷	798	124	15.5	921	158	17.2	1719	282	16.4
熱傷兼外傷	115	19	16.5	112	33	29.3	227	52	22.4
無傷	1146	58	5.1	1673	94	5.6	2819	152	5.3
計	2452	244		3068	335		5520	579	

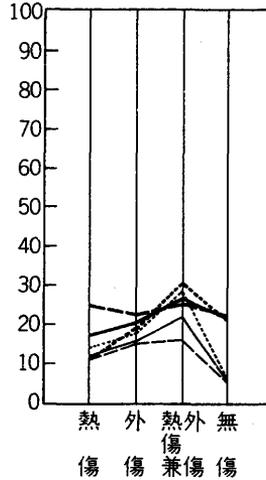
第九十一表 (死亡者例)

損傷	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
熱傷	40	10	25.0	46	5	10.9	86	15	17.4
外傷	57	13	22.8	55	10	18.2	112	23	20.4
熱傷兼外傷	35	9	25.7	33	10	30.3	68	19	27.9
無傷	33	7	21.2	34	7	20.6	67	14	20.9
計	165	39		168	32		333	71	

結果..

- 1) 熱傷兼外傷ニ最も多ク、無傷ニ少イ(生存者)。死亡者デハ何レモ略々同ジデアル。
- 2) 生存者ト死亡者トノ頻度ノ差ハ極メテ少イ。

第三十二図



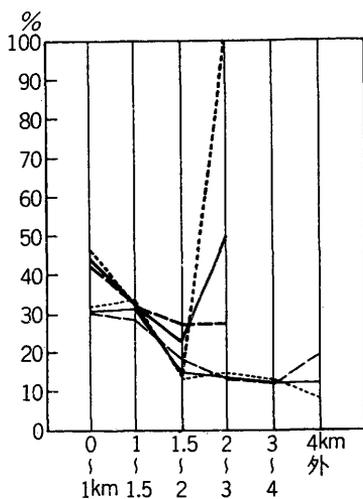
第九十二表 (生存者例)

距離	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
0 ~1 km	250	75	30.0	193	62	32.1	443	137	30.9
1 ~1.5	612	181	29.6	789	275	34.9	1401	456	32.5
1.5~2	352	69	19.6	506	68	13.4	858	137	16.0
2 ~3	749	98	13.1	990	154	15.6	1739	252	14.5
3 ~4	489	63	12.9	590	82	13.9	1079	145	13.4
計	2452	486	19.8	3068	641	20.9	5520	1127	20.4
4 km外	55	11	20.0	173	16	9.3	228	27	11.8

第九十三表 (死亡者例)

距離	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
0 ~1 km	99	42	42.4	93	43	46.2	192	85	44.3
1 ~1.5	45	14	31.1	60	19	31.7	105	33	31.4
1.5~2	14	4	28.6	12	2	16.7	26	6	23.1
2 ~3	7	2	28.6	3	3	100.0	10	5	50.0
計	165	62		168	67		333	129	39.0

第三十三図



結果..
 1) 近距離ハ少シク頻度ガ高イガ三、四km、四km外デモ零トナラナイ。ソレハ原子爆彈トハ関係ノナイ普通ノ頭痛ガ混入シテ
 キル結果デアアル。
 2) 死亡者ニ於ケル遠距離ノ上昇ハ例数ノ少イタメデアアラウ。
 3) 生存者ト死亡者トノ差異モ極メテ少イ。意義ノ少イコトヲ意味スル。

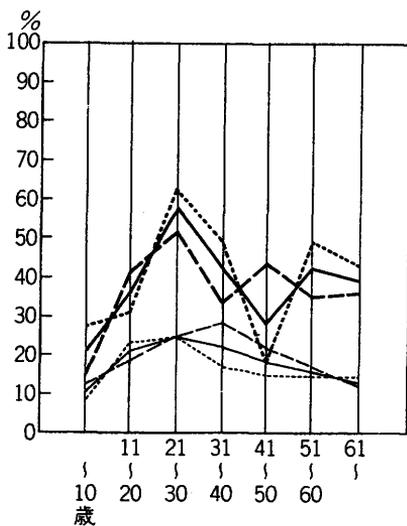
第九十四表 (生存者例)

年 齡	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
～10 歳	257	32	12.5	258	22	8.5	515	54	10.5
11～20	1331	262	19.7	1608	384	23.9	2939	646	22.0
21～30	182	49	26.9	403	105	26.1	585	154	26.3
31～40	190	54	28.4	266	47	17.7	456	101	22.1
41～50	225	48	21.3	264	41	15.5	489	89	18.2
51～60	173	30	17.3	165	26	15.8	338	56	16.6
61～	94	11	11.7	104	16	15.4	198	27	13.6
計	2452	486		3068	641		5520	1127	

第九十五表 (死亡者例)

年 齡	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
～10 歳	25	4	16.0	18	5	27.8	43	9	20.9
11～20	57	23	40.4	52	17	30.8	109	40	36.7
21～30	27	14	51.9	34	21	61.8	61	35	57.4
31～40	12	4	33.3	16	8	50.0	28	12	42.9
41～50	16	7	43.8	22	4	18.2	38	11	29.0
51～60	17	6	35.3	14	7	50.0	31	13	41.9
61～	11	4	36.4	12	5	41.7	23	9	39.1
計	165	62		168	67		333	129	

第三十四図



- 結果..
- 1) 幼児ニ少ク、他ハ略々同ジ頻度デアル。幼児ハ頭痛ヲ訴ヘルコトガ少イノニヨルモノデアラウ。
 - 2) 四十一～五十歳ノ死亡者ニ少イノハ偶然ノ結果ト思ハレル。
 - 3) 男女ノ差ハ一定シナイ。
 - 4) 死亡者ハ少シク生存者ヨリ頻度が大デアル。

第九十六表 (生存者例)

環境	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
屋外 (開放)	286	68	23.8	259	53	20.5	545	121	22.2
〃 (陰)	368	66	17.9	306	67	21.9	674	133	19.7
屋内 (木造)	1331	248	19.0	1867	346	18.5	3198	594	18.5
〃 (コンクリート)	337	83	24.6	439	142	32.3	776	225	28.8
壕内	130	21	16.2	197	33	16.8	327	54	16.5
計	2452	486		3068	641		5520	1127	

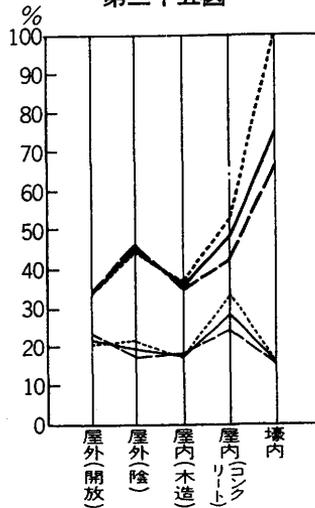
第九十七表 (死亡者例)

環境	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
屋外 (開放)	32	11	34.4	36	12	33.3	68	23	34.3
〃 (陰)	15	7	46.7	18	8	44.4	33	15	45.5
屋内 (木造)	96	34	35.4	88	33	37.5	184	67	36.4
〃 (コンクリート)	19	8	42.1	25	13	52.0	44	21	47.7
壕内	3	2	66.7	1	1	100.0	4	3	75.0
計	165	62		168	67		333	129	

結果..

- 1) 「コンクリート」屋内ガ多イ様デアアルガ何レモ略々同ジト見ルベキデアラウ。
- 2) コレハ頭痛ガ原子爆弾症ニ特有ノモノデナイコトヲ表ハスモノト思ハレル。
- 3) 男女ノ差ハ明瞭デナイ。
- 4) 死亡者ノ頻度ハ稍々生存者ヨリモ大デアアル。

第三十五図



第九十八表 (生存者例)

損傷	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
熱傷	393	86	21.6	362	87	24.0	755	173	22.9
外傷	798	214	26.8	921	290	31.4	1719	504	29.3
熱傷兼外傷	115	47	40.9	112	49	43.8	227	96	42.3
無傷	1146	139	12.1	1673	215	12.9	2819	354	12.5
計	2452	486		3068	641		5520	1127	

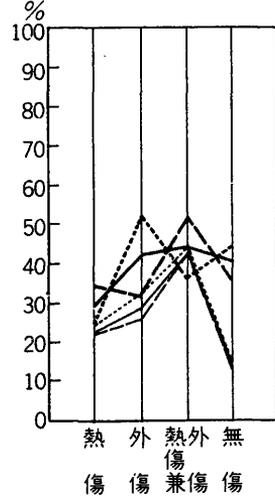
第九十九表 (死亡者例)

損傷	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
熱傷	40	14	35.0	46	11	23.9	86	25	29.1
外傷	57	18	31.6	55	29	52.7	112	47	42.0
熱傷兼外傷	35	18	51.4	33	12	36.4	68	30	44.1
無傷	33	12	36.4	34	15	44.1	67	27	40.3
計	165	62		168	67		333	129	

結果..

- 1) 生存者トハ熱傷兼外傷ニ甚タ多クナツテキルガ、死亡者デハ略々同ジデアル。
- 2) 生存者ト死亡者トノ差ハ殆ド認メラレナイ。

第三十六図



第百表 (生存者例)

距離	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
0 ~1 km	250	36	14.4	193	22	11.4	443	58	13.1
1 ~1.5	612	69	11.3	789	112	14.2	1401	181	12.9
1.5~2	352	29	8.2	506	40	7.9	858	69	8.0
2 ~3	749	79	10.5	990	105	10.6	1739	184	10.6
3 ~4	489	39	8.0	590	63	10.7	1079	102	9.5
計	2452	252		3068	342		5520	594	10.8
4 km外	55	7	12.7	173	13	7.5	228	20	8.8

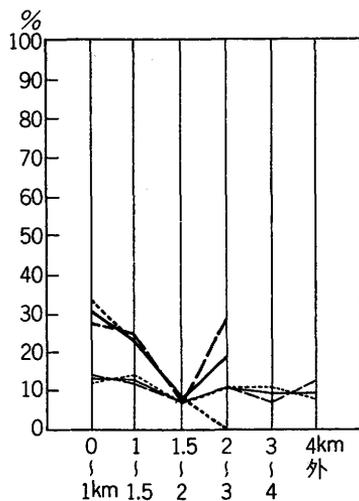
第百一表 (死亡者例)

距離	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
0 ~1 km	99	27	27.3	93	31	33.3	192	58	30.2
1 ~1.5	45	11	24.4	60	14	23.3	105	25	23.8
1.5~2	14	1	7.1	12	1	8.3	26	2	7.7
2 ~3	7	2	28.6	3	0	0	10	2	20.0
計	165	41		168	46		333	87	26.1

結果..

- 1) 近距離モ遠距離モ殆ト変リガナイ。死亡者デハ幾分差ガアル様デアルガ余リ著明デナイ。
- 2) 死亡者ハ生存者ヨリ少シク頻度ガ高い。下痢ト関連スルモノ思ハレル。
- 3) 男女ノ差ハナイ。

第三十七図



第百二表 (生存者例)

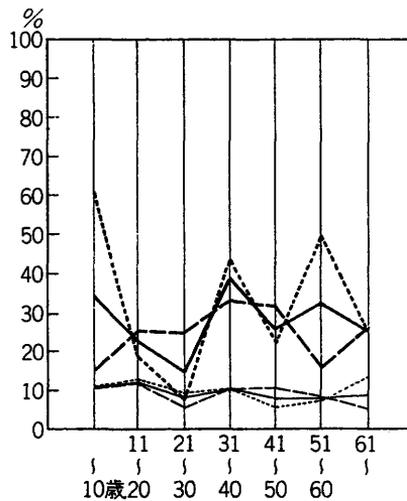
年 齡	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
～10歳	257	26	10.1	258	29	11.2	515	55	10.7
11～20	1331	151	11.3	1608	204	12.7	2939	355	12.1
21～30	182	12	6.6	403	40	9.9	585	52	8.9
31～40	190	20	10.5	266	27	10.2	456	47	10.3
41～50	225	23	10.5	264	15	5.7	489	38	7.8
51～60	173	15	8.7	165	13	7.9	338	28	8.3
61～	94	5	5.3	104	14	13.5	198	19	9.6
計	2452	252	10.3	3068	342	11.1	5520	594	10.8

第百三表 (死亡者例)

年 齡	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
～10歳	25	4	16.0	18	11	61.1	43	15	34.9
11～20	57	15	26.3	52	10	19.4	109	25	22.9
21～30	27	7	25.9	34	3	8.8	61	10	16.4
31～40	12	4	33.3	16	7	43.8	28	11	39.3
41～50	16	5	31.3	22	5	22.7	38	10	26.3
51～60	17	3	17.6	14	7	50.0	31	10	32.2
61～	11	3	27.3	12	3	25.0	23	6	26.1
計	165	41		168	46		333	87	

結果..
 1) 年齢ニヨル頻度ノ差ハナイ。
 2) 生存者ト死亡者トノ頻度ノ差モ僅少デアル。

第三十八圖



第百四表 (生存者例)

環 境	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
屋 外 (開放)	286	26	9.1	259	30	11.6	545	56	10.3
〃 (陰)	368	35	9.5	306	41	13.4	674	76	11.3
屋 内 (木造)	1331	142	10.7	1867	193	10.3	3198	335	10.5
〃 (コンクリート)	337	39	11.6	439	53	12.1	776	92	11.9
壕 内	130	10	7.6	197	25	12.7	327	35	10.7
計	2452	252		3068	342		5520	594	

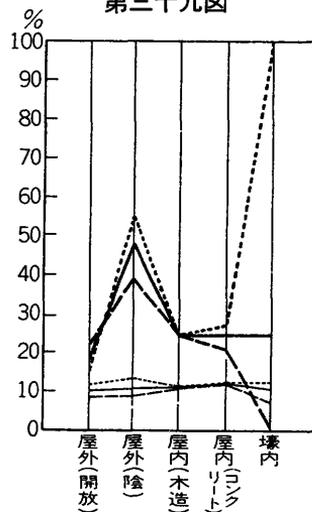
第百五表 (死亡者例)

環 境	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
屋 外 (開放)	32	7	21.9	36	6	16.7	68	13	19.4
〃 (陰)	15	6	40.0	18	10	55.6	33	16	48.5
屋 内 (木造)	96	24	25.0	88	22	25.0	184	46	25.0
〃 (コンクリート)	19	4	21.1	25	7	28.0	44	11	25.0
壕 内	3	0	0	1	1	100.0	4	1	25.0
計	165	41		168	46		333	87	

結果..

- 1) 環境ニヨル差異モ認メラレナイ。死亡者テ屋外陰ニ多クナツテキルノハ偶然ノ結果デアラウ。
- 2) 女ハ男ヨリ少シク頻度が大キイ様デアアル。

第三十九図



第百六表 (生存者例)

損傷	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
熱傷	393	30	7.6	362	42	11.6	755	72	9.5
外傷	798	98	12.3	921	129	14.0	1719	227	13.2
熱傷兼外傷	115	11	9.6	112	19	17.0	227	30	13.2
無傷	1146	113	9.9	1673	152	9.1	2819	265	9.4
計	2452	252		3068	342		5520	594	

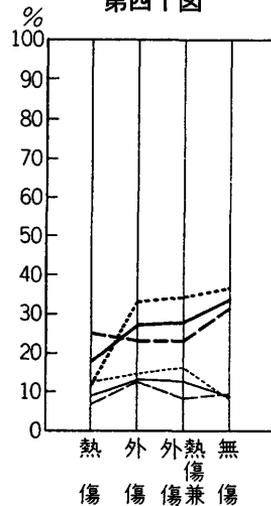
第百七表 (死亡者例)

損傷	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
熱傷	40	10	25.0	46	5	10.9	86	15	17.4
外傷	57	13	22.8	55	18	32.7	112	31	27.7
熱傷兼外傷	35	8	22.9	33	11	33.3	68	19	27.9
無傷	33	10	30.3	34	12	35.3	67	22	32.8
計	165	41		168	46		333	87	

結果..

- 1) 損傷ノ種類ニヨル差異モ殆下認メラレナイ。
 2) 生存者ト死亡者トノ頻度ノ差モ僅少デアアル。

第四十圖



第百八表 (生存者例)

距離	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
0 ~1 km	250	78	31.2	193	50	25.9	443	128	29.0
1 ~1.5	612	173	28.3	789	257	32.6	1401	430	30.7
1.5~2	352	47	13.4	506	64	12.6	858	111	12.9
2 ~3	749	70	9.3	990	135	13.6	1739	205	11.8
3 ~4	489	27	5.5	590	81	13.7	1079	108	10.0
計	2452	395	16.1	3068	587	19.1	5520	982	17.8
4 km外	55	6	10.9	173	6	3.5	228	12	5.3

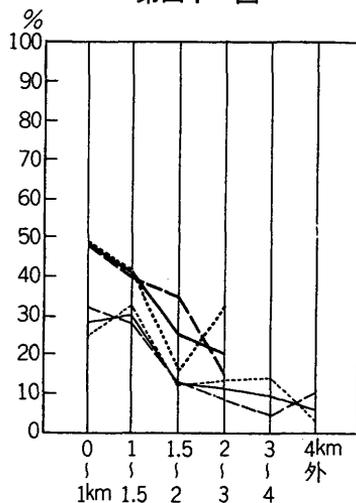
第百九表 (死亡者例)

距離	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
0 ~1 km	99	47	47.5	93	46	49.5	192	93	48.4
1 ~1.5	45	18	40.0	60	25	41.7	105	43	41.0
1.5~2	14	5	35.7	12	2	16.7	26	7	26.9
2 ~3	7	1	14.3	3	1	33.3	10	2	20.0
計	165	71		168	74		333	145	43.6

結果..

- 1) 近距離程頻度が高く、死亡者ハ生存者ヨリ頻度が高い。原子爆弾症中重要ナ意義ヲ有スルモノノ一デアル。
- 2) 男女ノ差ハ著明デナイ。

第四十一図



第百十表 (生存者例)

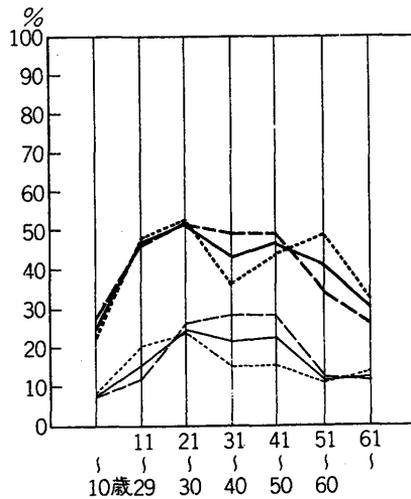
年 齡	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
～10 歳	257	20	7.8	258	24	9.1	515	44	8.5
11～20	1331	168	12.2	1608	333	20.7	2939	501	17.0
21～30	182	50	27.4	403	104	25.8	585	154	26.3
31～40	190	56	29.5	266	45	16.9	456	101	22.1
41～50	225	66	29.3	264	45	17.0	489	111	24.7
51～60	173	23	13.3	165	20	12.2	338	43	12.7
61～	94	12	12.7	104	16	15.4	198	28	14.1
計	2452	395		3068	589		5520	982	

第百十一表 (死亡者例)

年 齡	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
～10 歳	25	7	28.0	18	4	22.2	43	11	25.6
11～20	57	27	47.4	52	25	48.1	109	52	47.7
21～30	27	14	51.9	34	18	53.0	61	32	52.5
31～40	12	6	50.0	16	6	37.5	28	12	42.9
41～50	16	8	50.0	22	10	45.5	38	18	47.4
51～60	17	6	35.3	14	7	50.0	31	13	41.9
61～	11	3	27.3	12	4	33.3	23	7	30.4
計	165	71		168	74		333	145	

結果
1) 2)

第四十二図



中年者ニ多イ。幼児ハ軽度ノ疼痛ハ訴ヘナイ為デアラウ。死亡者ノ頻度ハ生存者ノソレヨリ少シク大デアル。

第百十二表 (生存者例)

環 境	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
屋 外 (開放)	286	53	18.5	259	50	19.4	545	103	18.9
〃 (陰)	368	46	12.5	306	46	15.0	674	92	13.6
屋 内 (木造)	1331	219	16.5	1867	339	17.6	3198	558	17.4
〃 (コンクリート)	337	67	20.2	439	126	28.7	776	193	24.7
壕 内	130	10	7.6	197	26	13.2	327	36	11.0
計	2452	395		3068	587		5520	982	

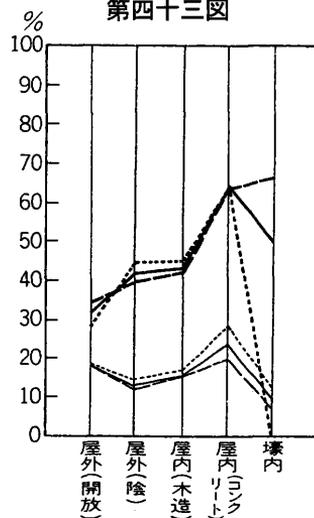
第百十三表 (死亡者例)

環 境	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
屋 外 (開放)	32	11	34.4	36	10	27.8	68	21	31.3
〃 (陰)	15	6	40.0	18	8	44.4	33	14	42.4
屋 内 (木造)	96	40	41.7	88	40	45.5	184	80	43.4
〃 (コンクリート)	19	12	63.2	25	16	64.0	44	28	63.6
壕 内	3	2	66.7	1	0	0	4	2	50.0
計	165	71		168	74		333	145	

結果..

- 1) 「コンクリート」屋内ニ最も多イ。其理由ハ判然シナイ。
- 2) 生存者デハ男ヨリ女ニ少シク頻度ガ高クナツテキル。
- 3) 生存者ト死亡者トノ頻度ノ差ハヤヤ大デアル。

第四十三図



第百十四表 (生存者例)

損傷	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
熱傷	393	68	17.3	362	84	23.2	755	152	20.1
外傷	798	172	21.5	921	234	24.3	1719	406	23.6
熱傷兼外傷	115	29	25.2	112	40	35.7	227	69	30.4
無傷	1146	126	11.0	1673	229	13.7	2819	355	12.5
計	2452	395		3068	587		5520	982	

第百十五表 (死亡者例)

損傷	男			女			計		
	調査数	例数	%	調査数	例数	%	調査数	例数	%
熱傷	40	12	30.0	46	17	37.0	86	29	33.7
外傷	57	23	40.4	55	26	47.3	112	49	43.8
熱傷兼外傷	35	22	62.9	33	16	48.5	68	38	55.9
無傷	33	14	42.4	34	15	44.1	67	29	43.3
計	165	71		168	74		333	145	

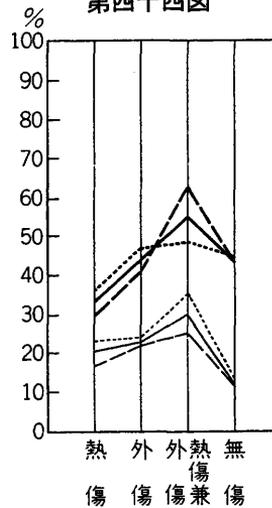
結果..

2)

1)

熱傷兼外傷ニ最も多イ。即チ損傷ガ重篤デアレバアル程出現率ガ大デアル。
ココデモ女ガ男ヨリモ大トナツテキル。

第四十四図



第百十六表 (男、死亡者例)

出現期	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
当日=始マルモノ	7	14.9	2	11.1	1	20.0	0	0	10	14.1
第1週ニ	14	29.8	6	33.3	0	0	0	0	20	28.2
第2週ニ	5	10.6	2	11.1	1	20.0	0	0	8	11.3
第3週ニ	7	14.9	3	16.7	1	20.0	0	0	11	15.5
第4週ニ	3	6.4	4	22.2	0	0	0	0	7	9.9
第2月ニ	1	2.1	1	5.6	0	0	1	100.0	3	4.2
第3月ニ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不詳	10	21.3	0	0	2	40.0	0	0	12	17.0
計	47		18		5		1		71	

第百十七表 (女、死亡者例)

出現期	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
当日=始マルモノ	4	8.7	0	0	0	0	0	0	4	5.4
第1週ニ	21	45.6	7	28.0	1	50.0	0	0	29	39.2
第2週ニ	7	15.2	1	4.0	0	0	0	0	8	10.8
第3週ニ	3	6.5	2	8.0	1	50.0	0	0	6	8.1
第4週ニ	4	8.7	9	36.0	0	0	0	0	13	17.6
第2月ニ	0	0	0	0	0	0	1	100.0	1	1.4
第3月ニ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不詳	7	15.2	6	24.0	0	0	0	0	13	17.6
計	46		25		2		1		74	

第百十八表 (男女合計、死亡者例)

出現期	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
当日=始マルモノ	11	11.8	2	4.7	1	14.3	0	0	14	9.7
第1週ニ	35	37.6	13	30.2	1	14.3	0	0	49	33.8
第2週ニ	12	12.9	3	7.0	1	14.3	0	0	16	11.0
第3週ニ	10	10.8	5	11.6	2	28.6	0	0	17	11.7
第4週ニ	7	7.5	13	30.2	0	0	0	0	20	13.8
第2月ニ	1	1.1	1	2.3	0	0	2	100.0	4	2.7
第3月ニ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不詳	17	18.3	6	14.0	2	28.6	0	0	25	17.2
計	93		43		7		2		145	

結果…第一週ニ現ハレルモノガ最多トナツテキルガ、第二週、第三週ニ来ルモノモ少クナイ。週四週ニ来ルモノモ相当ニ多イ。近距離ニハ早く出現スルモノノ様デアル。

第百十九表 (男、死亡者例)

口内炎種類	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
口内炎	26	55.3	6	33.3	2	40.0	1	100.0	35	49.3
齒齦炎	12	25.6	5	27.8	0	0	0	0	17	23.9
咽喉炎	25	53.2	8	44.4	3	60.0	0	0	36	50.7
扁桃腺炎	14	29.8	5	27.8	0	0	1	100.0	20	28.2
嚙下痛	29	61.7	10	55.6	3	60.0	1	100.0	43	60.6
不詳	3	6.4	1	5.6	0	0	0	0	4	5.6
口内炎総例数	47		18		5		1		71	

第百二十表 (女、死亡者例)

口内炎種類	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
口内炎	26	56.5	9	36.0	1	50.0	1	100.0	37	50.0
齒齦炎	8	17.4	5	20.0	1	50.0	0	0	14	18.9
咽喉炎	28	60.9	11	44.0	2	100.0	1	100.0	42	56.8
扁桃腺炎	15	32.6	9	36.0	0	0	0	0	24	32.4
嚙下痛	24	52.2	13	52.0	2	100.0	0	0	39	52.7
不詳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
口内炎総例数	46		25		2		1		74	

第百二十一表 (男女合計、死亡者例)

口内炎種類	0~1 km		1~1.5		1.5~2		2~3		計	
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
口内炎	52	55.9	15	34.9	3	42.9	2	100.0	72	49.7
齒齦炎	20	21.5	10	23.2	1	14.3	0	0	31	21.4
咽喉炎	53	57.0	19	44.2	5	71.4	1	50.0	78	53.8
扁桃腺炎	29	31.2	14	32.6	0	0	1	50.0	44	30.3
嚙下痛	53	57.0	23	53.5	5	71.4	1	50.0	82	56.5
不詳	3	3.2	1	2.3	0	0	0	0	4	2.7
口内炎総例数	93		43		7		2		145	

結果…コノ統計ハ医師ガ實際ニ診察シテ診断ヲ下シタモノデナイカラ、
 価値ガ少イト思フ。ボンヤリト口内炎トカ、咽喉炎トカ、嚙下痛ト

カ云ツタ素人的ノモノガ高率ヲ示ス。齒齦炎トカ、扁桃腺炎トカ云
 フ學術上ノ診断名ガ少クナツテキルノデモ判ル。

「長崎における原子爆弾災害の統計的観察」の附記

三根 真理子

原爆障害の調査結果は「ミリタリー・サージャン」(Medical Survey of Atomic Bomb Casualties, Milit. Surg. 113: 251-263, 1953)と「こう」雑誌と「核爆発の効果と影響に関する研究」(Research in the effects and influence of the nuclear bomb test explosion, Vol 2: 1501-1519, 1956)と「こう」報告書に掲載されている。この報告書は日本学術会議の放射能影響調査報告刊行委員会により編集されたものである。調査来助教授の報告タイトルは「Medical Survey of Atomic Bomb Casualties」である。この報告書には図二枚と表八枚が掲載されている。原本にある図七十枚、表百八十枚から図一枚と表五十一枚が選択され、かつ分類・併合され図二枚と表八枚に集約されたようである。多くの図表を要約して非常にわかりやすくまとめられている。例えば「Table 6」は被爆距離、遮蔽状況、急性症状の関係を生存者と死亡者についてまとめたものであり、使用した表の数は三十四であった。「Table 6」をグラフ化したものを図1から図5に示す。

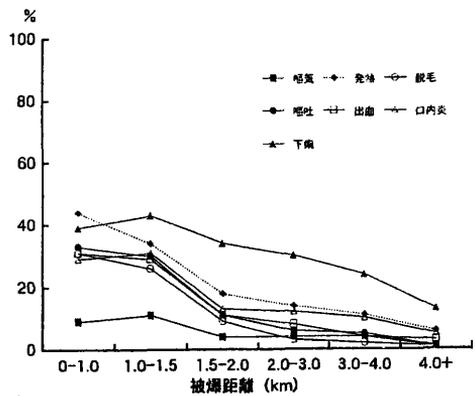


図1. 被爆距離と急性症状 (生存者)

Sirabe R. 1956年より改変

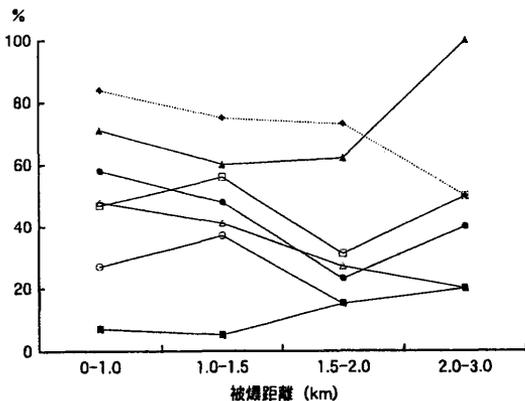


図2. 被爆距離と急性症状 (死亡者)

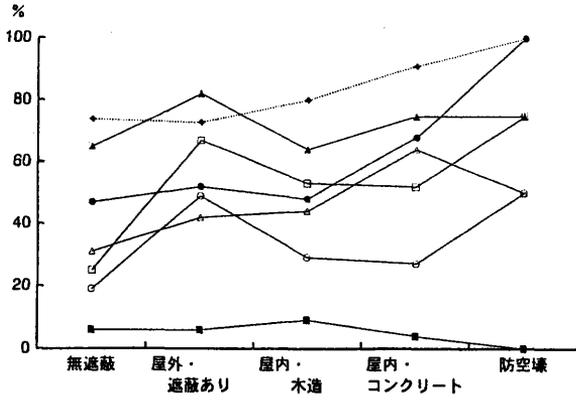


図 4. 遮蔽状況と急性症状 (死亡者)

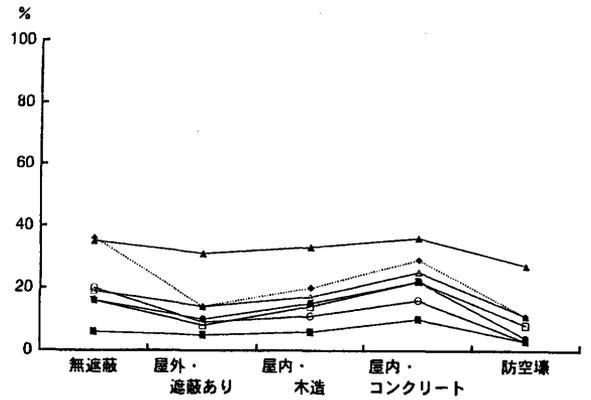


図 3. 遮蔽状況と急性症状 (生存者)

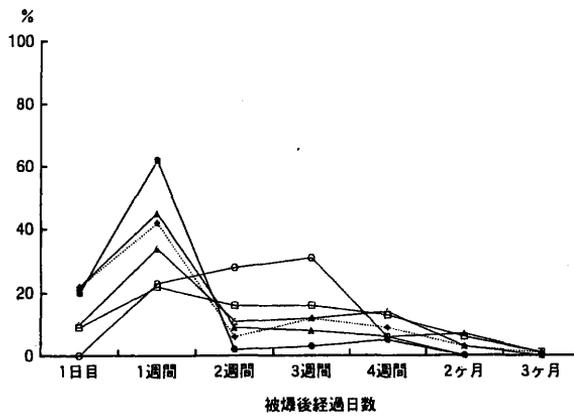


図 5. 急性症状の発生頻度と被爆後経過日数